刑法

東京地方裁判所判事
法學士 滿田寛一君講述

明治大學出版部發行

完

大正
2. 4. 9
購求

刑法講義目次

第一編　總則……一（丁數）

第一章　法例……二

第二章　刑……一二

第三章　刑期計算……三四

第四章　刑ノ執行猶豫……三八

第五章　假出獄……四四

第六章　時效……五一

第七章　犯罪ノ不成立及刑ノ減免……五六

第八章　未遂罪……七七

第九章　併合罪……八三

第十章　累犯……一〇二
第十一章　共犯……一一〇
第十二章　配量減輕……一二二
第十三章　加減例……一二四
第二編　罪……一三〇
第一章　皇室ニ對スル罪……一三一
第二章　內亂ニ關スル罪……一三七
第三章　外患ニ關スル罪……一四五
第四章　國交ニ關スル罪……一六〇
第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪……一七四
第六章　逃走ノ罪……一八一
第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪……一九一
第八章　騷擾ノ罪……一九七
第九章　放火及ヒ失火ノ罪……二〇二
第十章　溢水及ヒ水利ニ關スル罪……二二五
第十一章　往來ヲ妨害スル罪……二三一
第十二章　住居ヲ侵ス罪……二四二
第十三章　秘密ヲ侵ス罪……二四七
第十四章　阿片煙ニ關スル罪……二五一
第十五章　飲料水ニ關スル罪……二五八
第十六章　通貨僞造ノ罪……二六五
第十七章　文書僞造ノ罪……二八〇
第十八章　有價證券僞造ノ罪……三〇三
第十九章　印章僞造ノ罪……三〇八

第二十章　僞證ノ罪……三一九
第二十一章　誣告ノ罪……三二五
第二十二章　猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪……三二八
第二十三章　賭博及ヒ富籤ニ關スル罪……三四五
第二十四章　禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……三五一
第二十五章　瀆職ノ罪……三五七
第二十六章　殺人ノ罪……三六八
第二十七章　傷害ノ罪……三七五
第二十八章　過失傷害ノ罪……三八二
第二十九章　墮胎ノ罪……三八六
第三十章　遺棄ノ罪……三九二
第三十一章　逮捕及ヒ監禁ノ罪……三九七

第三十二章　脅迫ノ罪……三九九
第三十三章　略取及ヒ誘拐ノ罪……四〇四
第三十四章　名譽ニ對スル罪……四一二
第三十五章　信用及ヒ業務ニ對スル罪……四一六
第三十六章　竊盜及ヒ强盜ノ罪……四一九
第三十七章　詐欺及ヒ恐喝ヲ罪……四三二
第三十八章　横領ノ罪……四四〇
第三十九章　贓物ニ關スル罪……四四五
第四十章　毀棄及ヒ隱匿ノ罪……四四九

刑法

東京地方裁判所判事
法學士　滿田寛一君講述

第一編　總則

法ハ犯罪タルヘキ行爲及ヒ之ニ科スヘキ刑罰ヲ規定スル法典ニシテ之ヲ別チテ二編トナス即チ其第一編ニ於テ總則ヲ規定シ第二編ニ於テ各種ノ罪ヲ規定ス』總則トハ刑罰法令一般ニ關スル共通的規定ニシテ獨リ此刑法ノミナラス特別刑法例セハ新聞紙法、酒造稅法、郵便法等ノ如キ刑罰法令ニシテ特ニ明文ヲ以テ此總則ノ適用ヲ除外セサル限リハ凡テ此總則ノ適用ヲ見ルヘキモノナリ而シテ本編ハ更ニ之ヲ別チテ十三章トス即チ第一章法例、第二章刑、第三章期間計算、第四章刑ノ執行猶豫、第五章假出獄、第六章時效、第七章犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免、第八章未遂罪、第九章併合罪、第十章累犯、第十一章共犯、第十二章酌量減輕及ヒ第十三章加減例是レナリ

以下各章ノ下ニ於テ其條項ニ付キ略說スヘシ

第一章　法例

一　一般ニ法例ト云ヘハ法律適用ニ關スル例則ト云フニ同シ故ニ刑法ノ法例ト云ヘハ刑法適用ニ關スル例則ト云フ義ニシテ總則中ノ小總則タルコトヲ意味ス

二　本章ハ舊刑法第一編第一章ニ同シク主トシテ刑法ノ效力ニ付キ規定ス即チ其內容ヲ示セハ(一)刑法ノ人及ヒ場所ニ關スル效力(第一條乃至第四條)(二)外國裁判ノ效力(第五條)(三)新舊二法比照ノ原則(第六條)(四)公務員及ヒ公務所ノ意義(第七條)及ヒ(五)刑法總則ノ他ノ刑罰法令ニ對スル一般的效力(第八條)之ナリ以下順次說明スヘシ

第一條

本法ハ何人ヲ問ハス帝國內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶內ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

本條ハ所謂刑法ノ場所ニ關スル效力ニ付キ規定セルモノヽ一ニシテ舊法ニ見サル新規定ナリ抑〻我統治權ノ及フヘキ我領土及ヒ領海內ニ於ケル犯罪ハ其犯人ノ何レノ國ニ屬スルヲ問ハス凡テ我國法ニ由リ處罰スルニ非サレハ到底我帝國ノ公安ヲ保持スルニ由ナシ是レ本條第一項ノ規定アル所以ナリ然レトモ我帝國領土外ニ在ル帝國船舶特ニ他國ノ領海內ニ於ケル場合ニ付テハ或ハ異說アルヲ免レサルヲ以テ本條第二項ハ我法權ノ之ニ及フヘキコトヲ明定セリ但シ本條規定ノ原則ニ對シ例外アリ左ノ如シ

(甲)　人ニ關スル例外

(1)　國內法ノ關係ニヨル場合

(イ)　天皇及ヒ攝政　天皇ハ國家統治權ノ主體ニシテ攝政ハ天皇ニ代リテ統治權ヲ行使スルモノナレハ法權ノ此二者ニ及ハサルコト當然ナリ(憲法第三條)

(ロ)　帝國議會ノ議員　此不可侵ハ國政ニ關シ忌憚ナク其所信ヲ盡サシメントスル必要ニ出テタルモノニシテ絕對的ニアラス其詳細ハ憲法第五十二條及ヒ第五十三條之ヲ規定ス

(2)　國際法ノ關係ニヨル場合

(イ)　外國君主及ヒ大統領　此不可侵ハ國際禮讓ノ理由ニ基ツク即チ外國君主及大統領ハ皆其國ニ於テハ不可侵者ナレハ各國ニ於テモ亦之ヲ自國ノ主

權者ト同樣ニ不可侵トスルナリ

(ロ)外國使臣公使館員及ヒ領事　此不可侵ノ理由ニ付テ數說アリト雖モ要スルニ外國君主ニ同シク國際間ニ於ケル禮讓ニ由ルモノトス

(ハ)自國ノ承認ヲ經テ入リ來リタル外國軍隊及ヒ軍艦　此二者ハ其屬スル外國主權ノ延長部分ト看做シ不可侵權ノ下ニ立ツモノトセリ

(乙)場所ニ關スル例外

我帝國ノ領土ニ屬スト雖モ特殊ノ關係ニアル臺灣、朝鮮及ヒ樺太ニ付テハ特ニ之ヲ彼地ニ施行スヘキ旨ノ法令ナキ限リハ此刑法ノ適用ナシ

第二條　本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一　第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二　第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三　第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四　第百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

五　第百五十四條、第百五十五條、第百十七條及ヒ第百五十八條ノ罪

六　第百六十二條及ヒ第百六十三條ノ罪

七　第百六十四條乃至第百六十六條ノ罪及ヒ第百六十四條第二項第百六十五條第二項第百六十六條第二項ノ未遂罪

第二條乃至第四條ハ所謂刑法ノ人及ヒ場所ニ關スル效力ニ付テノ規定ニシテ舊刑法ニ見サル新規定ナリ

帝國外ニ於テ行ハレタル犯罪ト雖モ苟クモ帝國ノ重大ナル利益ヲ侵害シタル場合ニ於テハ帝國ニ於テ之ヲ處罰スルニアラサレハ帝國ノ公安ハ保持セラレサルニ至ルヘシ即チ本條ハ此場合ニ於テ處罰スヘキ罪ヲ限定ス故ニ本條列記以外ノ罪ヲ帝國外ニ於テ犯シタル場合ニアリテハ刑法ノ適用ナキコト勿論ナリト雖モ本條列記ノ罪ニ關スルトキハ犯人ノ內外人ヲ區別セサルモノトス

第三條　本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一　第百八條、第百九條第一項ノ罪、第百八條、第百九條第一項ノ例ニ依リ處斷スヘキ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

二　第百十九條ノ罪

三　第百五十九條乃至第百六十一條ノ罪
四　第百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪
五　第百七十六條乃至第百七十九條、第百八十一條及ヒ第百八十四條ノ罪
六　第百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪
七　第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪
八　第二百十四條乃至第二百十六條ノ罪
九　第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪
十　第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪
十一　第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪
十二　第二百三十條ノ罪
十三　第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ第二百四十三條ノ罪
十四　第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪
十五　第二百五十三條ノ罪
十六　第二百五十六條第二項ノ罪

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

本條モ亦所謂刑法ノ人及ヒ場所ニ關スル效力ニ付キ規定セルモノヽ一ニ屬シ其第一項ハ屬人主義ニ則リ第二項ハ保護主義ニ則ル

第一項　抑々帝國臣民ハ帝國ノ内外ニ在ルヲ問ハス常ニ帝國ノ法權ニ服從スヘキモノナルカ故ニ帝國外ニ於ケル帝國臣民ノ犯罪ニ關シテハ理論上帝國刑法ノ適用アリト論セサル可ラスト雖モ事既ニ國外ニ在ルヲ以テ一切ノ犯罪ヲ帝國ニ於テ處罰スヘシトスルカ如キハ其必要以外ニ超越スルコトナキ能ハス故ニ本條第一項ハ其處罰スヘキ罪名ヲ列擧シ以テ適用ノ範圍ヲ明ニシタリ而シテ此場合ニ於テハ其被害者ノ内外人タルヲ區別セス

第二項　本項ハ帝國外ニ於テ外國人カ帝國臣民ニ對シ本條第一項列記ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テモ猶之ヲ處罰スヘキコトヲ規定ス元來帝國外ニ於ケル外國人ノ犯罪ニ對シテハ我法權ノ之ニ及ハサルヲ通例トスト雖モ若シ其被害者カ帝國臣民ニシテ而カモ其被害重大ナル場合ニ於テハ帝國ハ公安上之ヲ不問ニ付スルヲ得サルカ故ニ特ニ本項ニ於テ之ヲ明定セリ從テ其被害者カ外國人ナル場合ハ本項ヲ適用スヘキ限リニアラス

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一 第百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二 第百五十六條ノ罪

三 第百九十三條、第百九十五條第二項、第百九十七條ノ罪及ヒ第百九十五條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

本條モ亦刑法ノ人及ヒ場所ニ對スル效力ニ關スル規定ノ一ニ屬シ帝國外ニ於テ帝國ノ公務員カ職務ニ關シ犯罪シタル場合ニ本法ヲ適用スヘキコトヲ規定ス蓋シ前二條ニ於テ帝國外ニ於ケル犯罪ニ付キ限定的規定ヲ設ケ之ヲ處罰シタルト同一理由ニ基キ帝國外ニ在ル公務員ノ職務上ノ犯罪ニ關シテモ亦處罰スヘキ場合ヲ限定シタルナリ而シテ法文單ニ帝國ノ公務員トアルカ故ニ苟クモ帝國ノ公務員ナル以上ハ其內國人タルト外國人タルトヲ問ハサルモノトス

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタルモノト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ同一犯罪行爲ニ付テ既ニ外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル場合ニ於ケル外國裁判ノ效力及ヒ其刑ノ執行ノ效果ニ付キ規定セリ

前數條ノ規定ノ結果トシテ同一ノ犯罪行爲カ帝國刑法ニヨリテ支配セラルヽト同時ニ外國刑法ニヨリテモ亦支配セラルヽコトアリ得ヘシ此ノ如キ場合ニ於テ既ニ外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタルトキハ如何ニスヘキカ本條ハ此場合ニ於テ帝國ハ更ニ之ヲ處罰スルヲ妨ケスト定ム蓋シ外國ノ裁判ハ其國內ニ於テノミ其效力ヲ有シ我帝國ニ對シテハ何等ノ效力ナシ從テ帝國ハ帝國自衞ノ爲メニ更ニ之ヲ處罰スヘシトナスヲ當然トス然レトモ犯人カ既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタル場合ニ於テモ猶帝國ニ於テ言渡シタル刑ノ全部ヲ執行スルハ往々酷ニ失スルコトアルヘキヲ以テ本條但書ニ於テ此ノ如キ場合ニハ裁判官ヲシテ適宜ノ執行ヲ減輕シ又ハ全部之ヲ免除スルコトヲ得セシメタリ

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

本條ハ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ニ適用スヘキ法律ニ付キ規定ス(舊刑法第三條)

法律ハ其實施以前ニ係レル事實ヲ罪トシテ處罰スルコトヲ得ス是レ所謂法律不遡及ノ原則ナリ然レトモ若シ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタル場合ニ於テハ此原則ニ對シ例外ヲ設ケサルヲ得ス蓋シ新法ニ於テ舊法ノ刑ヲ減輕若シクハ廢止シタル場合ニ於テハ是レ立法者カ舊法ノ刑ヲ科スルヲ不必要ナリト認メタルニ外ナラサルカ故ニ新法ノ刑舊法ノ刑ニ比シ輕キ場合ニ於テハ新法ヲ既往ニ遡ラシメテ之ヲ適用スヘキコトヽシタリ舊刑法モ亦此場合ニ關シ新舊二法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スト規定シアリテ其趣旨ハ本條ニ異ナルコトナシト雖モ新舊二法ノ間ニ介在法アル場合ニ關シ少シク疑義アリシヲ以テ本條ハ單ニ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用スト規定シ以テ犯罪後ニ數度法律變更スルモ中ニ就テ最モ輕キモノヲ適用スヘキコトヲ明ニシタリ

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

本條ハ公務員及ヒ公務所ノ意義ニ付キ規定ス公務員及ヒ公務所ナル術語ハ新刑法ニ於テ創メテ用ヒラレタルモノニシテ犯罪ノ構成要件若クハ加重要件ヲナスヲ以テ本條ニ於テ其意義ヲ明ニシタリ

第一項 本項ハ公務員ノ意義ニ付キ規定ス玆ニ「官吏」トハ法令ニ依リ國家直接ノ政務ヲ管掌スル國家ノ使用人ヲ謂ヒ「公吏」トハ國家直接ノ政務ヲ管掌スルニアラスシテ公共團體ノ政務ヲ管掌スル公共團體ノ使用人ヲ謂ヒ「法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員」トハ法令ニ依リテ國家若クハ公共團體ノ事務ノ處理ニ從フモノヽ謂ナリ而シテ其職員タルニ至リシ原由法令ニ存スル以上ハ其任命ノ形式ニヨリタルト選擧ノ形式ニヨリタルトヲ區別セサルモノトス

第二項 本項ニ於ケル「公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ」トノ規定ヲ文字通リニ解釋スレハ公務所トハ有形的ナル公務員ノ執務ノ場所ヲ指稱スルカ如キ觀アリト雖モ非ナリ公務所ナル觀念ハ之ヲ組織スル人又ハ場所ニ關係ナク國家公力ヲ行使スル公ノ機關ヲ意味ス即チ無形的ノ觀念ナリ故ニ例セハ裁判所、警察署等ト謂フモ之レ有形的ノ建築物ヲ意味スルニアラスシテ判檢事若クハ警察官等カ裁判事務若クハ警察事務ヲ行フ國家機關ヲ意味スルカ如シ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但シ其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニアラス

本條ハ本法總則ノ他ノ法律ニ對スル效力ヲ規定ス(舊刑法第五條)

凡ソ刑罰法ハ之ヲ大別シテ一般法ト特別法トナス一般法トハ一般人民ニ適用アルヘキ刑罰法ニシテ本法即チ之ナリ特別法トハ或ル特別ナル場合ニノミ適用アヘキ刑罰法ニシテ本條ニ所謂他ノ法令之ナリ而シテ特別刑罰法タル新聞紙法、出版法其他ニ於テハ單ニ處罰規定ノミヲ設ケテ總則的規定ヲ缺クカ故ニ本法ハ一般法ノ效力トシテ本法總則ヲ是等特別刑罰法ニモ適用スヘキコトヽシタリ然レトモ元來特殊ノ關係ニ立テル特別刑罰法ナルヲ以テ刑法總則ヲ其儘適用シ得サル事情アルニヨリ諸法令ニ於テ特ニ或ル規定ヲ除外スヘキ旨ヲ規定シアリ例セハ新聞紙法第三十五條、酒造稅法第三十一條等ノ如シ本條但書ハ即チ此ノ如キ場合ニ於テハ本法總則ヲ適用ス可ラサルコトヲ明ニス

第二章　刑

一　刑罰トハ國家カ犯罪ノ制裁トシテ一私人ノ利益ヲ剝奪スルヲ謂フ從來一般ニ行ハレタル觀念ニ從ヘハ刑罰ハ犯罪ニ對スル制裁トシテ國家カ一私人ニ與フル所ノ苦痛ナリトセリ舊派報復主義ノ刑法ノ下ニアリテハ此觀念ハ蓋シ至當ナル可ケンモ新派目的主義ノ刑法ニ在リテハ刑罰ノ目的トスル所ハ必ラスシモ犯人ニ對シテ苦痛ヲ與フルニアラスシテ一ニ犯人ノ匡正ニ存ス從テ之レカ改過遷善ヲ促スノ方法トシテ獨リ犯人ニ苦痛ヲ與フルノミニ止ラス亦之ヲ敎導スルノ手段ヲ採ラサル可ラス加之多數犯人ノ實際ヲ顧ミレハ刑罰ヲ受クルモ毫モ苦痛ヲ感スルナク夫ノ飢餓ニ陷レルモノヽ如キハ却テ自ラ入獄ヲ希フニ至ル而カモ是等ノ者ニ對スル制裁ハ猶且ツ刑罰ニ非ラスト謂フヲ得サルヨリ推考スレハ刑罰ナル觀念中ニ苦痛ナル語ヲ加フルノ要ナク寧ロ其之ヲ除去スルノ勝レルヲ信セントス

更ニ上述セル刑罰ノ意義ヲ分析說明スレハ

(1)　刑法上ノ刑罰ハ國家カ一私人ニ對シテ科スルモノナラサル可ラス換言スレハ刑罰ハ國家ト一私人トノ間ニ於ケル權力關係ニ基ツク制裁ナルコトヲ意味ス故ニ國ト國又ハ一私人ト一私人トノ間ニ在リテハ所謂刑罰ナルモノヽ存在ヲ認容スルヲ得ス

(2)　刑罰ハ法令ニ違反シタル行爲ニ對スル制裁ナラサル可ラサルト同時ニ其違犯カ罪トナル場合ニアラサレハ以テ刑罰ト名ツクルコトヲ得ス民法上ノ損害

賠償權利ノ喪失若シクハ無效宣言等ノ如キモ亦同シク法律違反ノ制裁ニ外ナラスト雖モ刑罰ニ非ラス何トナレハ是等違反ハ刑罰法令ノ違反ニアラサルカ故ニ犯罪ヲ以テ目スヘキニアラサレハナリ從テ若シ一行爲ニシテ一方ニ私法ニ違反シ他方ニ刑罰法令ニ違反シタル場合ニハ之ニ對シ刑罰ヲ科スルト同時ニ民事上ノ損害賠償ヲ命スルコトヲ妨ケサルナリ

(3) 刑罰ハ刑法上ニ於テ所謂刑トシテ規定シタルモノナラサル可ラス廣義ニ於ケル罰ノ實質的方面ヨリ觀察スレハ國家カ官吏ノ違法行爲ニ對シテ科スル懲戒罰、民事上ノ過料ノ如キモ亦罰ナリト雖モ所謂刑罰ニ非ラス刑法上所謂刑罰ナルモノト特ニ形式上刑法ニ於テ所謂「刑」トシテ規定セラレタルモノナラサル可ラス故ニ一違法行爲ニ對シ刑罰ヲ科スルト同時ニ懲戒罰ヲ科スルコトヲ妨ケサルナリ

二 刑罰ハ國家カ罪ヲ犯シタル一私人ニ對シ科スル所ノ制裁ニシテ犯人以外ニ及ハサルヲ本則トス從テ刑事責任ハ民事責任ノ如ク相續人之ヲ繼承スルコトナク又共犯者ノ間ニ於テモ連帶的ニ若クハ分割的ニ其責ヲ負フコトナシ唯例外トシテ法律ハ他人ノ行爲ニ對シ特ニ責任ヲ負ハシムルコトアリ例セハ酒造稅法第三十五條麥酒稅法第十九條醬油稅法第二十五條等ノ如シ

三 凡ソ刑罰トシテ剝奪スヘキ私人ノ利益ハ一ニシテ止マラス往時ニアリテハ刑罰概ネ峻嚴ニシテ其種類モ頗ル夥多ナリシカ文化漸ク進ムニ從ヒテ刑罰漸ク緩和シ遂ニ方今ニ及ヒテハ死刑廢止ヲ實現セル法制ヲ見ルニ至ル要スルニ現時ノ刑罰ハ昔時ニ比スレハ大ニ犯人ノ苦痛ノ程度ヲ減シ刑ノ種類モ亦大ニ減少セラレタリ而シテ本法ニ認メラレタル刑罰ハ生命刑、自由刑及ヒ財產刑ノ三種類ニシテ更ニ之ヲ細別スレハ死刑、懲役、禁錮、拘留、罰金及ヒ科料ノ六ヲ主刑トシ猶附加刑トシテ沒收ヲ認ム

四 犯罪人ニ對シ言渡サレタル刑ノ宣告確定シタル後ニ於テ或ル一定ノ法律上ノ事由ノ發生ニヨリテ刑ノ執行權ノ消滅ヲ來タシ其結果トシテ最早其刑ヲ執行シ得サルニ至ルコトアリ之ヲ稱シテ刑ノ消滅ト云フ而シテ其消滅事由五アリ

(1) 犯人ノ死亡 有罪ノ確定判決ヲ受ケタル者死亡スルトキハ刑ヲ適用セラルヘキ客體消滅スルカ故ニ刑罰モ當然消滅ス古代法ノ如ク遺骸ヲ刑スルコトナシ財產刑ニ付テハ反對ノ規定ヲ設クル佛國立法例ノ如キモノアルモ我刑法ハ之ヲ採ラス

(2) 非常上訴ハ成功 有罪ノ判決確定後ニ於テ猶一定ノ制限内ニ從ヒ非常上告若クハ再審ノ訴ヲナスコトヲ得(刑事訴訟法第二百九十二條、第三百一條及ヒ第三百二條)而シテ若シ此非常上訴成功スレハ一旦確定シタル判決ハ破ラレ其結果トシテ刑罰消滅スルニ至ル

(3) 恩典 茲ニ所謂恩典トハ憲法第十六條ニ規定スル所ノ大赦、特赦及ヒ減刑ノ三ナリ

(イ) 大赦トハ或ル種ノ罪ニ對スル訴追又ハ裁判ヲ廢滅セシムル所ノ大權命令ナリ故ニ此恩典ハ其種ノ罪ノ犯人ニ對シ一般ニ及フヘキモノトス

(ロ) 特赦トハ或ル特定ノ犯人ニ對シ確定セル刑ノ全部ヲ取消ス所ノ大權命令ナリ從テ大赦ノ如ク一般的ナラス之レ特赦ナル稱呼アル所以ナリ

(ハ) 減刑トハ一定ノ犯人ニ對シ確定セル刑ノ一部ヲ取消ス所ノ大權命令ナリ特赦ト異ナル點ハ刑ノ全部ナルトー部ナルトニ在リテ實質ノ差異ニアラス』以上ノ外憲法十六條ニハ復權ナルモノヲ認メアルモ新刑法ニアリテハ能力刑ヲ認メサル結果トシテ公權回復ノ爲メニセル復權ハ全ク其適用ナキコトヽナレリ

(4) 時效 之レ即チ或ル一定ノ期間時ノ經過セルニ由リテ確定セル刑ノ消滅ヲ來タス場合ニシテ舊刑法ニ所謂期滿免除ナリ即チ民法上ノ消滅時效ニ比スヘキ刑ノ時效ナリ

(5) 刑ノ執行猶豫期間ノ滿了 本法ノ規定ニ從ヘハ刑ノ執行猶豫期間ヲ無事ニ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フモノトセラル即チ其效力ハ遡及シテ最初ヨリ刑ノ言渡ナカリシモノト看做サルヽヲ以テ其結果刑ハ消滅スルコトヽナル

五 本章收ムル所實ニ十二ケ條今其内容ヲ細別スレハ(一)刑名(第九條)(二)主刑ノ輕重(第十條)(三)刑ノ執行方法(第十一條)(四)刑ノ範圍(第十二條乃至第十七條)(五)勞役場留置處分(第十八條)(六)沒收(第十九條、第二十條)及ヒ(七)未決拘留日數ノ通算(第二十一條)是ナリ以下各本條ニ付キ其意義ヲ概說スヘシ

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

本條ハ刑名ニ付テ規定ス(舊刑法第六條乃至第十條)

舊刑法ニ於テハ罪ヲ重罪、輕罪及ヒ違警罪ノ三ツニ別チ重罪ノ主刑トシテ死刑、無期徒刑、有期徒刑、無期流刑、有期流刑、重懲役、輕懲役、重禁獄及ヒ輕禁獄ノ九種ヲ認メ

輕罪ノ主刑トシテ重禁錮、輕禁錮及ヒ罰金ノ三種ヲ認メ違警罪ノ主刑トシテ拘留及ヒ科料ノ二種ヲ認メ更ニ附加刑トシテ剝奪公權、停止公權、監視、罰金及ヒ沒收ノ五種アルコトヲ認メタリシカ新刑法ハ大ニ之ヲ減少シ死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ノ六種ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トセリ主刑トハ主トシテ科スヘキ刑ト云フ義ニシテ附加刑トハ主刑ニ附隨シテ科スヘキ從的刑ノ謂ナリ

試ミニ本法ニ認メラレタル刑ヲ圖解スレハ左ノ如シ

- 刑
  - (A) 主刑
    - 自由刑
      - (1) 死刑……生命刑
      - (2) 懲役
      - (3) 禁錮
      - (4) 拘留
    - 財産刑
      - (5) 罰金
      - (6) 科料
  - (B) 附加刑……(7) 沒收

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但シ無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期、有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二ケ以上ノ死刑又ハ長期若シクハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

本條ハ刑ノ輕重ヲ定ムヘキ標準ニ付キ規定ス

刑ノ輕重ヲ明カニスルノ必要ハ多クノ場合ニ於テ之ヲ見ル即チ本條ハ此場合ノ必要ニ應シテ主刑ノ輕重ノ標準ヲ示シタリ舊刑法ハ之ニ關スル規定ヲ缺如セルヨリ實際上ニ疑義ヲ生スルヲ免レサリシヲ以テ本法ハ特ニ之ヲ規定シタルナリ

第一項 本項ハ異種ノ主刑ノ輕重ニ付キ規定シタルモノニシテ其輕重ハ第九條記載ノ順序ニ依ルヘキモノトシタリ故ニ死刑最モ重ク順次ニ懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ト云フ順序トナル然レトモ禁錮及ヒ懲役ニハ無期ト有期トノ二種アルヲ以テ若シ單ニ第九條記載ノ順序ニ依ルヘキモノトスレハ無期禁錮ハ有期懲役ヨリ輕シトセサル可ラサルコトハナリ實際不權衡ナルヘキニヨリ本項但書前段ニ於テ無期禁錮ハ有期懲役ヨリ重シトシ同一理由ニヨリ但書後段ニ於テ若シ有

期禁錮ノ長期カ有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユル場合ニモ禁錮ヲ以テ重シトスル例外ヲ認メタリ

第二項　本項ハ同種ノ主刑ノ輕重ニ付キ規定ス而シテ本項規定ハ自明ノ理ニシテ特ニ之ヲ明示スル要ナキカ如シト雖モ單ニ第一項ノ規定ノミナルトキハ同種ノ刑ヲ科スル場合ニ於テモ輕重ヲ定ムルニ付キ多少ノ疑ヲ生スル虞アルヘキヲ以テ之ヲ明示セルノミ

第三項　同種ノ刑ニシテ而カモ其長期若クハ多額及ヒ其短期若クハ寡額全ク同一ナル場合ニ於テハ前項規定ノ例ニヨリテ其輕重ヲ定ムルコト能ハス故ニ本項ハ此場合ニ於テハ犯罪ノ情狀ニ依リテ其輕重ヲ定ムヘキモノトス從テ其何レカ重キカハ全ク事實承審官ノ專權ニヨリテ定マル

第十一條　死刑ハ監獄內ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘置ス

本條以下第二十六條ニ至ルマテ所謂刑ノ效力ニ關スル規定ニシテ本條ハ死刑ノ執行ニ付キ規定ス(舊刑法第十二條乃至第十六條)

第一項　本項ハ死刑執行ノ方法及ヒ其場所ニ付キ規定シタルモノニシテ監獄內ニ於テ絞首シテ之ヲ行フト限定セルハ舊刑法ノ規定ニ同シ法文ニ「絞首シテ之ヲ執行ス」トアルハ絞首シ生命ヲ絶ツヘキコトヲ明カニシタルモノナルカ故ニ若シ絞首シテ一旦絶命シタル後蘇生スルコトアルモ更ニ再ヒ絞首シテ生命ヲ絶ツヘキナリ而シテ其執行ノ場所ヲ獄內トシタルハ公開ノ場所ニ於テ之レカ執行ヲナストキハ之レヲ目擊シタル者ニ對シ威嚇ヲ與フル結果トシテ犯罪豫防ノ效果ハ多少之アル可ケンモ數々ナレハ遂ニ其慘狀ニ慣レテ復タ死刑ノ恐ルヘキヲ覺ラサルニ至ルノミナラス却テ風俗ヲ害スル虞アルヲ以テナリ

第二項　本項ハ死刑ノ言渡確定シタル者ハ其執行ヲ經ルマテ之ヲ監獄ニ拘置スルモノトナシタルモノニシテ執行ニ至ルマテ犯人ヲ置クヘキ場所ヲ規定シタルニ過キス

第十二條　懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期ハ一月以上十五年以下トス

懲役ハ監獄ニ拘置シ定役ニ服ス

本條ハ懲役ノ種類及ヒ期間竝ニ執行ノ場所及ヒ方法ヲ規定ス

第一項　本項ハ懲役ノ種類及ヒ其期間ヲ定メ懲役ハ之ヲ無期及ヒ有期ノ二種トナシ有期懲役ハ之ヲ一月以上十五年以下トシ此範圍內ニ於テ各本條ニ於テ其長

期及ヒ短期ヲ定ムルコトヽシタリ故ニ各本條ニ於テ刑期ヲ定ムルニ當リ單ニ何年以下又ハ何年以上ノ有期懲役ニ處ストアルハ其短期ハ一月ニシテ其長期ハ十五年ヲ指シタルモノト解スヘキナリ而シテ有期懲役ノ長期ヲ十五年トシタルハ之ヲ數十年ノ長キモノトスレハ其結果實際上無期刑ニ處セラレタルト異ナルコトナキヲ以テナリ

第二項 本項ハ懲役ノ執行方法及ヒ場所ヲ定ム懲役ハ自由刑ノ一種ナルヲ以テ之ヲ監獄ニ拘置シテ其自由ヲ束縛シ且ツ一定ノ勞働ニ服スヘキコトヲ强制ス蓋シ就業ノ良慣習ヲ馴致シ以テ出獄後ノ生活ニ資シ犯罪ヲ再三ナラシメサラントスルニアリ

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期ハ一月以上十五年以下トス

禁錮ハ監獄ニ拘置ス

本條ハ禁錮ノ種類、期間、執行ノ場所及ヒ其方法ニ付キ規定ス

第一項 本項ハ禁錮ノ種類及ヒ期間ヲ定メ之ヲ分チテ無期及ヒ有期トナシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トナシタルコト前條第一項ノ規定ニ同シ

第二項 本項ハ禁錮ノ執行ノ場所及ヒ方法ニ付キ規定ス禁錮モ亦自由刑ノ一種ナルカ故ニ懲役ニ同シク之ヲ監獄内ニ拘置シテ其自由ヲ拘束スルモ懲役ノ如ク一定ノ勞役ニ服セシメス蓋シ此種ノ刑ヲ科スヘキ犯人ニ對シテハ就業ノ良慣習ヲ養成スルノ要ナキヲ以テナリ

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

本條ハ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重シ若クハ之ヲ減輕スヘキ場合ニ於ケル刑期範圍ニ付キ規定ス舊刑法第七十條、第七十一條)

前二條ノ規定ニヨレハ有期ノ懲役又ハ禁錮ハ孰レモ一月以上十五年以下ナリ然レトモ法律上加重又ハ減輕ノ事由アル場合ニ於テハ此範圍ヲ伸縮スルノ要アルヘキカ故ニ本條ハ之ヲ加重スヘキ場合ニ於テハ一月以上二十年以下ノ範圍内ニ於テ處斷シ得ヘク之ヲ減輕スヘキ場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得セシメタリ而シテ法律上加重スヘキ場合ハ累犯加重及ヒ併合罪ハ加重ノ二種ニシテ減輕スヘキ場合ハ所謂法律上ハ減輕(未遂及從犯等及ヒ裁判上ハ減輕酌量減輕)ノ二種ナリトス

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但シ之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下

ニ降スコトヲ得

本條ハ罰金ノ寡額ニ付キ規定ス(舊刑法第二十六條第七十一條)

舊刑法ニ於テハ罰金ハ二圓以上トナシタリシモ本法ハ之ヲ二十圓以上ニ改メタリ即チ罰金ノ法定最下額ハ二十圓ニシテ法定ノ最高額ナルモノナシト雖モ第二編ノ各本條ニ於テハ更ニ右範圍内ニ就キ其多寡ヲ定メアルコトハ懲役、禁錮ノ刑ニ於ケルト相同シ而シテ罰金ニ付テモ減輕ノ事由アルトキハ二十圓以下ニ降スコトヲ得セシメサル可ラス、是レ本條但書ノ規定アル所以ナリ

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘置ス

本條ハ拘留ノ期間、其執行方法及ヒ場所ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二十八條)

拘留ノ期間ハ一日以上三十日未滿トス三十日未滿ト云フハ三十日ヲ含マス舊刑法ノ十日以下ナリシニ比シ長期延長セラレタリ而シテ拘置ニ付テハ法律上加重ノ場合ナシ即チ累犯ノ場合ニ於テモ其刑ヲ加重スルコトナク併合罪ノ場合ニ於テハ常ニ之ヲ併科ス又第十四條末段ノ如キ減輕ニ關スル規定ナキ結果トシテ拘留ハ一日以下ニ降ルコトナシ

拘留ハ拘置場ニ拘置シ其自由ヲ拘束スルニヨリテ之ヲ執行スト雖モ懲役刑ニ於ケルカ如ク定役ニ服セシメス蓋シ罪質輕微ニシテ其必要ナク又定役ノ目的ヲ達シ得ヘカラサルニ由ルモノナリ

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

本條ハ科料ノ多寡ニ付キ規定ス(舊刑法第二十九條)

既ニ本法ハ第十五條ニ於テ罰金刑ノ金額ヲ二十圓ト規定シタルカ故ニ比較的輕微ナル犯罪ニ科スヘキ科料ハ之ヲ二十圓未滿トスヘキコト當然ナリ二十圓未滿ト云フハ二十圓ヲ含マサルコト既ニ前條ニ付テ云ヘルニ同シク又其加重及ヒ減輕ニ關シテモ前條ニ同シキヲ以テ再説セス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ金額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス』

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ

留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

本條ハ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ニ付キ規定ス(舊刑法第二十七條、第三十條)

元來罰金及ヒ科料ハ金錢ヲ徵收スルヲ目的トスル刑罰ナルカ故ニ若シ犯人無資力ナルトキハ其目的ヲ達スルコト能ハス然レトモ一旦刑ヲ言渡シタル以上ハ其執行ハ全然之ヲ抛擲シ去ルヘキニアラス此場合ニ處スル法制二アリ即チ第一方法ハ舊刑法ニ認メラレタル所謂換刑處分ナレトモ資力ナキカ爲メニ自由刑ニ處セラルヽハ不當ナルノミナラス罰金本來ノ趣旨ヲ沒却スルヲ以テ本法ハ第二方法トシテ犯人ヲ勞役場ニ留置シテ其自由ヲ制限シ情況ニヨリ勞働ニ服セシメ其得タル勞銀ヲ以テ罰金又ハ科料ノ幾分ニ充ツルコトヽシタリ從テ勞役場留置ハ自由刑タル懲役、禁錮ト同一視スヘカラサルコト勿論ナリ

第一項、本項ハ罰金完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定メタルモノニシテ其期間ヲ一日以上一年以下ト制限ス故ニ如何ニ多額ノ罰金ニ處セラレタル場合ニ於テモ一年ヲ超ユルコトヲ許サス法文ニ「完納スルコト能ハサル者云々」トアルヲ以テ能不能ヲ犯人ノ自由ニ委スルナク絶對的無資力ノ場合ニ限ルヘキモノト解ス

第二項、本項ハ科料完納不能ノ場合ニ於ケル勞役場留置期間ヲ定メ其期間ヲ一日以上三十日以下ニ制限ス本法ハ舊刑法ニ比シ科料ノ範圍ヲ擴大シタル結果トシテ留置期間モ亦自ラ舊法ニ比シ延長セラレタリ

第三項、本項ハ科料ヲ併科スル場合ニ於ケル留置期間ノ限度ヲ定ム蓋シ科料ハ之ヲ併科ス(刑法第五十三條)從テ若シ併科セラレタル場合ニ各科料ニ付キ留置期間ヲ定ムルトキハ時ニ或ハ不當ニ長キニ亘ルコトアルヘキヲ以テ本項ニ於テ之ヲ制限シ通計六十日ヲ超ユルコトナカラシメタリ

第四項、本項ハ裁判所カ罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ留置期間ヲ定メテ之ヲ言渡スヘキコトヲ定ム即チ罰金又ハ科料ヲ言渡スヘキ判決ニ於

テ留置期間ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス而シテ舊刑法ハ罰金一圓ヲ一日ニ打算シタルモ本法ハ此制限ヲ設ケス故ニ裁判所ハ金額ニ應シテ適宜ニ留置日數ヲ定メ得ヘキナリ

第五項 本項ハ留置處分執行ノ猶豫期間ヲ定メタルモノニシテ罰金ニ付テハ裁判確定後三十日、科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ之カ執行ヲナシ得サルモノトセリ蓋シ留置處分ハ止ムヲ得サルニ出テタル手段ナルカ故ニ法律ハ成ルヘク犯人ヲシテ金錢ヲ納メシメントスルニアリ然レトモ犯人無資力ニシテ且ツ本人ノ承諾アル場合ニ於テハ其期間ノ經過ヲ待ツノ要ナケレハ直ニ之ヲ執行シ得ルモノトセリ

第六項 本項ハ罰金又ハ科料ノ一部分ヲ納メタル場合ニ關スル規定ニシテ若シ留置前ニ於テ犯人カ罰金又ハ科料ノ一部分ヲ納メタルトキハ言渡サレタル金額ト留置日數トノ割合ニ應シテ其納付金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ殘餘日數ヲ留置スヘキモノト定ム舊法ノ下ニアリテハ此場合如何ニ計算スヘキカニ付キ疑義アリシヲ以テ本法ハ按分比例的ニ計算控除シテ執行スヘキコトヲ明示セリ

第七項 本項ハ留置期間内即チ留置處分中ニ罰金又ハ科料ヲ納メタル場合ニ關スル規定ニシテ此場合ニ於テハ前項ノ割合ヲ以テ計算シテ其納付金ヲ以テ留置ノ殘日數ニ充ツヘキモノトセリ例セハ三十圓ノ罰金ニ處セラレタル者三十日ノ留置ヲ言渡サレ其執行中十圓ヲ納付シタリトセハ三十圓ニ對スル三十日ノ比例ヲ以テ十圓ニ相當スル十日ヲ控除スヘキカ故ニ二十日留置スレハ可ナルカ如シ」

第八項 本項ハ計算上端數ヲ生シタル場合ニ付キ定ム即チ前二項ノ規定ニ從ヒ按分比例的ニ計算スヘキカ故ニ時ニ或ハ納メントスル金額ニシテ留置一日ノ割合ニ充タサル端數ヲ生スルコトアルヘシ此場合ニ於テ其端數トナルヘキ部分ノ金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得サルモノトス蓋シ此ノ如キ端數ヲ納メシムルトキハ之カ執行ニ困難ヲ見ルヘキカ故ナリ

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一 犯罪行爲ヲ組成シタル物

二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

本條ハ沒收ニ關スル規定ナリ(舊刑法第四十三條第四十四條)

第一項　本項ハ附加刑トシテ沒收シ得ヘキ物件ニ付キ規定シタルモノニシテ即チ本法ニ沒收シ得ヘキハ第一號乃至第三號ニ該當セル物件ニ限ル故ニ之ニ該當セサル物件ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス法文ニ沒收スルコトヲ得トアルヲ以テ本項該當ノ物件ト雖モ必ラスシモ常ニ沒收スルコトヲ要セス其取捨ハ一ニ裁判所ノ自由ニ委シタリ蓋シ舊法ノ如ク必ラス沒收スヘシトナストキハ畢竟必要ナキ物ヲモ沒收スルコトヽナルノ結果徒ラニ無用ノ手數ヲ增スノミナラス輕罪ナル犯罪ニ關シ多大ナル價格ヲ有スル物ヲモ沒收セサル可ラサルニ至リ頗ル不當ノ結果ヲ生スルコトアルヘキヲ以テナリ

第一號　犯罪行爲ヲ組成シタル物　トハ犯罪ノ構成ニ關シ法律上必要ナル物件ニシテ所謂罪體ナリ即チ本號ニ屬スヘキ物件ハ例セハ賭博罪ニ於ケル賭錢、阿片煙罪ニ於ケル阿片煙等ノ如ク常ニ法律ニ於テ之ヲ指示シタルモノナラサル可ラス故ニ犯罪ノ目的物トハ之ヲ區別スルコトヲ要ス從テ阿片煙ノ如キモ阿片煙罪ニ關シテハ罪體タルヘキモ强竊盜等ノ目的物トナリタル場合ニ於テハ本號ヲ以テ論スヘキニアラサルナリ

第二號　犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物　トハ犯人カ罪ヲ犯スニ付キ故意ニ直接使用シ若クハ使用セントシタル物件ヲ謂フ從テ故意ヲ缺ケル過失罪ニ關シテハ所謂供用物件ナシトスルヲ通說トス故ニ人ヲ殺害スル爲メニ用ヰタル兇器(供シタル物)若クハ殺害ノ目的ヲ以テ準備シタル兇器(供セントシタル物)ノ如キハ之ヲ沒收シ得ヘシト雖モ過失傷害罪ニ於ケル自轉車ノ如キハ本號ノ適用ヲ受ケサルモノトス

第三號　犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物　「犯罪行爲ヨリ生シタル物」トハ其原由タル產出行爲カ犯罪タル場合ニ於ケル物件ヲ謂フ從テ產出行爲タル犯罪ノ以前ニハ曾テ存在セス犯罪行爲ニ因リテ初メテ現出スルニ至リシモノニシテ例セハ文書僞造罪ニ於ケル僞造文書ノ如キ之ニ屬ス又「犯罪行爲ニ因リテ得タル物」トハ犯罪行爲以前ニ於テ既ニ存在セル物ヲ犯罪行爲ニ因リテ直接ニ犯人カ取得シタル物件ヲ謂フ犯人カ直接ニ犯罪ニ因リテ得タルコトヲ要スルカ故ニ之ヲ交換若クハ賣買シテ得タル代償物ニ及ハス故ニ例セハ强竊盜ノ盜奪品ハ本號ノ物件ニ屬スヘキモ之ヲ賣却シテ得タル金錢等ニ對シテハ本號ノ適用ナキカ如シ

第二項　本項ハ沒收スヘキ物件ハ犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ルヘキコト

ヲ定ム蓋シ縱令前項ニ該當スヘキ物件ナリト雖モ他ニ之カ所有者等アル場合ニモ猶之ヲ沒收シ得ヘキモノトセハ其結果犯人以外ノ者ノ權利ヲ侵害スルニ至ルヘキヲ以テナリ而シテ玆ニ所謂「犯人以外ノ者ニ屬セサル」トハ其物件ニ關シ犯人以外ノ者カ所有權其他ノ權利ヲ有セサル場合ヲ謂フ從テ犯人以外ノ者ニ屬セサルト云フハ結局(一)物件カ犯人自身ニ屬スル場合(二)無主物ノ場合(所有者不明ノ場合ヲモ含ム)及ヒ(三)法禁物ノ場合是ナリ但シ(三)ノ場合ニ付テハ異論アルコトヲ注意スヘシ

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

本條ハ拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ對スル沒收ニ付キ規定ス

元來拘留又ハ科料ヲ科スヘキ罪ハ輕微ナルヲ以テ此等ノ罪ニ付テハ常ニ沒收例ヲ適用スルノ要ナキノミナラス若シ之ヲ適用スヘキモノトセハ却テ不權衡ナル結果ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ本法ハ原則トシテ沒收ヲ附加セサルコトヽシ只例外トシテ特別規定アル場合ニ之ヲ附加スヘキモノトシタリ而シテ法文ハ拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ト明言スルヲ以テ本條原則ノ適用ヲ見ルヘキ罪ハ其法定刑カ唯拘留又ハ科料ノミニ限ラレタルコトヲ要スルカ故ニ法律カ他ノ懲役若クハ罰金刑ト拘留又ハ科料トノ選擇刑ヲ定メアル場合ニ於テハ縱令拘留又ハ科料ヲ選擇處分スヘキトキト雖モ本條ヲ適用スルコトヲ得サルモノナリト解ス

此ノ如ク拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ沒收ヲ附加セサルコトヲ原則トスト雖モ前條第一項第一號ニ記載シタル物即チ犯罪行爲ヲ組成シタル物ハ元來法律カ物其レ自體ノ存在ヲ禁止シタルモノナルカ故ニ斯カル物ハ犯罪ノ輕重ニ論ナク之ヲ沒收スヘキコト當然ナリ是レ本條但書ノ存スル所以ナリ

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

本條ハ未決拘留日數ノ加算ニ關スル規定ナリ(舊刑法第五十一條)

元來未決拘留ハ治罪ノ目的ノ爲メニセル必要手段ナルヲ以テ其性質刑罰ニ非サルコト勿論ナリト雖犯人ノ自由ヲ拘束スル點ニ於テハ刑ノ執行ト殆ント相似タルモノアルノミナラス時ニ或ハ犯人ノ責ニ歸ス可ラサル諸多ノ事由ニヨリテ空シク長日月ニ亘リ拘禁セラルヽコトアルヘキカ故ニ其事情ノ如何ニ由リテハ之ヲ本刑ニ通入スルヲ至當ナリトスル場合ナキニアラス然レトモ之レカ事情ノ如

何ハ一ニ事實問題ナルカ故ニ之ヲ算入スヘキ場合ヲ法律ニ限定スルヨリハ寧ロ之ヲ事實承審官ノ自由裁量トスル方適當ナルヲ以テ本法ハ裁判所ヲシテ其事情ノ如何ニ從ヒ未決拘留ノ全部又ハ一部ヲ本刑ニ通算スルコトヲ得セシメタリ

第三章　期間計算

一　本章ハ刑法上ニ於ケル期間ノ計算ニ關スル準則ヲ規定シタルモノニシテ雷ニ自由刑ノ刑期計算ノミナラス時效期間ノ計算モ亦此規定ニ依據スヘキモノトス

二　本章ハ舊刑法第一編第二章第五節刑期計算ト題スル規定ヲ改正シタルモノニシテ期間計算ノ基準ニ關シ舊法ノ採用シタル人爲的計算法ヲ排シテ民法ニ同シク曆法的計算法ニ據リタル外舊法ノ複雜ナル規定ヲ削除シタル結果トシテ其條數ヲ半減シタリ

三　即チ本章規定スル所僅ニ三條、其内容ヲ別テハ(一)期間計算ノ基準(第二十二條)(二)刑期起算點(第二十三條)及ヒ(三)受刑初日ノ效力並ニ放免ノ時期(第二十四條)是ナリ左ニ各本條ニ付キ略說スヘシ

第二十二條　期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

本條ハ期間計算ノ基準ニ付キ規定ス(舊刑法第四十九條第一項)

舊刑法ニ於テハ一月ト稱スルハ三十日ナリト規定シ人爲的計算法ヲ採用シタレトモ既ニ民法ニ於テ曆ニ從フコトヲ定メアルニ拘ラス特ニ刑法ニ於テ期間計算ニ異ナル方法ヲ用ユル必要ナキヲ以テ本法モ民法ニ同シク曆法的計算法ニ據ルヘキモノトシタリ從テ月ニ大小ノ區別アリ年ニ正閏ノ差異アリト雖モ期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆法ニ從ヒテ計算スヘキモノトス故ニ例セハ二月一日ニ懲役一月ニ處セラレタルモノアリトセハ二月二十八日ヲ以テ滿了スヘク又明治四十四年十一月一日ニ三年ノ刑ニ處セラレタル者アリトセハ明治四十七年十月三十一日ヲ以テ滿了スヘキカ如シ

第二十三條　刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

本條ハ刑期起算點ニ付キ規定ス(舊刑法第五十一條、第五十二條)

第一項　本項ハ刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキコトヲ定ム然リ而シテ裁判

確定ノ日ハ各審級ニヨリ同シカラス即チ第一審裁判ハ其控訴期間タル五日ヲ經テ確定シ第二審裁判ハ上告期間タル三日ヲ經テ確定シ第三審裁判ハ其言渡ト同時ニ確定ス此ノ如ク裁判確定シタルトキハ刑期ハ此確定シタル日ヨリ起算スヘキモノトス舊法ハ此點ニ付キ裁判宣告ノ日ヨリ起算スヘキモノトシ特ニ上訴アリタル場合ニ若シ上訴成功セシトキハ前判ヨリ後判アリタル迄ノ日數ヲ刑期ニ算入スルコトヽナシタル結果犯人ハ萬一ヲ僥倖シテ妄ニ上訴ヲ提起スルノ弊アリシモ本法ハ裁判確定ノ日ヨリ刑期ヲ起算スルコトヽシタルヨリ縱令手續等ノ微瑕ニ因リ上訴成功スルモ爲メニ犯人ハ上訴裁判ニ至ルマテノ未決期間ヲ當然利スルコトヲ得サルニ至レリ

第二項 本項ハ拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セサルコトヲ定ム既ニ前項ニ於テ刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スルコトヽ定メラレタル結果トシテ若シ本項ノ規定ナキ以上ハ裁判確定ニ拘禁セラレサル日數ヲモ刑期ニ算入スヘキコトヽナリテ不當ノ結果ヲ生スヘキヲ以テ本項ニ於テ犯人カ逃走シテ縛ニ就カサル場合又ハ保釋若クハ責付等ニヨリテ實際拘禁セラレサル日數ヲ除外スヘキモノトシタリ

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時效期間ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

本條ハ受刑ノ初日ノ效力及ヒ刑期終了ノ日ニ付キ規定ス(舊刑法第四十九條第二項)

第一項 本項ハ受刑ノ初日ハ實際何時ニ初マレルニ拘ラス之ヲ全一日トシテ刑期ニ算入スヘキコトヲ規定ス前條第一項ニ於テ刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算スヘキモノト規定セラレアルカ故ニ既ニ被刑人カ拘禁セラレタル場合ニ於テハ殆ント本項規定ノ必要ナキカ如シト雖モ上告裁判ハ其言渡ト同時ニ確定スヘキヲ以テ其言渡アリタル時間ノ如何ニヨリ受刑ノ初日ニ於ケル時間全一日ニ足ラサルコトアルヘキノミナラス殊ニ被刑人カ不拘留ノ場合ニ於テハ受刑ノ初日ニ於ケル時間ハ全一日ニ充タサルコト多カルヘキカ故ニ特ニ本項ニ於テ初日ハ時間ノ長短ヲ論セス全一日トシテ之ヲ刑期ニ算入スヘキコトヲ明示シタリ

以上ハ刑ヲ執行スヘキ場合ニ於ケル主刑ノ計算ニ關スル規定ナルモ時效期間ノ計算ニ付テモ亦同樣ニ規定スルノ要アルヲ以テ本項末段ニ於テ時效期間ノ計算

ニ付テモ同一ノ計算方法ニ從フヘキコトヲ定メラレタリ

第二項　本項ハ放免ノ時期ニ付キ規定シタルモノニシテ放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フヘキモノトシタリ蓋シ本項規定ハ全ク便宜的ノモノナリ純理上ヨリ云ヘハ刑期滿了スレハ即時放免スヘキコト當然ナルモ斯クテハ實際上夜間ニ放免スヘキコトヽナリテ大ニ不便ヲ生スヘキヲ以テナリ

第四章　刑ノ執行猶豫

一　刑ノ執行猶豫ニ關スル法制ハ實ニ輓近ニ至リテ歐米諸國法ノ採用スル所タリ抑刑ノ目的ハ犯人ヲ匡正シ以テ犯罪ヲ防止スルニアルコト既ニ前述セル如シトセハ總テノ犯人ハ擧テ之ヲ牢獄ニ投スル必要ナキノミナラス却テ或ル種ノ犯人ニ至リテハ之カ爲メ自暴自棄ニ陷リ剩サヘ倍々獄内ノ惡風ニ感染シ遂ニ不可治ノ犯人ト爲リ終ハルノ虞ナシトセス然レトモ犯罪必罰ハ國家公安ヲ維持スル必要ニ出テタル例外ナキ刑法上ノ大原則ナルヲ以テ如上ノ犯人ト雖モ之ヲ不問ニ付スルコトヲ得ス從テ此種ノ犯人ニ對シテハ他ニ其途ヲ講セサルヘカラス是ニ於テカ近時文明國ノ立法例ハ初犯微罪ニシテ之ヲ社會ニ放置スルモ再犯ノ虞ナシト認メラルヽ場合ニ於テハ一旦刑ヲ言渡スモ一定ノ期間内其刑ノ執行ヲ猶豫シ罪刑免除ノ恩典ヲ以テ其改悛ヲ奬勵シ其改悛ノ望ムヘカラサルニ至リテ初メテ其刑ヲ執行スルモノトシ恩威ノ併行ニヨリテ犯人ノ自新ヲ促カシ獄内ノ惡風ニ感染セシメスシテ以テ刑罰ノ目的ヲ達セシメントスルニ至レリ是レ即チ所謂刑ノ執行猶豫ニ關スル制度ニシテ其性質上罰金刑以下ニ及ハサルコト別ニ多言ヲ要セサルナリ

二　我舊刑法ニハ之ニ關スル規定ナク別ニ單行法(明治三十八年法律第七十號)ヲ以テ極メテ狹マキ範圍ニ於テ之レカ效果ニ就キ試ミシカ本法ハ更ニ其範圍ヲ擴大シテ其規定ヲ修補シ以テ本章規定ヲ設クルニ至レリ

三　本章收ムル所僅ニ三條而シテ之ヲ分別スレハ(一)刑ノ執行猶豫ノ條件(第二十五條)(二)刑ノ執行猶豫ノ取消(第二十六條)及ヒ(三)刑ノ執行猶豫ノ效力(第二十七條)是ナリ左ニ順次各本條ニ就キ略說スヘシ

第二十五條　左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一、前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二、前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

本條ハ刑ノ執行猶豫ヲ與フヘキ場合ノ要件及ヒ其期間ニ付キ規定ス(明治三十八年法律第七十號第一條)

前述セルカ如ク刑ノ執行猶豫ノ制度ハ輓近ニ行ハレタルモノニシテ今猶試驗期ニ屬スルヲ以テ各國法共ニ其適用ノ範圍ヲ限定シアリ而シテ本法ニ從ヘハ刑ノ執行猶豫ヲ言渡スニハ左ノ二條件ヲ具備セサル可ラス

(一) 二、年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノナルコト　元來此制度ハ短期ノ自由刑ニ處セラレタル者ニ對スル必要ヨリ起リタルモノナルカ故ニ法律ニ於テ之レカ適用ヲ受クヘキ範圍ヲ明定スルノ要アリ而シテ本法ハ之ヲ二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノニ限定ス舊法ノ一年ナルニ比シ倍加セラレタルヲ見ル

(二) 本條第一號及ヒ第二號ハ一ニ該當スルモノナルコト　縱令二年以下ノ自由刑ニ處スヘキモノト雖モ曾テ一度處刑セラレタルコトアル者ニ對シテハ此恩典ヲ與フルノ限ニ在ラサルカ故ニ本條第一號ハ前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者タルコトヲ要ストセリ然レトモ縱令前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアル者ト雖モ改悛スルコト既ニ久シキ者ハ之ヲ第一號記載ノ者ト同一視スルモ可ナリトシ第二號ニ於テ第一號ノ除外例ヲ設ケ前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者ニ對シテモ亦此恩典ヲ付與シ得ヘキモノトセリ而シテ法文明カニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノトアルヲ以テ罰金以下ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ妨ケナク又刑ノ宣告アルトキハ其執行ノ有無ヲ論セサルモノト解ス

(三) 犯情刑ノ執行猶豫ヲ與フルニ足ルヘキコト　以上第一、第二ノ要件ヲ具備スルモノト雖モ必ラスシモ常ニ刑ノ執行猶豫ヲ與フヘキ限リニアラス裁判所ハ諸多ノ事情ニ鑑ミ猶豫ヲ與フルモ差支ナシト認メタル場合ニアラサレハ之カ言渡ヲ爲スヘキニアラス即チ法文ニ情狀ニ因リ其執行ヲ猶豫スルコトヲ得トアルハ本要件ヲ明ニスルト同時ニ裁判所ニ自由裁量ノ權限ヲ與ヘタルモノナリ而シテ其言渡手續ニ付テハ刑法施行法之ヲ規定ス(同法第五十四條)

右ノ三要件ヲ具備セルトキハ一年乃至五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一、猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二、猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

本條ハ刑ノ執行猶豫ノ取消ニ關シ規定ス(前同法第六條)

元來刑ノ執行猶豫ナル制度ハ非常ナル恩典ナルヲ以テ一旦之ヲ言渡シタル後ニ至リテモ猶此恩典ヲ與フルニ足ラサルモノナルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ之ヲ剝奪スヘキコト當然ナリ而シテ其場合三アリ左ノ如シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ 猶豫ノ期間内ニアリナカラ改悛セスシテ更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ノ如キハ既ニ此恩典ニ浴セシメ置クヘキニアラサルヲ以テ第一號ニ於テ之ヲ規定ス、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトヲ要スルカ故ニ罰金刑以下ノ刑ニ處セラレタル場合ハ影響ナシ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ 即チ猶豫言渡ノ當時ニ於テ其以前ニ犯シタル餘罪ヲ包藏シテ言渡ヲ受ケタル者後ニ至リ發覺シテ更ニ其餘罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ前條ニ所謂前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ナリト云フヲ得スト雖モ猶之レト同一視スヘキ程ノ者ナルヲ以テ此場合ニモ猶豫ノ言渡ヲ取消スヲ至當ナリトシ第二號ニ於テ之ヲ規定シタリ

三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルコト 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年ヲ經過セサル者ハ前條ノ規定ニヨリ猶豫ノ恩典ニ浴スヘキ資格ヲ缺ク然ルニ實際ニアリテハ裁判ノ當時前科ヲ包藏シ初犯者トシテ處罰セラレテ此恩典ヲ受ケシ者後ニ至リテ累犯者ナルコトヲ發覺スル場合往々ニシテ之アリ此場合若シ其前科ニシテ禁錮以上ニシテ而カモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年ヲ經過セサルモノナルトキハ此恩典ヲ剝奪スヘキコト至

當ナルヲ以テ第三號ニ於テ之ヲ規定シタリ

法文ニ取消ス可シトアルモ裁判所自ラ進ンテ之ヲ取消スニアラス檢事ノ請求ヲ俟チテ後決定ヲ以テ之カ裁判ヲ爲スヘキナリ(刑法施行法第五十六條參照)

第二十七條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルヽコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

本條ハ刑ノ執行猶豫ノ效力ニ付キ規定ス(前同法第九條)

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルヽコトナクシテ其期間ヲ無事ニ經過シタル場合ノ效果ニ付キ舊法ハ單ニ言渡サレタル刑ノ免除ヲ得ルニ過キサルモノトシタル結果縱シ其刑ハ免除セラレタルニセヨ法律上ハ終身禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルモノトシテ取扱ハレサルヘカラサリシカ本法ハ更ニ一歩ヲ進メテ刑ノ言渡其モノヲ無效トナスカ故ニ法律上曾テ刑ニ處セラレタルコトナキ結果トナリ從テ選擧權被選擧權等ノ如キ諸資格ニ影響ナキコトヽナルナリ

第五章 假出獄

一 假出獄トハ尙ホ未タ言渡サレタル刑期ヲ終ラサル囚人ヲ假リニ或ル條件ノ下ニ出獄セシメ自由ノ生活ヲ爲サシムル制度ニシテ懲役又ハ禁錮刑ニ對スル獄外ニ於ケル執行方法ナリト云フヲ得ヘシ故ニ假出獄ハ所謂減刑ニ非サルコト勿論ナリト雖モ假出獄中其處分ヲ取消サレサルトキハ減刑セラレタルト同樣ナル效果ヲ生ス

二 故ニ本制度ヲ設ケタル立法理由モ結局左ノ二ヲ出テス

(1) 假出獄ハ囚人ヲシテ過ヲ改メテ善ニ遷ラシムルコトヲ得蓋シ囚人ハ一日モ速ニ出獄シテ自由ノ身タランコトヲ希ハサルハナシ法律ハ此希望ヲ利用シテ良ク獄則ヲ遵守シ眞ニ改悛ノ實ヲ擧ケタルモノニ對シテハ刑期內ト雖モ一定ノ條件ノ下ニ之ヲ假リニ出獄セシメ得ルコトヲ定メ以テ之ニ其自新ヲ奬勵スルナリ

(2) 假出獄ハ獄舍生活ヨリ轉シテ普通生活ニ移ルノ豫備タルヲ得囚人出獄シテ急遽ニ自由ヲ得ルトキハ拘禁ノ反動トシテ勢放縱ニ流レ易ク生業ニ就クヲ欲セス其極遂ニ再ヒ犯行ヲ累ヌルニ至レルノ實例乏シカラス於是法律ハ此弊ヲ防止センカ爲メニ先ツ改悛ノ情アル囚人ヲ假リニ出獄セシメ特別ノ監督ノ下ニ漸ク普通生活ニ入ルノ豫備ヲ爲サシム

三　假出獄ハ上述セル如キ理由ノ下ニ生シタル刑事政策ノ一果實ニシテ其性質純然タル行政處分ニ屬スルヲ以テ之ヲ實體法タル刑法中ニ規定スルハ其當ヲ得サルヤノ觀アリト雖モ元來假出獄ノ效果ハ刑罰ノ內容ニ影響スルモノナルカ故ニ刑ノ內容ヲ規定スル刑法中ニ之ヲ規定スルヲ便宜ナリトシ玆ニ本章ヲ設ケ以テ之ニ相當セル舊刑法第一編第二章第六節ノ規定ヲ修補シタリ

四　本章モ亦三箇條ヨリ成ル今其內容ヲ別テハ(一)假出獄ノ條件(第二十八條)(二)假出獄ノ取消(第二十九條)及ヒ(三)假出場(第三十條)是ナリ左ニ逐次各本條ニ付キ略說スヘシ

第二十八條　懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

本條ハ假出獄許可ノ條件及ヒ其司掌官廳ニ付キ規定ス(舊刑法第五十三條)

抑假出獄處分ハ其性質全ク行政處分ニ屬スルノミナラス囚人カ果シテ改悛ノ情狀アルヤ否ヤハ全ク其事實問題ニシテ日夜囚人ニ咫尺スル行政官吏ニ非サレハ之ヲ知ルコトヲ得ス故ニ本條ハ法定ノ條件ノ有無ニ從ヒ假出獄許否ノ權ヲ行政官廳ニ與ヘ以テ其自由裁量ニ委シタリ而シテ其條件ヲ示セハ左ノ如シ

一　懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ナルコト　元來假出獄ハ自由刑ニ處セラレタル者ニ對シ或ル條件ノ下ニ假リニ出獄セシムル制度ナルカ故ニ生命刑及ヒ罰金以下ノ刑ニ處セラレタル者ニ及ハサルコト多言ヲ要セスシテ明ナリ』

二　改悛ノ情アルコト　舊刑法ニ於テハ獄則ヲ謹守シ悛改ノ狀アルコトヲ要件トシタルモ悛改ノ狀アル者ハ畢竟獄則ヲ遵守ス可キヲ以テ本法ハ單ニ改悛ノ狀アルト規定シタリ而シテ改悛ノ如何ナル程度ニ達スルコトヲ要スルヤハ事實問題ナルカ故ニ當該官廳ノ認定ニヨリ決スヘキナリ

三　有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後ナルコト　右二要件ヲ具備シタル囚人ニシテ更ニ本要件ニ揭クル期間ヲ經過シタル後ニアラサレハ假出獄ヲ許スコトヲ得ス而シテ本要件ハ舊刑法ノ重罪輕罪ニ付テハ刑期四分ノ三無期刑ニ付テハ十五年トセラレタルニ比シ大ニ寬ナリト云フヘシ

第二十九條　左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二、假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三、假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲スヘキトキ

四、假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

本條ハ假出獄ノ取消ニ付キ規定ス(舊刑法第五十六條)

第一項　本項ハ假出獄取消ノ原因ヲ規定ス左ノ四アリ

一　假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ、抑假出獄ヲ許シタルニ改悛シテ再ヒ罪ヲ犯スノ處ナキコトヲ前提トス然ルニ假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ノ如キハ不改悛ノ甚シキモノナレハ最早社會ニ放置スヘキニアラス假出獄許可ヲ取消スヘキコト當然ナリ

二　假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ、假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル如キコトアレハ假出獄處分ヲ爲スニ當リ斟酌シタル狀況ニ變更ヲ生スルノミナラス此ノ如キ前ニ犯シタル罪ヲ包藏シテ裁判ヲ受ケタルモノニ對シ此恩典ヲ與ヘテ出獄セシメ置クハ危險アルヲ以テ之ヲ取消スヘキコト亦當然ナリ

三　假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ　既ニ假出獄前ニ處セラレタル刑ノ執行ヲ受クヘキ場合ナルニ後ノ罪ニ付テ依然トシテ假出獄ヲ許シアルハ不當ナルヲ以テ此場合ニモ亦之ヲ取消スヘキモノトセリ

四　假出獄取締規則ニ違背シタルトキ　此ノ如キ者ハ到底改悛ノ狀アルモノト見ルヘキニ非ラス從テ其許可ヲ取消スヘキコト至當ナリ而シテ假出獄取締ニ付テハ監獄法及ヒ假出獄取締細則(明治四十一年九月十日司法省令第二十五號)ニ規定アルヲ以テ右法令ニヨリテ其違背アリタルヤ否ヤヲ定ムヘキナリ

刑ノ執行猶豫ニ付テハ取消原因發生シタルトキハ必ラス之ヲ取消スヘシト規定シアルニ反シ假出獄ニ付テハ取消原因發生スルモ必ラス之ヲ取消スヘシト爲サス之ヲ取消スト否トハ一ニ事情ノ如何ニヨリテ定ムヘキモノトシタリ

第二項　本項ハ假出獄處分ノ取消ノ效果ニ付キ規定セルモノニシテ假出獄ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セサルモノトス蓋シ出獄中ニアリテハ犯人ハ其自由ヲ得タルモノナルヲ以テ一旦不改悛等ノ結果與ヘラレタル恩典

ヲ剝奪スヘキ場合ニハ之ヲ刑期ニ算入セサルコト至當ナレハナリ從テ此場合ニ於テハ前ニ執行ヲ受ケタル日數ヲ言渡サレタル刑期ヨリ控除シ其殘刑期ニ付キ更ニ執行ヲ受クヘキナリ

第三十條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

本條ハ拘留セラレタル者ノ假出場及ヒ罰金又ハ科料ノ完納不能ノ爲メ留置セラレタル者ノ假出場ニ付キ規定セルモノニシテ舊刑法ニ見サル一新規定ナリ

第一項 本項ハ拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出場ヲ許スコトヲ得ト定ム元來拘留ハ輕微ナル罪ニ科スヘキ短期刑ナルヲ以テ假出場處分ニ付テモ假出獄處分ニ於ケルカ如ク嚴格ナル條件ヲ設クルヲ要セス故ニ本條第一項ニ於テ單ニ「情狀ニ因リ何時ニテモ云々」ト規定シ容易ニ之ヲ許可スルコトヲ得セシメタリ

第二項 本項ハ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ノ勞役場留置ニ付テモ亦前項ト同樣ナル條件ノ下ニ假出場ヲ許シ得ルコトヲ定ム蓋シ留置處分ハ純然タル刑ノ執行ニ非サルヲ以テ既ニ禁錮刑等ニ處セラレタル者ニ對シ假出獄等ヲ許ス以上此被留置者ニ對シテモ同樣ノ恩典ヲ與フヘキコト當然ナレハナリ

終リニ臨ミ一言スヘキハ本條規定ノ假出場處分ノ取消ニ關スル問題ナリ假出獄處分ノ取消ニ付テハ特ニ法ニ明文アルニ拘ラス假出場處分ノ取消ニ付テハ何等明文ナキ點ヨリ觀レハ或ハ之ヲ消極的ニ解スヘキカ如シト雖モ予輩ハ法律カ假リニ出場ヲ許シ置クモノナレハ必要アル場合ニハ之ヲ取消スコトアルヘキコトヲ豫想セルト及ヒ法律カ行政廳ニ假出場ノ許可權ヲ付與シタル以上ハ之カ取消權ヲモ併セテ付與シタルモノト解スルヲ至當ナリトスルトニ因リ暫ラク之ヲ積極的ニ論斷セントスルモノナリ

第六章 時效

一 公法私法ニ亘リ一般ニ時效ト云ヘハ時ノ經過ニ因ル權利ノ取得(取得時效)又ハ消滅(消滅時效)ナリ而シテ刑事法ニ於テハ只民法ノ消滅時效ニ比スヘキ刑ノ時效ト公訴ノ時效ノ二者アルノミ公訴ノ時效トハ前述セルカ如ク公訴權ノ消滅ニ關スル問題ニシテ刑事訴訟法ノ範圍ニ屬スルニ反シ茲ニ規定セル刑ノ時效ハ時

ハ經過ニ因リ既ニ確定セル刑其モノハ消滅ヲ意味ス別言スレハ刑ノ執行ヲ阻却スルモノニシテ舊刑法ニ所謂期滿免除ナリ

二　時效ノ制度ハ各國立法例ノ認ムル所ナリト雖モ其立法理由ニ關シテハ(一)犯人カ刑ヲ免レンカ爲メニ日夜苦心シツヽアルヲ以テ之ニ對シ刑ヲ科スル要ナシトスル苦心說ト(二)永年月ニ亘リタル爲メ證據湮滅ニ至ルヘキカ故ニ最早裁判スヘカラストスル證據湮滅說ト(三)既ニ時ノ久シキニ及ヘハ社會ハ自ラ犯罪ヲ忘却スヘキニヨリ之ヲ罰ス可ラストスル犯罪忘却說ト(四)永年間犯人ヲ刑セサルハ社會ノ怠慢ナルヲ以テ一定ノ期間後ニ至リテハ犯人ヲ刑ス可ラストスル社會怠慢說ト及ヒ(五)何等ノ障害ナクシテ永續セル事實上ノ狀態ハ之ヲ尊重セサル可ラス詳言スレハ一旦刑ヲ免レタル者永年間無事ニ平和ナル社會關係ヲ作リアルニ數十年又ハ數年ノ後ニ至リ突如トシテ刑ノ執行ヲ受ケンカ從來ノ平和關係破ラレ社會ノ秩序ハ却テ之カ爲メニ害セラルヽニ至ルヘキヲ以テ寧ロ之ヲ刑セサルノ勝レルニ若カスト謂フ實利說ノ五說アリテ第五說通說タリ

三　本章收ムル所五ケ條其內容ヲ別テハ(一)時效ノ效力(第三十一條)(二)時效ノ期間(第三十二條)(三)時效ノ停止(第三十三條)及ヒ(四)時效ノ中斷(第三十四條)之ナリ左ニ各本條ニ付キ之ヲ略說スヘシ

第三十一條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時效ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

本條ハ時效ノ效力ニ付キ規定ス(舊刑法第五十八條)

一旦刑ノ言渡ヲ受ケ確定シタル者ト雖モ法律ニ定メラレタル期間其刑ノ執行ヲ免レタルトキハ之ニ因リテ爾後其刑ノ執行ヲ受クルコトナシ然レトモ唯其執行ノ免除ヲ得タルノミナルカ故ニ刑ノ言渡ハ之カ爲メニ其效力ヲ左右セラルヽモノニアラス從テ時效完成シテ刑ノ執行ノ免除ヲ受クルモ猶法律上被處罰者タルヲ失ハス

第三十二條　時效ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間內其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一　死刑ハ三十年

二　無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三　有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年

四　罰金ハ三年

五　拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

本條ハ時效ノ期間及ヒ其起算點ニ付キ規定ス(舊刑法第五十九條)

刑ノ時效ハ一定ノ期間其執行ヲ免レタルニ因リ其執行ヲ免除スルニアルヲ以テ既ニ刑ヲ執行シ得ヘキ程度ニ達シアルニ非サレハ時效期間ヲ進行セシムヘキニアラス然リ而シテ刑ハ其言渡確定シタル後ニアラサレハ之ヲ執行スルコトヲ得サルカ故ニ本法ハ時效期間ノ進行モ亦刑ノ言渡確定後ナラサル可ラサルコトヲ規定シ以テ時效期間ハ言渡確定ノ日ヨリ進行スヘキコトヲ明示シタリ

罪質ノ輕重如何ニヨリテ法律上其科刑ニ輕重アルト同一理由ニ基ツキ法律ハ時效期間ニ付テモ亦刑ノ輕重ニ從ヒテ長短ノ差異ヲ設ケタリ而シテ如何ナル刑ニ對シ時效期間幾何ナルカハ本條第一號乃至第五號ノ規定ヲ通覽スレハ瞭然タルヘキカ故ニ別ニ云ハス

第三十三條　時效ハ法令ニヨリ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間內ハ進行セス

本條ハ時效停止ニ關スル規定ニシテ本法ニ於テ補足シタル一新規定ナリ

抑々時效ナル制度ハ國家カ刑ヲ執行シ得ヘキ時期ニ在ルニ拘ラス犯人カ之ヲ免レタル場合ニ認メタルモノナレハ法律上當然刑ノ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル場合ニ於テハ時效進行スヘキニアラス故ニ本條ハ本法第二十五條ニヨリ刑ノ執行ヲ猶豫セラレタル期間又ハ第二十八條、第三十條ニヨリ假出獄若クハ假出場ヲ許サレ居タル期間內ノ如キハ時效進行セサルモノナルコトヲ規定シタリ

第三十四條　時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

本條ハ時效中斷ニ付キ規定ス(舊刑法第六十一條、第六十二條)

第一項　本項ハ禁錮以上ノ刑ニ對スル時效中斷方法ヲ定メタルモノニシテ此場合ニ於ケル時效ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ中斷ストス舊刑法ニ於テハ逮捕狀ヲ發スルヲ以テ中斷ノ事由トナシタリト雖モ其理由ニ乏シキノミナラス或ハ不公平ノ結果ヲ生シ或ハ事實上時效ノ完成ヲ不能ナラシムル虞アルヲ以テ本法ハ之ヲ改メテ逮捕其ノモノヲ以テ中斷ノ原因トナシタリ故ニ犯人一度其期間中ニ逮捕セラレタルトキハ更ニ其後再ヒ法定ノ期間ヲ經過スルニアラサレハ時效完成セス

第二項　本項ハ罰金、科料及ヒ沒收ニ關スル時效中斷方法ヲ定メタルモノニシテ

法律ハ是等ノ刑ニ對シテハ現實ニ執行々爲ヲ爲シタルニ因リ中斷スルモノトス之レ舊刑法ニ見サル新規定ノ一ナリ蓋シ是等財産刑ハ其全數ヲ分チ數回ニ執行スルコトアルヘキヲ以テ其執行毎ニ中斷アルモノトシタルナリ

第七章　犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

一　本章ハ犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免ニ關スル規定ナリ所謂犯罪ノ不成立トハ犯罪ノ一般構成要件ヲ缺クニ因リテ犯罪ノ成立セサル場合ヲ云ヒ刑ノ減免トハ犯罪ハ完全ニ成立スルモ一定ノ事由ノ爲メニ其刑ヲ免除シ若クハ減刑スル場合ヲ云フ

二　凡ソ犯罪ハ一般構成要件及ヒ特別構成要件ヨリ成ル一般構成要件トハ獨リ刑法第二編以下ノ各條ニ規定セラレタル罪ノミナラス其他特別法ニ規定セラレタル罪ニモ共通ニ具有セサル可ラサル構成要件ヲ謂ヒ特別構成要件トハ本法第二編ノ各本條其他特別法ニ規定セラレタル各罪ニ特有ナル構成要件ヲ云フ

三　予輩ハ曩ニ第一章ニ於テ犯罪トハ刑罰ノ制裁アル法令ヲ以テ豫メ禁制命令シタル事項ニ違反スル不法行爲ナリト定義セリ故ニ今此定義ニ基キ犯罪ノ一般構成要件ヲ說示スレハ左ノ如シ

(1)　刑罰ノ制裁アル法令アルコトヲ要ス　法令ニハ吾人ニ一定ノ行爲ヲ爲ス可ラスト命スル禁令(此禁令違反ノ場合ヲ作爲犯又ハ行犯ト謂フ)ト一定ノ行爲ヲ爲ス可シト命スル命令(此命令違反ノ場合ヲ不作爲犯又ハ不行犯ト謂フ)トノ別アリト雖モ其違反ニ對シ制裁トシテ刑罪ヲ科スルモノニ非ラサレハ縱令法令ニ違反スルモ犯罪ヲ構成セス即チ刑罰法令ナケレハ罪ナシト謂フハ例外ナキ刑法上ノ大原則ナリ

(2)　刑罰法令ニ違反シタル外形ノ働作アルコトヲ要ス　法律カ特ニ豫謀ヲ別罪トシテ罰スヘキコトヲ規定シアル場合(例、內亂陰謀罪)ノ外犯罪トナルニハ刑罰法令ニ觸レタル外形上ノ身體ノ働作(作爲ト不作爲トヲ含ム)ナカル可ラス例セハ人ヲ殺スト云フ働作ハ殺人罪ノ働作ニシテ他人ノ所有物ヲ竊取シ若クハ强取スルト云フ働作ハ竊盜罪若クハ强盜罪ノ働作ナルカ如ク一切ノ犯罪ハ身體ノ有形的働作アリテ此働作ノ結果トシテ物界ニ刑罰法令ニ規定シアル或ル影響(即チ結果)ヲ惹起シタルコトヲ要ス是即チ學者ノ所謂因果律(因果關係)ニシテ刑法學上至難ノ一問題ナリ然ラハ如何ナル場合ニ働作カ結果ヲ惹起シタリト

云フコトヲ得ヘキカ學者ノ說ク所區々タリト雖モ要スルニ作爲ノ場合ニアリテハ一定ノ作爲カ一定ノ結果ヲ惹起シタルカ否カハ之ヲ裏面ヨリ觀察シテ作爲ノ場合ニハ或ル現象ニ就キ若シ其作爲ナカリセハ其結果ヲ惹起セサリシモノナリトセハ其作爲ハ其結果ノ原因ヲ爲スモノナリトシ不作爲ノ場合ニアリテハ他ノ原因ノ爲メニ或ル結果ヲ惹起セントスルニ方リ其原因ノ進行ヲ遮斷ス可キ法律上ノ義務アル者故ラニ結果ノ發生ヲ防止セサリシトキハ即チ其爲サヽリシコトカ其結果ニ對シ消極的原因ヲ與フルモノトシ法律上ニ於ケル價値ハ或ル作爲ノ爲メニ其結果ヲ惹起セシメタルニ異ナルコトナシトス

(3) 身體ノ有形的働作ハ故意又ハ過失ニ基クモノナルコトヲ要ス　前述セルカ如ク凡テ犯罪ハ身體ノ有形的働作ト其結果トノ間ニ因果關係アルコトヲ要スト雖モ此働作カ犯罪トシテ刑事上ノ責任ヲ受クルニハ猶之ニ精神上ノ無形的一條件ヲ加ヘサル可ラス即チ縱令外形上ニ於テハ身體ノ働作アリテ爲メニ一定ノ結果ヲ惹起セシメタル場合ニアリテモ苟クモ其働作ニシテ行爲者ノ故意又ハ過失ニ出テタルニ非ラサル限リハ犯罪ヲ構成セス換言スレハ行爲者カ自己ノ行フヘキ働作ノ如何及ヒ之レヨリ生スヘキ結果ノ如何等ヲ認識シ(故意)若クハ之ヲ認識シ得ヘカリシニ拘ラス不注意ナリシ爲メ之ヲ認識セサリシ場合(過失)ナラサル可ラス故ニ例セハ強力者ノ爲メニ手ヲ捉ヘラレテ他人ヲ毆打シタル場合ハ自己ニ毆打スルノ意思ナキヲ以テ犯罪ヲ構成セサルカ如シ刑法第三十八條第一項ニ於テ罪ヲ犯スノ意ナキ行爲ハ之ヲ罰セスト規定セルハ此要件ヲ明示シタルニ外ナラス

(4) 責任能力者ハ行爲ナルコトヲ要ス　即チ外形ノ働作ヲシテ行爲者ニ刑事上ノ責任アリトスルニハ其働作カ故意又ハ過失ニ出テタルモノナルコトヲ要スル外ニ猶行爲者ノ精神狀態カ之ニ堪ユル丈ケニ發育ヲ遂ケ且ツ疾病其他ノ原因ノ爲メニ現ニ障碍ナキコトヲ要ス是所謂責任能力ニ關スル條件ニシテ刑法カ精神狀態ノ不健全ナル十四歲未滿者又ハ瘖啞者等ノ行爲ヲ罪トシテ罰セサル所以ナリ

(5) 不法行爲ナルコトヲ要ス　責任能力者ノ行爲ニシテ故意又ハ過失ニ出テ且ツ刑罰法令ニ牴觸スル場合ナリト雖モ學ケテ之ヲ犯罪ナリトナスヲ得ス換言スレハ犯罪タルニハ以上ノ四條件ヲ具備シタル上猶ホ其行爲ハ法律上不法タルモノナルコトヲ要ス故ニ法律カ見テ以テ不法ト爲サヽル場合例セハ法令ニ

ヨリ與ヘラレタル權利ニ基ツキ人ヲ刑スルカ如キ暴行人ヲ逮捕スルカ如キハ
啻ニ犯罪トシテ罰セサルノミナラス權利行爲トシテ之ヲ保護セラルヘキカ如
シ

四　如上ノ五要件ヲ具備スレハ則チ犯罪成立ス然ラハ犯罪ハ何人ニヨリテ犯サ
ルヘキカ是所謂犯罪ノ主體ニ關スル問題ナリ一般原則トシテハ犯罪ノ主體ハ人
類ニ限ル從テ獸類カ人ヲ咬傷スルコトアルモ獸類ニ對シテハ刑法上ノ問題ヲ惹
起セス法人ノ犯罪能力ニ關シテハ諸說アリト雖モ法人實在說ヲ採ルモノハ犯罪
能力アリト說キ擬制說ヲ採ルモノハ犯罪能力ナシト云フニ歸着ス而シテ我刑法
ハ消極說ヲ採ルモノト解ス但シ國家政策上例外トシテ特ニ法人ニ對シ責任ヲ負
ハシムルコトヲ規定セルモノアリ(例、電信法第四十二條、明治三十三年法律第五十
二號、同三十七年內務省令第一號等參照)

五　犯罪ノ客體ト犯罪ノ被害者トヲ區別スルコトヲ要ス犯罪ノ客體トハ犯罪ノ
目的物即チ犯罪ニヨリ侵害セラレタル法益詳言スレハ刑法第二編ノ各本條其他
特別法ニ於テ保護セントシタル一切ノ利益ヲ謂ヒ犯罪ノ被害者トハ犯罪ニヨリ
テ加害セラレタル者即チ法益ノ享受者ヲ意味ス例セハ殺人罪ニ於ケル客體即チ
法益ハ人ノ生命ニシテ其被害者ハ生命ヲ有スル人ナルカ如シ

六　本章規定スル所凡テ八條今其內容ヲ大別スレハ(一)職務行爲(第三十五條)(二)正
當防衛(第三十六條)(三)緊急行爲(第三十七條)(四)無犯意行爲(第三十八條)(五)精神不健全
者ノ行爲(第三十九條乃至第四十一條)及ヒ(六)自首(第四十二條)之ナリ左ニ逐次之ヲ
略說スヘシ

第三十五條　法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス
本條ハ法令又ハ業務執行ニ基ツク犯罪不成立ノ場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第
七十六條)
本條規定ノ場合ハ次條ニ規定セル正當防衛ノ場合ト共ニ學說上ニ所謂權利行爲
ノ一ニ屬ス抑〻犯罪ニハ不法性ナル條件ヲ要スルコトハ前述シタルカ如シ然ル
ニ法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ此條件ヲ缺クカ故ニ犯罪成立セサ
ルナリ玆ニ所謂「法令ニ因リ爲シタル行爲」トハ即チ法律若クハ命令ノ規定セル範
圍內ニ於テ行動スル權利行爲ヲ謂フ例セハ司獄官カ死刑囚ヲ絞首スルカ如キ警
察官カ犯罪人ヲ逮捕スルカ如キ職務行爲又ハ親權者カ其子ニ對スル民法上ノ懲
戒權ニ基ツク行爲等之ニ屬シ又所謂「正當ノ業務ニ因リテ爲シタル行爲」トハ法令

ノ認許シタル業務ノ執行ニ因リ爲シタル行爲ヲ謂フ例セハ外科醫カ治療ノ爲メニ患者ノ身體ヲ切開スルカ如キ相撲又ハ柔術仕合ニ於テ互ニ相搏ツカ如キ之ナリ

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超ヘタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

本條ハ所謂正當防衛ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百十四條乃至第三百十六條)暴ニ對スルニ暴ヲ以テスル所謂自助ハ社會制度未タ完備セサル時代ニ於テ認メラレタル止ムヲ得サル方法ナリト雖モ社會組織漸ク備ハリ裁判制度發達セル今日ニ在リテハ自己ノ權利ヲ侵害セラレタル者カ之ヲ回復スルニハ自ラ一定ノ順序ヲ經テ之カ救濟ヲ國家公權ノ保護ニ俟ツ可キヲ以テ原則トナス然レトモ吾人ハ危害ノ急迫ニシテ公權ノ保護ヲ俟ツニ暇ナキ場合ニモ仍ホ手ヲ拱シテ甘ンシテ其侵害ノ犧牲トナルヘキ義務アルニ非ス必ラスヤ自ラ進ンテ自己ノ力ニ因リテ侵害ヲ排除シ以テ自己ノ利益ヲ防衛スルノ權利ナカル可ラス是即チ所謂正當防衛權ニシテ本條ノ規定スル所タリ

第一項 本項ハ正當防衛ノ條件ニ付キ規定ス蓋シ正當防衛ヲ以テ權利行爲ナリトスルモ元ト之レ止ムヲ得サル場合ニ於テ法律カ與ヘタル非常防衛手段ナルカ故ニ其適用ニ關シ自ラ一定ノ制限ナカル可ラサレハナリ左ニ其條件ヲ說明スヘシ

(一) 自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メナルコトヲ要ス 汎ク自己又ハ他人ノ權利云々ト規定シアルヲ以テ他人ハ必ラスシモ自己ノ親族タルコトヲ要セス又防衛セラルヘキ權利ハ一般ノ權利ニ及ヒ必ラスシモ舊法ニ於ケルカ如ク生命、身體ニノミ限ラレス名譽、財產等ニ對スル場合ニモ亦本條ノ適用アルコト勿論ナリ

(二) 權利ノ侵害ハ急迫且ツ不正ナルコトヲ要ス 正當防衛權ハ公權ノ保護ヲ俟ツニ暇ナキ非常ナル場合ニ於テ法律カ認容スル自助權ナリ故ニ若シ侵害ノ急迫ナラサル場合ナランニハ須ラク徐ニ公權ノ保護ニ俟ツ可ク又危害既ニ去リタル後ニ於テハ正當防衛ナルモノヲ認ムヘキ餘地ナシ

又正當防衛ハ不正ノ侵害ニ對スル自助權ナリ玆ニ所謂不正ナル侵害トハ權利ナキニ出テタル不法ノ攻擊ナルコトヲ意味ス從テ權利ニ基ツク、攻擊例セハ警

察官カ犯罪人ヲ逮捕スルカ如キ場合ニ於テハ之ニ對シ防衛權成立スルコトナシ

(三) 防衛ノ行爲ハ已ムコトヲ得サルニ出テタルコトヲ要ス　即チ防衛行爲ハ權利防衛ニ必要ナル程度ヲ超越セサルコトヲ要ス必要ナル程度トハ侵害ヲ排除スル爲メニ避ク可ラサル範圍ナルコトヲ意味ス故ニ例令危害目前ニ在ルモ他ノ手段ヲ以テ之ヲ排除シ得ヘキ場合例セハ三歲ノ童子刀ヲ振ツテ來リ迫レルニ方リ徒手能ク之ヲ制シ得ヘキニ拘ラス自己モ亦刀ヲ執ツテ之ニ反擊ヲ加フルカ如キハ明カニ其必要以外ニ超越シタル行爲ナリト謂ハサル可ラス然レトモ既ニ已ムヲ得サルニ出テタル以上ハ其侵害セラレントスル權利ト防衛行爲ノ爲メニ相手方カ被リタル害トノ相當レルモノタルコトヲ要セス

第二項　本項ハ防衛ノ程度ヲ超ヘタル行爲ハ之ヲ處罰スヘキコトヲ規定ス蓋シ防衛ニ必要ナル程度ヲ超ヘタル行爲ハ即チ正當防衛ニ非サレハナリ然リト雖モ是レ通常ノ場合ニ於ケル犯罪ト同一視スヘキニ非ラス故ニ法律ハ此場合ニ於テハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕シ若クハ免除スルコトヲ得セシメタリ

第三十七條　自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ己ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超ヘタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

本條モ亦不法性ヲ缺クニ因ル犯罪不成立ノ場合ノ一ニシテ學說上ニ所謂緊急狀態ニ關スル規定ナリ(舊刑法第七十五條)

抑緊急狀態ニ基ツク行爲トハ現在ノ危難ヲ避クル爲メ己ムコトヲ得スシテ他人ノ利益ヲ侵害スル行爲ヲ謂フ從來學者ノ引用スル著名例ヲ示セハ甲乙二人海上ニ溺レントスルニ方リ僅カニ一人ヲ救フニ足ルヘキ板片ヲ爭ヒ其力勝レタル甲カ乙ヲ排シテ溺死セシメ漸ク自己ヲ全フシ得タリトノ場合ナリ此ノ如キ場合ニ於テハ甲ニ殺人ノ罪責ナシトスルハ諸國法制ノ軌ヲ一ニスル所ナリト雖モ其理由ニ關シテハ異レル二見解アリ即チ主觀說(佛學派)ハ之ヲ强制ニ因リ自由意思ヲ喪失シタルニ基ツク無罪ナリト說クニ反シ客觀說(獨逸學派)ハ之ヲ以テ二箇ノ法益カ玆ニ兩立スルヿト能ハサル危急狀態ニ於テハ法律ハ一ヲ保護シ他ヲ處罰スルコトヲ得ス之ヲ自然ノ成行ニ放任スルノ外ナシ故ニ其意思ノ自由ナルト否ト

ヲ問ハス外部ノ狀態其モノヲ以テ直ニ無罪ノ理由ナリト說ク佛法系ニ出テタル舊刑法ハ前者ニ屬シ新刑法ハ後者ニ屬ス

第一項 本項ハ緊急狀態行爲ノ條件ニ付キ規定ス蓋シ危難緊急ナル爲メニ法律ハ各自ノ自助權ヲ認メタルモノナルカ故ニ之カ適用ニ關シ一定ノ制限ナカル可ラサルヲ以テナリ即チ左ノ如シ

(一) 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル危難アルコトヲ要ス 舊刑法ハ防衛セラル可キ權利ヲ自己若クハ親屬ノ身體ニ對スル場合ニ限定セシト雖モ狹キニ失スルヲ以テ本法ハ更ニ其範圍ヲ擴大シテ身體ノ外猶貴重ナル權利タル自由及ヒ財產ニモ及フヘキモノト爲シ且ツ其權利者ヲ獨リ自己及親屬ノミニ限ラス一般的ニ自己及ヒ他人ト規定シタリ從テ其適用ノ範圍ハ舊法ニ比シ著シク擴張セラレタリト雖モ防衛セラルヘキ權利ノ種類ハ法ニ限定シアルカ故ニ法文列記以外ノ權利(例セハ名譽權等)ニ對シテハ本條規定ノ自助權ナキコト論ヲ俟タス

(二) 現在ノ危難ヲ避クル爲メナルコトヲ要ス 所謂「現在ノ危難」トハ世俗ニ所謂「眼ノ前ニ降リカヽリタル災難」ト云フニ同シク危難ノ現ニ存在スルノ義ナリ從テ過去ニ於ケル危難ニ對シテ本條ノ自助權ナキハ勿論將來危難ノ虞アル場合ニ對シテモ亦本條ノ適用ナシ又本法ノ此危難ノ原因ニ付キ何等限定スル所ナキヲ以テ其自然力ヨリ來ルト人爲ニ因ルトヲ區別セス

(三) 已ムコトヲ得サルニ出テタルコトヲ要ス 即チ危難ヲ避クルニハ現ニ執リタル手段ノ外他ニ絕對ニ途ナキ場合ナルコトヲ要ス蓋シ本條ノ規定ハ彼レヲ仆サスンハ我レ仆レサルヲ得スト云フ緊急ナル危難狀態ニ於テ自己ヲ全フスル爲メニ法律カ其優者ニ自助ヲ許容シタル非常例外ニ屬スルヲ以テ猶ホ他ニ執ル可キ手段アルトキハ猥リニ他人ニ損害ヲ加フルコト許スヘキニ非ラサレハナリ

(四) 避難行爲ヨリ生シタル害ハ避ケントシタル害ノ程度ヲ超ヘサリシコトヲ要ス 舊刑法第七十五條第二項ニ於テハ防衛セラル可キ權利ヲ最モ貴重ナル自己又ハ親屬ノ身體ニノミ限リタルヲ以テ之ニ對スル害ヲ避クル爲メノ行爲ハ擧テ罪トナラサルコトヽシタリ蓋シ身體ノ價値ハ其避難行爲ヨリ生スル害ヨリモ常ニ重大ナルカ故ナリ然ルニ本法ハ汎ク生命、身體、自由ノ外財產ニ對シテモ亦避難行爲ヲ認メタルヨ以テ縱令是等ノ權利ニ對スル危難ヲ避クルノ必要

ニ出テタル行爲ナリト雖モ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ヨリモ大ニシテ畢竟保護セントシタル權利ニ比スレハ却テ重大ナル他人ノ權利ヲ害スルコトアル場合ニ於テハ其行爲ヲ罪トシ罰スルニアラサレハ遂ニ名ヲ避難行爲ニ藉リ不法ニ他人ノ權利ヲ侵害スルニ至リ其弊ニ堪ヘサルヘキヲ以テ本法ハ新ニ此條件ヲ加ヘタルナリ而シテ避難行爲ヨリ生シタル害カ果シテ避ケントシタル害ノ程度ヲ超ヘサルヤ否ヤハ事實問題ニシテ事實承審官ノ認定權ニ屬スヘシト雖モ其輕重ヲ區別スヘキ標準ハ法律カ各種ノ法益ヲ保護スル厚薄換言スレハ法律カ各種ノ行爲ニ對シ科スヘキ刑ノ輕重如何ニヨリ區別スヘキナリ故ニ生命ハ身體ヨリ重ク身體ハ自由ヨリ重ク自由ハ財産ヨリ重シ從テ財産ニ對スル危難ヲ避ケンカ爲メニ他人ノ生命身體自由ニ損害ヲ與フルコトヲ許サス

以上ノ條件ヲ具備スルトキハ避難行爲トシテ當然無罪タルヘシト雖モ若シ避難行爲ヨリ生シタル害カ避ケントシタル害ノ程度ヲ超越シタル場合ニ於テハ之ヲ看過スヘキニアラサルヲ以テ法律ハ但書ヲ以テ前條ノ場合ニ同シク情狀ニ因リ或ハ其刑ヲ減輕シ或ハ全部免除スルコトヲ得セシメタリ

第二項 本項ハ第一項規定ヲ適用ス可ラサル例外ノ場合ニ付キ規定セリ即チ自己ノ執レル業務上特別ノ義務アル者ニ對シテハ緊急狀態ニ於ケル避難行爲ヲ認メサルコトヽシタリ蓋シ法律ハ特別ノ職務ニ從事スル者ニ對シテハ危難ノ際先ツ他人ヲ救フヘキ責務ヲ命シアルカ故ニ此義務アル者ハ緊急狀態ナリトシテ他ヲ排シテ自ラ免ルヽコトヲ得ス例セハ船長ハ難船ノ際ニハ最後ニ其船ヲ去ルヘキ義務アルカ故ニ乘客其他ヲ排シテ先ツ免ルヽコトヲ得サルカ如シ

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但シ法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處分スルコトヲ得ス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

本條ハ犯意ヲ缺クニ因ル犯罪不成立ノ場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第七十七條)

第一項 本項ハ犯意ナキ行爲ノ罰ス可ラサルコトヲ規定ス犯意(又ハ故意)トハ犯罪ノ決意ヲ謂フ詳言スレハ犯罪構成ノ物的要件及ヒ加重條件ヲ認識シ而カモ之

レカ實行ニ志スヲ謂フ之ヲ例示スレハ生命アル他人ニ對シ其死ヲ惹起スルコトヲ知リテ(物的條件ノ認識)而カモ之カ實行ニ着手セントスル決意ハ即チ殺人罪ニ於ケル犯意ニシテ又自己若クハ配偶者ノ尊族親ナルコトヲ知リナカラ(加重條件ノ認識)之ニ對シ殺人行爲ヲ實行セントスル決意ハ即チ殺親罪ニ於ケル犯意ナルカ如シ而シテ犯罪ハ此犯意ニ基ツキ之ニ伴フ外形上ノ働作アリテ完成ス故ニ縱令外形上罪トナル可キ働作アルモ其働作ノ發源タル犯意ヲ缺キタル場合例セハ狩獵者カ野獸ノ毛皮ヲ被ムレル人ヲ野獸ナリト誤認シ之ヲ銃殺シタルカ如キ場合ニ於テハ狩獵者ハ人類ヲ銃殺スルト云フ意思即チ殺人ノ犯意ヲ缺如スルカ故ニ犯罪ヲ構成セス

犯意ナキ行爲ノ犯罪トシテ成立セサルコト上述ノ如シト雖モ法律ハ時ニ或ハ取締上ノ必要ヨリ特ニ刑法ノ不論罪ニ關スル規定ニ從ハサルコトヲ明示セルコトアリ例セハ酒造稅法第三十一條新聞紙法第三十五條等ノ如シ而シテ本條第一項但書ハ此ノ如キ特別規定アル場合ニ付テハ第一項ノ原則ハ除外セラルヘキコトヲ規定ス

第二項 本項ハ罪本重カルヘクシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得スト規定ス例セハ殺親罪ハ普通殺人罪ニ比シ科刑重シ然レトモ若シ犯人カ自己ノ親タルコトヲ知ラスシテ之ヲ殺害シタル場合ニハ情狀重キ殺親罪ニ問擬スルヲ得サルカ如シ蓋シ此場合ニ於テハ犯人ハ其加重條件タル親ト云フ身分ヲ認識セサリシモノナリ換言スレハ犯人ハ此加重條件ニ付キ犯意ヲ缺クモノナルカ故ニ此部分ニ對シテ重キ情狀ヲ構成セス左レハ本項ハ前項規定ノ適用ニ過キスシテ之ヲ法文ニ明示スルノ要ナキカ如シト雖モ若シ此規定ナキトキハ或ハ疑義ヲ生スヘキ虞アルニヨリ特ニ之ヲ規定セルノミ

第三項 本項ハ法律ノ不知ハ以テ犯意ヲ阻却セサルコトヲ規定ス玆ニ所謂法律トハ刑罰法令ヲ意味ス前述セルカ如ク犯罪ノ故意トハ犯罪事實ノ認識アルヲ以テ足リ其爲サントスル行爲カ刑罰法令ニ觸ルヽモノナルコトヲ識ルヲ要セサルヲ以テナリ然レトモ刑罰法令以外ノ法令ノ不知ハ刑法上ニアリテハ事實ノ不知トナルカ故ニ前項ノ適用上犯罪ヲ構成セス例セハ既ニ婚姻ノ屆出ヲ爲シタル者カ民法上婚姻ハ實際上夫婦關係アルコトヲ要スルモノニシテ唯屆出ノミニテハ成立セサルモノナリト誤信シ更ニ他人ト婚姻ヲ爲シタル場合ノ如キニアリテハ之ヲ刑法上ヨリ觀レハ罪トナル可キ事實即チ重婚ノ事實トナルコトヲ認識セサ

ル結果重婚罪ヲ構成セサルカ如シ

然レトモ若シ犯人カ自己ノ爲シツヽアル行爲ハ決シテ刑罰法令ニ觸ルヽモノニアラスト信シテ犯行シタル場合例セハ一夫多妻ノ風習アル國人偶々本邦ニ渡來シ日本ニ於テモ同樣重婚ヲ禁スル法律ナカル可シト信シ重婚ヲ敢テシタルカ如キ場合ニ於テハ是ニ對シ本條第三項ヲ適用スルハ少シク苛酷ニ失スルヲ以テ本項但書ハ此ノ如キ情狀アル場合ニハ其刑ヲ減輕シ得ルモノトセリ

第三十九條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

本條乃至第四十一條ハ責任能力ヲ缺クニ因ル犯罪不成立ニ關スル規定ニシテ就中本條ハ心神喪失者及ヒ耗弱者ニ付テ規定ス(舊刑法第七十八條)

第一項　本項ハ心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰ス可ラサルコトヲ規定ス所謂心神喪失ナル語ハ既ニ民法ニ用ユル所ナリ然レトモ茲ニ所謂心神喪失者ナル者ハ民法ニ所謂心神喪失ノ常況ニ在ル者ト區別スルコトヲ要ス即チ刑法上ニ於テハ心神喪失ノ常況ニ在ルヲ要セス唯犯罪ノ當時ニ心神ヲ喪失シアリタルノミヲ以テ足ル蓋シ刑法上心神喪失者ノ行爲ノ罪トナラサルハ精神障碍ノ爲メ犯罪行爲ニ對スル認識ヲ缺如スルニ因ルモノナレハ其行爲ノ當時ニ於ケル精神ニ缺陷アリタルヤ否ヤニ因リテ責任ノ有無ヲ定ム可キモノナレハナリ從テ犯罪當時ニ於テ心神ヲ喪失シアリタル以上ハ其前後ノ狀況如何ニ論ナク又其原因カ病的ナルト將タ非病的(例、泥醉者)ナルトヲ問ハス又一時的ナルト持續的ナルトニ拘ラス全ク無責任タルヘキナリ

第二項　本項ハ心神耗弱者ノ行爲ニ付キ規定ス所謂心神耗弱者ナル語モ既ニ民法ノ用ユル所ナリ心神耗弱者ナルモノヽ精神障害ノ程度ハ未タ前項ニ所謂心神喪失者ニ及ハサルモ猶ホ通常人ニ比シ著シク劣等ナルカ故ニ其劣等ナル判斷力ニ基ツキタル犯行ハ之ヲ通常人ノ其レト同樣ニ處罰スルハ酷ニ失スルヲ以テ法律ハ此種ノ犯行ニ對シテハ其刑ヲ減輕スヘキモノトシタリ

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

本條ハ責任能力ヲ缺クニヨル犯罪不成立ノ第二場合タル瘖啞者ノ行爲ニ付キ規定ス(舊刑法第八十二條)

茲ニ所謂瘖啞者トハ瘖ニシテ且ツ啞ナル者タルコトヲ要ス單ニ瘖者若クハ啞者ハ其精神發達ノ如何ニ因リ或ハ通常人トシテ全責任ヲ負フヘク或ハ耗弱者トシ

テ減刑セラルヘキモ本條適用ノ範圍ニ屬セス舊刑法ニ於テハ瘖啞者ノ行爲ハ絶對ニ無罪ナリトセシモ同シク瘖啞者ナリト云フモ既ニ一旦健全ナル精神發育ヲ遂ケタル後ニ於テ瘖啞トナリシ者ト生來又ハ幼時ヨリノ瘖啞者トハ其精神發育ノ程度ハ同一ナラサルノミナラス殊ニ瘖啞者ニ對スル教育方法發達セル今日ニ於テハ之カ犯行ヲ全ク不問ニ付スル理由ナキト同時ニ未タ之ヲ通常人ト同一視ス可ラサル事情ナシトセス故ニ本法ハ學說ノ要求スル所ニ從ヒ瘖啞者ノ行爲ハ或ハ之ヲ罰セス或ハ罰スルモ其刑ヲ減輕スヘキモノトシタリ而シテ其果シテ罰スヘキカ減輕スヘキカノ情狀ハ一ニ裁判官ノ認定ニ委シアリト雖モ其區別ノ標準ハ專ラ精神發育ノ程度如何ニ存スルコト勿論ナリ

第四十一條 十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

本條ハ責任能力ヲ缺クニ因ル犯罪不成立ノ第三場合ナル幼者ノ行爲ニ付キ規定ス(舊刑法第七十九條乃至第八十三條)

凡ソ吾人ノ精神狀態ハ年齡ヲ追フテ漸ク發達ヲ遂クルモノニシテ其遲速ハ時代ト場所トニヨリ多少相異ナルヘキヲ以テ各國立法例ニ於テ各其國狀ニ照ラシ責任年齡ヲ定ム我舊刑法ハ此點ニ關シ四分主義ヲ採用シ極メテ複雜ナル規定ヲ設ケタリシカ本法ハ二分主義ニ從ヒ十四歲ヲ以テ責任ノ分岐點トナシ十四歲未滿者ノ行爲ハ之ヲ罰セサルコトヽシタリ但シ十四歲以上ノ者ナリト雖モ心神ノ發達未タ十分ナラサルモノナキヲ保セス此ノ如キ者ニ對シテハ第三十九條第二項ニ所謂心神耗弱者トシテ減刑シ得ヘキヲ以テ實際ノ適用上ノ結果ニ於テハ甚シキ不都合ヲ見サルヘキナリ

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

本條ハ自首及ヒ首服ニ付キ規定ス(舊刑法第八十五條乃至第八十八條)

第一項 本項ハ自首ニ關シ規定ス抑自首減輕ノ制度ヲ認メタル立法理由ハ(一)容易ニ犯罪者ヲ發見シ得可ク(二)犯罪者ヲ搜索スル勞費ヲ省クコトヲ得可ク(三)有罪ヲ罰セスシテ止ムノ弊ヲ免ル可ク(四)無辜ヲ罰スルノ虞ナカル可シトノ四箇ニアリテ要ハ社會公益上便宜ニ出テタルモノナリトス

自首トハ自己ノ犯罪ヲ其發覺前自ラ進ンテ官ニ首出スルヲ謂フ今此觀念ニ基ツキ其條件ヲ說明スレハ左ノ如シ

(一) 未タ發覺セサル自己ノ犯罪ニ係ルコトヲ要ス　犯罪ノ未發覺トハ即チ搜査權ヲ有スル官署ニ犯罪事實アリタルコト知レサル場合ハ勿論犯罪事實ハ既ニ發覺スルモ未タ犯人ノ何人ナルカ不明ナル場合ヲモ併セ謂フモノニシテ刑事訴訟法ニ所謂現行犯ノ發覺トハ其意義ヲ異ニス

(二) 自ラ進ンテ首出スルコトヲ要ス　故ニ官ノ推問ヲ受ケテ初メテ犯罪事實ヲ自白スルハ自首ニ非ラス又犯罪既ニ發覺シ犯人ノ何人ナルカヽ明白トナリタル後ニ至リ犯人自ラ進ンテ縛ニ就クコトアルモ亦自首ト云フ可ラス但シ自ラ首出シタル以上ハ首出スルニ至レル原因如何ハ問ハサルモノトス

(三) 相當官署ニ首出スルコトヲ要ス　法文ニ所謂官トハ犯罪ノ搜査權アル相當官署ナルコトヲ意味ス故ニ搜査權ナキ一般行政官署ニ自己ノ犯罪ヲ進ンテ申告スルモ刑法ニ所謂自首ニ非ラス蓋シ犯罪ノ搜査權ナキ官署ニ於テハ縱令自首ヲ受クルモ一般私人ニ同シク之ニ對シ何等處分ヲ爲スノ權能ナキヲ以テ實際上毫モ實益ナケレハナリ而シテ現行法制上犯罪搜査權アルモノハ檢事及ヒ司法警察官ナルカ故ニ自首ハ此二者ニ對シテ爲サヽル可ラス

以上ノ條件ヲ具備スル以上ハ裁判所ハ其自由裁量ヲ以テ其刑ヲ減輕シ得ルモノトス蓋シ舊法ノ如ク自首スレハ必ラス減刑スヘキモノトスルトキハ豫メ減刑ヲ賭シテ犯行ヲ敢テスルカ如キ者ニ對シテモ猶減刑セサル可ラサルノ弊アルヲ以テ本法ハ之ヲ改メタルナリ

第二項　本項ハ首服ニ付キ規定シタルモノニシテ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者ハ官ニ自首シタル場合ト同一視ス蓋シ此等親告罪ニアリテハ告訴ナキニ於テハ之ヲ訴追スルヲ得サルモノナルカ故ニ其官ニ自首スルト告訴權ヲ有スル者ニ首服スルトハ其間差別ヲ設クルノ要アラサレハナリ

第八章　未遂罪

一　未遂罪ノ何タルカヲ說明スルニハ勢ヒ犯罪ノ始終及其經過ニ付キ說明スルヲ要ス故ニ先ツ犯罪ハ如何ナル段階ヲ經テ終始スルカヲ大略說明シ以テ未遂罪ノ意義ヲ明カニスヘシ

二　凡ソ犯罪ニハ犯意ノ表示、豫備、着手及ヒ實行ノ四段階アリ以下之ニ付キ少シク述フル所アルヘシ

(1) 犯意ハ表示　犯意ハ犯罪ノ第一歩ナリ而シテ犯意ノ表示ハ之ヲ處罰セサルヲ原則トス特ニ法文カ之ヲ別種ノ獨立罪トシテ處罰スルコトヲ規定シアル場合(例、内亂陰謀罪)ハ此限ニアラス

(2) 犯罪ハ豫備・犯罪ノ豫備トハ犯罪實行ニ着手スル以前ニ於ケル準備行動ニシテ更ニ一歩ヲ進ムレハ犯罪着手ノ域ニ至ルヘキモノヲ謂フ例セハ殺人ノ爲メニ刀劍ヲ準備スルカ如シ豫備モ亦原則トシテハ處罰セラレサルモ他人ノ犯行ヲ幇助スル豫備行爲ハ從犯トシテ處罰セラレ又法文カ特ニ豫備行爲自體ヲ特別罪トシテ處罰スルコトヲ明示スル場合ハ此限ニアラス例セハ内亂罪、外患罪、放火罪及ヒ殺人罪等ニ於ケル豫備ノ如シ

(3) 犯罪ノ着手　犯罪ノ着手トハ犯罪ノ特別構成要素タル行爲ノ一部若クハ之ニ近接密着スル擧動ヲ謂フ例セハ人ヲ殺サントスル決意ニ基ツキテ人ニ斬リ付ケタル場合(構成要素ノ一部ニ着手)ハ勿論刀ヲ抜キ今ヤ斬リ付ケントシテ被害者ノ背面ヨリ刀ヲ振上ケナカラ忍寄ルカ如キ場合(近接行爲)ノ如キ是ナリ

(4) 犯罪ノ實行　犯罪ノ實行トハ刑法其他刑罰法令ノ各條ニ於テ各犯罪ノ特別構成要素トシテ規定シタル行爲ニシテ犯罪ノ最終ナリ即チ前例ノ殺人罪ニ付

テ云ヘハ刑法第百九十九條ハ人ヲ殺シタル者ハ云々ト規定シアルカ故ニ他人ノ生命ヲ奪フト云フ行爲自體カ殺人罪ニ於ケル實行々爲ナルカ如シ

三　法律ハ特ニ一定ノ結果ノ發生ヲ犯罪ノ要素トシテ規定スル場合ト然ラサル場合トアリ前者ノ場合ニ於テハ縱令犯人カ實行々爲ヲ完結スルモ未タ法定ノ結果ヲ發生セサル以上ハ犯罪ノ既遂ト云フヲ得ス(即チ結果犯)例セハ殺人罪ニアリテハ人ノ死ト云フ結果アルヲ要スルカ故ニ未タ死ニ至ラサレハ殺人既遂ト云フヲ得サルカ如シ之ニ反シ後者ノ場合ニ於テ犯人ノ實行々爲ノ終了ト同時ニ犯罪ハ既遂ト成ル(即チ即時犯)例セハ僞證罪ニ於テハ證人トシテ宣誓ヲ爲シタル上裁判所ニ對シテ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル以上ハ判事カ之ヲ信シテ錯誤ニ陷レルト否トヲ問ハス即時ニ僞證罪成立スルカ如シ

四　此ノ如ク犯人カ實行々爲ノ一部若クハ全部ヲ行フモ而カモ猶ホ未タ法律カ要素トシテ掲ケタル結果ノ發生ヲ見サル場合ハ學説上別チテ三トナス即チ未遂犯、中止犯及ヒ不能犯是ナリ

(1) 未遂犯　未遂犯トハ犯人カ犯意ニ基ツキ實行々爲ノ一部若クハ全部ヲ行フモ意外ノ故障ニ因リテ其目的ヲ遂ケサリシ場合ヲ謂フ左ノ二場合アリ

(イ) 着手未遂　犯人カ實行々爲ニ着手シタルモ意外ノ障害ノ爲メニ實行ヲ終結スルコトヲ得サリシカ爲メニ法定ノ結果ヲ生セサリシ場合ニシテ例セハ人ヲ殺害セントスル者刀ヲ振上ケ將サニ斬付ケントスル所ヲ他人ノ爲メニ抱止メラレタルカ如キ又ハ既ニ斬付ケタルモ被害者カ之ヲ避ケタルカ爲メニ殺害スルニ至ラサリシ如シ

(ロ) 實行未遂　犯人カ實行々爲全部ヲ盡シタルモ猶ホ意外ノ障害ノ爲メニ法定ノ結果ヲ生セサリシ場合ニシテ例セハ既ニ人ニ斬付ケシモ輕傷ナリシ爲メ被害者ハ幸ニ死ヲ免レタルカ如キ又ハ通常人ヲ殺スニ足ルヘキ分量ノ毒藥ヲ服用セシメタルニ被害者之ヲ覺リ直ニ醫療ヲ加ヘタル爲メ死ヲ免レタルカ如シ(學者或ハ此場合ヲ缺效犯トモ云フ)

即チ未遂犯ハ犯人ノ所期スル結果發生セサルコト其特色ナリ從テ實行々爲終了ト同時ニ既遂トナルヘキ所謂即時犯ニ付テハ實行未遂犯ナル觀念ヲ容ル可キ餘地ナク又犯意ヲ要セサル過失犯ニ付テモ理論上未遂犯ナル場合アリ得サルコト多言ヲ要セスシテ明ナリ

(2) 中止犯　中止犯トハ犯罪ノ一部若クハ全部ヲ行フモ犯人自身ノ自由意思ヲ以テ犯罪遂行ヲ中止シ若クハ其結果ノ發生ヲ妨止シタル場合ヲ謂フ故ニ結果ヲ發生セサル點ニ於テハ未遂犯ト同一ナルモ犯人ノ自由意思ヲ以テ結果ノ發生ヲ妨止セル點ニ於テ異ナル例セハ人ヲ殺サントスル者刀ヲ拔キ將サニ斬付ケントシテ振上ケタルモ急ニ自ラ其非ナルヲ思ヒ其儘中止シタルカ如キ(犯罪遂行ノ中止)又ハ既ニ斬付ケタルモ其慘ニ堪ヘス應急手當ヲ施シタル結果被害者ノ生命ヲ取リ止メタリシカ如キ場合(結果ノ妨止)是ナリ從來中止犯ノ處罰ニ關シテハ學者間ニ異說區々タリシト雖モ本法ハ之ヲ未遂犯トシテ處罰スヘキモノトシタリ

(3) 不能犯　不能犯トハ目的物又ハ犯人ノ特定シタル方法(手段)カ法律上ノ要素ニ關スルモノニシテ之ヲ缺キタルカ爲メ法律ノ豫期シタル結果ヲ惹起スルコト能ハサル場合ヲ謂フ例セハ生命アル人ハ殺人罪ニ於ケル法定要素ナリ故ニ若シ犯人カ生命アル人ト信シテ既ニ生命ナキ屍ヲ斬リタル場合ニハ他罪ヲ構成スルハ格別殺人罪トシテハ成立不能ナルカ如シ

五　本章ハ舊刑法第一編第九章ノ規定ヲ修正削除シタルモノニ係リ舊法ニ比シ著シク條數ヲ減シ本章ニ規定セル所僅ニ二條ノミ即チ第四十三條ニ於テ未遂犯

及ヒ中止犯ハ之ヲ罰スヘキ原則ヲ示シ第四十四條ニ於テ未遂犯ノ適用範圍ヲ限定シタリ左ニ各本條ニ付キ其意義ヲ略説スヘシ

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ゲサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

本條ハ未遂犯及ヒ中止犯ニ關スル規定ナリ(舊刑法第百十二條)

抑未遂犯及ヒ中止犯ハ其本質上區別アルコトハ前述シタル所ニヨリ明白ナルヘシト雖モ犯人カ目的ヲ達セサリシ點ニ於テハ二者異ナル所ナキヲ以テ此點ヨリ觀レハ中止犯モ亦廣義ニ於ケル未遂犯ナリト云フヲ得ヘシ故ニ本法ハ本條本文ニ於テ未遂犯ニ付テ規定シ但書ニ於テ中止犯ニ付テ規定シタリ而シテ如何ナル場合ニ未遂犯ニシテ如何ナル場合ニ中止犯ナルヤハ本章冒頭ニ説明シタル所ニヨリ明白ナルヲ以テ之ヲ略シ茲ニハ只其處罰程度ニ付キ一言スヘシ

未遂犯ノ處罰程度ハ舊刑法ニ於ケルト全ク其趣ヲ異ニス即チ舊刑法ニテハ未遂犯ハ必ス一等若クハ二等ノ減刑ヲ爲スヘキモノトナシタルニ反シ本法ハ之ヲ減輕スルト否トヲ裁判所ノ自由裁量ニ委シタリ蓋シ未遂犯ニ於ケル危害ノ程度ハ一般ニ既遂ノ場合ニ於ケルヨリ多少輕キモノアル可シト雖モ其犯情ニ至リテハ二者ノ間更ニ軒輊スル所ナキ場合往々之アルノミナラス結果ノ有無ハ犯人ノ惡性ニ影響スル所ナキヲ以テ主觀主義ニ基ツキタル新刑法ハ必ス減輕ス可キモノト爲サスシテ情狀ノ如何ニヨリ減輕シ得可キモノトシタリ但シ犯人意外ノ障碍ニ因リ遂ケサリシ場合ト犯人ノ自由意思ニ因リ中止シタル場合トハ全然事情ヲ異ニスルヲ以テ本條但書ニ於テ後ノ場合ニアリテハ必ス其刑ヲ減輕又ハ免除スヘキモノトシタリ

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

本條ハ未遂ヲ罰スヘキ適用範圍ニ付キ規定ス(舊刑法第百十三條)

前述セルカ如ク犯罪ノ種類ニ因リ未遂犯ノ成立シ能ハサル場合アリ又犯罪輕微ナルカ爲メ其未遂ヲ處罰スルノ必要ヲ見サル場合アリ故ニ其如何ナル場合ヲ處罰スヘキカヲ法律ニ明定シ置クノ必要アリ即チ本條ハ未遂犯ハ各本條ニ於テ罰スヘキコトヲ明示スルニ非ラサレハ處罰シ得サルコトヲ規定ス從テ刑法第二編及ヒ其他特別刑罰法令ニ於テ其規定ナキ限リハ未遂ハ罪ニ非ラサルナリ

第九章 併合罪

一　本章ハ舊刑法第一編第七章數罪俱發ト云ヘル規定ニ相當スルヲ改題シテ併合罪トナシタリ蓋シ確定裁判ヲ經サル數罪ハ必ラスシモ俱ニ發スルコトナク一罪既ニ確定裁判ヲ經タル後ニ至リ他ノ一罪發スル場合ナキニアラス此場合ニ於テハ數罪俱發ナル名稱ハ妥當ナラサルノミナラス本法ニ於テハ確定裁判前ニ犯サレタル數罪ハ其發覺ノ前後ヲ問ハス凡テ之ヲ併合處斷スルヲ以テ數罪俱發ト云ハンヨリハ寧ロ併合罪ト稱スルヲ適當ナレハナリ

二　併合罪トハ確定判決ヲ經サル數罪ヲ併合シテ之ニ對シ一ツノ刑罰ヲ科スル場合ヲ謂フ故ニ確定裁判前ニ於ケル罪ト確定裁判アリタル後ニ於ケル罪トハ縱令何レモ確定裁判ヲ受ケサル場合ト雖モ併合罪ト云フヲ得ス而シテ併合罪ニ對シテハ一ツノ刑ヲ科スルモ之カ爲メニ數罪ヲ合シテ一罪トスルニ非ラスシテ各罪ハ猶各箇獨立シテ存在ス而カモ併合セラレタル數罪ハ法律上一ツノ刑ヲ科セラレタル結果トシテ互ニ分離スルコトヲ得サルカ故ニ裁判中ノ一罪ニ對スル部分ニ付テノ變更ハ裁判全部ニ對スル變更ヲ來タス

三　一罪ト數罪トハ法律上其處分ヲ異ニスルヲ以テ明瞭ニ之カ區別ヲ爲スコトヲ要ス從來之カ標準ニ關シ左ノ數說アリ

(1)　行爲說　其要旨ニ曰ク犯罪ハ行爲ナリ故ニ原則トシテ犯罪ノ數ハ行爲ノ數ニ比例セサル可ラスト

(2)　意思說　其要旨ニ曰ク犯意ハ犯罪ノ根本ナリ行爲若クハ結果ハ其反影ニ外ナラス從テ犯罪ノ數ハ其行爲若クハ結果ニ因リテ定ム可キモノニ非ラスシテ犯意ノ數ニ因リテ決ス可キナリト

(3)　法益說　其要旨ニ曰ク法律カ犯罪者ニ對シ科刑スルハ其行爲カ特種ノ法益ヲ傷害スルカ爲メナリ故ニ各箇ノ法益ハ犯罪ノ基本タルカ故ニ犯罪ノ數ヲ定ムルニハ犯人ノ傷害シタル法益ノ數ニ因リテ之ヲ定メサル可ラスト

以上三說ハ共ニ長短アリト雖モ第三ノ法益說ハ大多數ノ學者ト共ニ我大審院ノ採用スル所ナリトス

四　凡ソ併合罪ニ關スル立法主義ヲ別テ二トナス可シ即チ吸收主義及ヒ併科主義是ナリ吸收主義トハ數罪中最モ重キ罪ニ他ノ輕キ罪ヲ吸收スル結果其最モ重キ刑ノミヲ科ス可シト爲スモノニシテ處斷上甚タ便宜ナリト雖モ徒ラニ犯人ヲシテ進ンテ數罪ヲ犯スニ至ラシムルノミナラス往々犯人ヲシテ他人ノ犯罪ヲモ引受ケシムル弊アリ之ニ反シ併科主義ハ數罪ノ刑ヲ合算シ其總和ニ相當スル刑

ヲ科ス可シト爲スモノニシテ純理上極メテ至當ナリト雖モ而カモ此主義ヲ理論通リニ貫徹スルトキハ數多ノ罪ヲ犯シタルニ對シテハ科刑往々數十年ノ長キニ至リ甚タ苛酷ナル結果ニ遭遇スルコトアルヘキカ故ニ此主義ヲ採用スル立法例ニアリテハ多少之ニ制限又ハ例外ヲ認メサルハナシ

我舊刑法ハ吸收主義ヲ採用シタリシモ新刑法ハ原則トシテハ併科主義ヲ採用シ一二ノ場合ニ付キ制限ヲ加ヘタリ學者或ハ本法ノ採用シタル主義ヲ稱シテ折衷加重主義又ハ制限併科主義トモ云フ

五 本章收ムル所總テ十一條其內容ヲ大別スレハ(一)併合罪ノ條件(第四十五條)(二)併合罪ノ處斷方法(第四十六條乃至第四十九條、第五十三條)(三)餘罪ノ處斷方法(第五十條)(四)其刑ノ執行方法(第五十一條)(五)大赦ノ場合ニ於ケル特例(第五十二條)(六)想像上ノ數罪及ヒ牽連犯ノ處分(第五十四條)及ヒ(七)連續犯ノ處分(第五十五條)是ナリ以下各本條ニ付キ其意義ヲ略說ス可シ

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トシ若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

本條ハ併合罪トシテ處分ス可キ場合ニ付キ規定ス(舊刑法第百條)

本條ニ據リ併合罪トシテ處斷スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(1) 同一犯人カ二個以上ノ罪ヲ犯シタルコトヲ要ス　同一人ニヨリ二箇以上ノ犯罪アリタルコトヲ要スルカ故ニ二箇以上ノ罪ニ似テ非ナル場合即チ(一)一所爲ヨリ數箇ノ結果ヲ生シタル場合(二)一所爲カ數法ニ觸レタル場合及ヒ(三)數所爲一罪ナル場合ニ於テハ法律上獨立セル數罪アルニ非ラサルヲ以テ併合罪ノ規定ヲ適用ス可キニアラス

(2) 二箇以上ノ罪ハ其何レニ對シテモ未タ確定裁判ナキコト若クハ一罪ハ他罪ノ確定裁判前ニ犯サレタルモノナルコトヲ要ス　故ニ數罪中ノ一罪ニ付キ既ニ裁判アルモ未確定ナル場合ニ於テハ併合罪タルヘキモ一罪ヲ犯シ之ニ對シ確定裁判アリタル後ニ至リ更ニ他罪ヲ犯シタル場合ハ併合罪ニ非ラスシテ累犯關係ナリ然レトモ一罪ヲ犯シ其罪ニ付キ確定裁判アリタル後ト雖モ該犯罪ノ確定裁判以前ニ犯シタル他ノ罪(即チ所謂後發餘罪)アル場合ニ於テハ其罪ト確定裁判ヲ經タル罪トヲ併合罪ナリトス本條後段ハ此場合ニ付キ規定セルモノニシテ例セハ警察犯處罰令違反ニヨリ拘留ニ處セラレタル者モ裁判確定後ニ至リ其裁判以前ニ於テ犯シタル竊盜罪發覺シタル場合ニ於テハ止タ警察犯

處罰令違反ノ罪ト後ニ發覺シタル竊盜罪トヲ以テ併合罪トシテ論スルカ如シ

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキハ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金科料及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

本條ハ併合罪ニ關シ本法ノ採用シタル併科主義ニ關スル例外規定ノ一ニ屬ス(舊刑法第百條第百三條)

第一項 本項ハ併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ其他ノ刑ヲ科セサルコトヲ定ム蓋シ死刑ハ極刑ニシテ事實上此以上ニ併科スヘキ方法ナキト此極刑ヲ科スル以上ハ縱令他ノ刑ヲ併科シ得ルトスルモ刑ノ目的ヲ達スルコト能ハサレハナリ例セハ殺人罪ト竊盜罪ト併發シタル場合ニ於テ殺人罪ニ付キ死刑ヲ科ス可シトスル以上ハ竊盜罪ノ刑ヲ科セサルカ如シ而シテ法文ニ併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキ云々トアルカ故ニ縱令死刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯スモ實際裁判上死刑ヲ科セサルトキハ本項ノ適用ナキモノトス例セハ前例ニ於テ殺人罪ニ付キ三年以上ノ有期懲役ヲ選擇シタルトキハ本項ノ適用ナキ結果トシテ併合罪ノ加重アルカ如シ但シ沒收ハ他ノ刑ト其性質ヲ異ニシ物其レ自體ノ存在ヲ法律カ禁スルニ在ルノミナラス各別ニ之ヲ執行シ得可キカ故ニ縱令死刑ヲ科ス可キトキト雖モ猶沒收ハ之ヲ併科ス可キモノナリトセリ即チ前例ニ於テ殺人罪ニ付キ死刑ニ處スヘキ場合ニアリテモ猶其二罪ニ付キ沒收スヘキ物件存スルトキハ併セテ之ヲ沒收シ得ヘキカ如シ

第二項 本項ハ併合罪中ノ一罪ニ付キ無期刑ヲ科ス可キ場合ニ於テモ亦前項ト同一理由ニヨリ他ノ刑ヲ科ス可ラサルコトヲ規定ス但本項ノ場合ニ於テハ罰金科料ハ之ヲ併科ス可キモノトセルハ他ナシ蓋シ前項ノ場合ニ於テハ將サニ此世ヲ去ラントスルモノナルヲ以テ之ニ對シ財產刑ヲ併科スルモ犯人ニ對シ刑ノ效力ヲ見サル可キニ由ルモノナルニ本項ノ無期刑ヲ科スル場合ハ大ニ之ニ異ナル事情存スルカ故ナリ

第四十七條 併合罪中二箇以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但シ各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ハ併合罪中二箇以上ノ有期刑ニ處スヘキ罪アル場合ニ於ケル併科制限ニ付キ規定ス(舊刑法第百條)

併合罪中二箇以上ノ有期懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ場合ニ於テ若シ本法ノ採用シタル原則タル併科主義ニ從ヘハ時ニ或ハ科刑數十年ノ長キニ亘ルコトアリテ甚タ苛酷ニ失スルヲ以テ本條ハ此場合ニ付キ一制限ヲ設ケ併合罪中ノ最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期ト爲ス可キコトヽシタリ而シテ併合罪中何レノ罪カ最モ重キカハ刑法第十條ニ依リ定メサル可ラス例セハ竊盜罪(第二百三十五條)ト横領罪(第二百五十二條)ト併發シタリトセハ長期ノ重キ竊盜罪重キカ故ニ同罪ノ刑ノ長期十年ノ半數即チ五年ヲ加ヘタル十五年ヲ長期トシ一月以上十五年以下ノ刑期範圍ニ於テ處斷セサル可ラサルカ如シ』然レトモ原則ハ併科主義ナリ故ニ如何ナル場合ニ於テモ併科以上ノ刑ヲ科スルヲ許サス然ルニ若シ併合罪中二箇以上ノ有期刑アル場合ニ於テ常ニ本條本文ノ規定ニ從ヒ其刑ヲ科ス可キモノトセンカ時ニ或ハ併合セル各罪ノ長期ヲ合算シタルモノヨリ超過スルコトアリテ却テ併科主義ニ制限ヲ加ヘタル立法趣旨ニ反スル結果ヲ見ルコトアリ故ニ本條但書ニ於テ更ニ一制限ヲ加ヘタリ即チ其加重シテ生ス可キ長期ハ各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノヨリ超過スルヲ得サルコトヽセリ故ニ例セハ强盜罪(第二百三十六條)ト贓物收受罪(第二百五十六條第一項)ト併發シタル場合ニ於テハ重キ强盜罪ノ長期十五年ニ其半數七年半ヲ加フレハ二十二年半ノ長期トナル可キモ强盜罪ト收受罪トノ長期ヲ合算スルトキハ十八年ナルヲ以テ此場合ニハ加重長期ヲ十八年以上トナスコトヲ得サル結果五年以上十八年以下ノ範圍內ニ於テ處斷セサル可ラサルカ如シ

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但シ第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二箇以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

本條ハ併合罪中ニ罰金刑ト他ノ刑トアル場合(第一項)及ヒ二箇以上ノ罰金刑アル場合(第二項)ニ付キ規定セリ

第一項 本項ハ原則タル併科主義ノ適用ヲ示シタル場合ニシテ併合罪中ニ罰金ト他ノ刑トアル場合ニ於テハ凡テ之ヲ併科ス可キモノトセリ蓋シ罰金刑ハ犯人ノ財產ヲ徵收スルモノナルカ故ニ他ノ刑ト共ニ之ヲ科スルモ二箇以上ノ有期刑ヲ科ス可キ場合ニ於ケルカ如ク不當ノ結果ヲ見ルコトナケレハナリ故ニ例セハ

罰金刑ニ處ス可キ過失傷害罪ト有期懲役ニ處ス可キ竊盜罪ト併發シタル場合ニハ罰金ト懲役トヲ併科ス可キカ如シ但シ第四十六條第一項ニ於ケル場合即チ併合罪中ノ一罪ニ付キ死刑ヲ科ス可キ場合ニアリテハ前述ノ理由ニヨリ罰金ヲモ科セサルコトヽセリ

第二項 本項ハ二箇以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス可キモノトセリ故ニ併合罪ニ罰金ヲ科ス可キ罪數箇アリタル場合ニ於テハ各罪ニ付キ各別ニ罰金額ヲ量定シテ之ヲ併科セス先ツ各罪ノ罰金額ヲ合算シテ其合算額內ニ於テ科ス可キ罰金額ヲ量定ス可キモノトス是レ理ニ於テハ二者共ニ異ナルコトナキモ後ノ場合ノ如クスルトキハ廣キ罰金額ノ範圍內ニ於テ自由ニ其額ヲ量定シ得ルノ便宜アルノミナラス結果ニ於テモ亦大ニ異ナルモノアレハナリ

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二箇以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

本條ハ併合罪中ニ沒收スヘキ物アリタル場合ニ付キ規定ス(舊刑法第百三條)

第一項 本項ハ併合罪中最モ重キ罪ニ沒收ナキ場合ニ於テモ他ノ輕キ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加シ得可キコトヲ規定セリ本法ハ第四十七條ニ於テ併科主義ノ例外ヲ規定シタル結果併合罪中最モ重キ罪ニ沒收ナキトキハ他ノ罪ニ沒收アルモ之ヲ附加シ得サルヤノ疑アルモ沒收ハ前述セルカ如ク他ノ刑ト其性質ヲ異ニスルモノナルカ故ニ併科主義ノ原則ニヨリ併合罪中ノ輕キ罪ニ沒收ス可キ物件アル場合ニ於テハ併テ之ヲ沒收シ得ヘキコトヽセルナリ

第二項 本項ハ併合罪中ニ二箇以上ノ沒收アル場合ニハ之ヲ併科スヘキコトヲ定ム蓋シ沒收ノ性質上之ヲ併科スルモ不當ノ結果ヲ見ルコトナカル可キヲ以テ原則ニ從ヒタルノミ

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

本條ハ餘罪後ニ發シタル場合即チ第四十五條後段ニ規定シアル併合罪ノ處斷方法ニ付キ規定ス(舊刑法第百二條)

舊刑法ハ後ニ發シタル餘罪ニ付キ輕キモノハ之ヲ論セス重キモノハ更ニ之ヲ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算スト規定セリト雖モ本法ハ併合罪ニ付キ併科主義

ヲ採リタル結果此場合ニテモ後發罪ノ輕重如何ヲ論セス凡テ更ニ之ヲ處斷スヘキモノトシタリ故ニ例セハ警察犯處罰令違犯ニヨリ拘留刑ニ處セラレタルモノ其裁判確定後ニ至リ其以前ニ犯シタル竊盜罪發覺シタルトキハ更ニ其裁判ヲ經サル竊盜罪ニ付キ處斷スヘキカ如シ

第五十一條 併合罪ニ付キ二箇以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

本條ハ併合罪ニ付キ二箇以上ノ裁判アリタル場合ニ於ケル刑ノ執行方法ニ付キ規定ス

併合罪ニ付キ二箇以上ノ裁判アリタル場合ニ於テハ併科主義ノ當然ノ結果トシテ其刑ヲ併セテ執行スヘキナリ然レトモ數箇ノ裁判中若シ一罪ニ付キ死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外地ノ刑ヲ執行セス又無期刑ヲ執行スヘキトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス又有期刑ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得サルモノトス蓋シ併合罪ヲ同時ニ裁判スル場合ニ於テハ既ニ第四十六條、第四十七條ニ於テ併科主義ニ一定ノ制限ヲ加ヘタルヲ以テ各別ニ之ヲ裁判セル場合ニ於テハ其執行ニ付テ同樣ノ制限ヲ加ヘ以テ其間ニ權衡ヲ失スルコトナカラシメタルニ外ナラス

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

本條ハ併合罪中或ル罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ關スル規定ナリ

併合罪ハ數罪ヲ併合シテ法律上一ノ刑ヲ科スルモノニシテ數罪カ爲メニ一罪トル爲ルニ非ラス各罪ハ猶ホ各自獨立ニ存在スルカ故ニ併合罪トシテ處斷セラレタル數罪中ノ一罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル結果其科刑消滅シタル場合ニ於テハ更ニ大赦ヲ受ケサル他ノ罪ニ付キ刑ヲ定ムル必要ヲ生ス是レ本條ノ規定アル所以ナリトス

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二箇以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併料ス

本條ハ併合罪中拘留又ハ科料ト他ノ刑トヲ科ス可キ罪アル場合(第一項)及ヒ數罪共ニ拘留又ハ科料ヲ科ス可キ場合(第二項)ニ關スル規定ナリ(舊刑法第百一條)

第一項 拘留及ヒ科料ハ舊刑法ニ於ケル違警罪ノ刑ナリ舊刑法ニ於テハ違警罪ト重罪輕罪ト俱發シタル場合ニ於テモ吸收主義ニヨリ違警罪ノ刑ハ重罪輕罪ノ刑ニ吸收セラルヽコトヽセリ然レトモ本法ハ原則トシテ併科主義ヲ採ルカ故ニ其適用トシテ本條ニ於テモ併合罪中ニ拘留又ハ科料ニ該ル罪ト他ノ罰金體刑ニ該ル罪トアルトキハ凡テ之ヲ併科ス可キモノトセリ但例外トシテ第四十六條ノ場合即チ併合罪中死刑又ハ無期刑ニ處スヘキ罪アルトキハ拘留又ハ科料モ之ヲ科セサルコトヽシタリ

第二項 本項モ亦併科主義ノ適用トシテ併合罪ノ各罪カ孰レモ拘留又ハ科料ニ該ル可キ場合ニ於テハ例外ナク之ヲ併科ス可キコトヲ定ム蓋シ是等ノ刑ハ極メテ輕微ナルヲ以テ之ヲ併科スルモ左マテ不當ナル結果ヲ生スルコトナカル可ケレハナリ

第五十四條 一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルヽトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

本條ハ學說上ニ所謂想像上ノ數罪ト稱スル場合及ヒ牽連犯ト稱スル場ニ關スル規定ナリ

第一項 本項ハ其前段ニ於テ所謂想像上ノ數罪ノ處分ニ付キ規定シ後段ニ於テ所謂牽連犯ノ處分ニ付キ規定ス左ニ之ヲ分說ス可シ

第一 想像上ハ數罪ハ場合 想像上ノ數罪トハ一個ノ行爲ニ因リテ數個ノ結果ヲ發生セシメタル場合ノ謂ニシテ之ヲ別チテ左ノ二類トナス

(1) 異種類ノ想像上ノ數罪トハ一行爲ヨリ生シタル數個ノ結果カ數個ノ法條ニ觸ルヽ場合ニシテ例セハ一發ノ彈丸ニ因リ硝子窓ヲ破壞シ更ニ進ンテ人ヲ射タルカ如ク其結果異種ナルヲ謂ヒ

(2) 同種ノ想像上ノ數罪トハ一行爲ヨリ生シタル數個ノ結果カ同一法條ニ觸ルヽ場合ニシテ例セハ一發ノ彈丸カ甲乙二人ヲ射殺シタルカ如ク其結果同種ナルヲ謂フ

從來本場合ノ處分ニ關シ學者或ハ一罪說ヲ採リ或ハ數罪說ヲ採リテ歸一セサルノミナラス判例モ亦區々タリシカ故ニ本法ハ明文ヲ以テ其最モ重キ刑ニ從ヒ處

分ス可キモノトシタリ即チ前例ノ如ク一發ノ彈丸ニヨリ殺人ト器物損壞トノ二結果ヲ生シタル場合ニ於テハ重キ殺人ノ刑ヲ以テ處分スヘキナリ

第二　牽連犯ノ場合　所謂牽連犯トハ一罪カ他罪ノ手段トナリ若クハ一罪カ他罪ノ結果タル場合ノ謂ナリ然ラハ如何ナル場合ニ於テ一罪カ他罪ノ手段タリ若クハ結果タリト云ヒ得ヘキカ學者或ハ適用ノ標準ヲ全ク犯人ノ主觀的意思ニ求メ若シ犯人カ甲罪ヲ犯サンカ爲メニ乙罪ヲ犯シタル場合ニ例セハ殺人罪ヲ犯サンカ爲メニ他人ノ兇器ヲ竊取シタルカ如キニアリテハ乙罪即チ竊盗ハ甲罪即チ殺人ノ手段ナリトシ又犯人カ甲罪ヲ犯シタル關係上更ニ乙罪ヲ犯シタル場合例セハ强盗殺人罪ヲ犯シタル者カ其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メニ放火シタルカ如キニアリテハ乙罪即チ放火ハ甲罪即チ强盗殺人ノ結果ナリト解スルモノアリト雖モ此ノ如ク因果關係ヲ一ニ犯人ノ意思ニ係ルモノトスルトキハ同一事實關係カ此ニアリテハ手段タルヘキモ彼ニアリテハ手段タラサルカ如キ奇觀ヲ呈スルニ至ルヲ以テ正解ニ非ス蓋シ法律カ二罪ノ間ニ因果的牽連關係アル場合ニ之ヲ合一罪ト爲スニ其間ニ法律上分離ス可ラサル直接關係アルニ基由スルモノト解スヘク從テ所謂犯罪ノ手段タル行爲トハ或ル犯罪ノ性質上普通之カ手段トシテ用ヒラルヘキ行爲ニシテ而カモ其犯罪ノ構成要件ニ非ラサル場合ナリ即チ例セハ同一人カ文書ヲ僞造シテ行使シタル場合ニ於テハ僞造ノ行爲ハ行使罪ノ手段ナリト云ヒ得ヘキモ恐喝取財罪ニ於ケル脅迫ハ恐喝取財罪ノ構成要件行爲ニ屬スルヲ以テ此場合ニ於ケル恐迫ハ手段ト云フ可ラサルカ如シ又所謂犯罪ノ結果タル行爲トハ或ル犯罪カ原因ト爲リ其當然ノ結果トシテ生シタル行爲ナリ即チ例セハ前例ノ文書僞造行使ノ場合ニ於テ行使ハ法律カ豫期シタル僞造ノ結果タルカ故ニ行使ハ僞造ノ結果ナリト云ヒ得ヘキモ强盗殺人ヲ爲シタル者其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メニ放火シタル場合ニ於テハ放火ハ强盗殺人ノ當然ノ結果ニ非ラスシテ偶々犯人カ自己ノ犯跡ヲ蔽ハンカ爲メニセシモノナレハ二者ノ間ニ何等法律上ノ牽連存セス從テ本條ヲ適用スヘキ限ニアラサルカ如シ

第二項　本項ハ第四十九條第二項ノ規定ハ之ヲ前項ノ場合ニ適用ニヘキコトヲ定ム蓋シ想像上ノ數罪及因果關係アル牽連犯ハ併合罪中ニ規定シアリト雖モ純然タル併合罪ニ非サルヲ以テ若シ前項ノ場合ニ於テ沒收スヘキ物件數個アルトキハ第四十九條第二項ニ同シク之ヲ併科シ得ヘキコトヲ特ニ規定セルモノトス

第五十五條　連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルヽトキハ一罪ト

シテ之ヲ處斷ス

本條ハ學說上ニ所謂連續犯ニ關スル規定ナリ

連續犯ニ關シ明文ヲ缺キタル舊刑法ノ下ニ在リテハ其一罪ナリヤ數罪ナリヤニ付キ多少疑義アルヲ免レサリシヲ以テ本法ハ舊法ノ缺ヲ補ヒ明文ヲ以テ一罪トシテ之ヲ處斷スヘキコトヲ規定シタリ而シテ連續犯トシテ本條ノ適用ヲ受クルニハ左ノ條件ヲ具備セサル可ラス

(一) 連續シタル數箇ノ行爲アルコト

連續ノ意義ニ關シ法文別ニ明示スル所ナキヲ以テ其區別ノ標準ニ關シテ學者ノ說ク所一定セス或ハ之ヲ客觀的ニ採リテ連續犯タルニハ時及ヒ場所ノ關連アルコト及ヒ其方法ノ同樣ナルコトヲ要スト云ヒ或ハ之ヲ主觀的ニ採リテ連續犯タルニハ唯犯人ノ單一意思ノ發動ニ基クコトヲ以テ足ルト云フ此ノ如ク二主義ノ說ク所理論上差異アリト雖モ實際ノ適用上ニ於テハ略ホ同一ノ結果ニ歸着ス蓋シ犯人ノ所爲カ果シテ單一意思ニ出テシヤ否ヤヲ認定スルニ付テハ時及ヒ場所ノ關係方法ノ如何ヲ顧慮セサル可ラス即チ一所爲ト他所爲トノ間ニ長日月ヲ經タルカ如キ場合又ハ犯罪ノ場所カ數百里ヲ距テタルカ如キ場合又ハ犯罪ノ方法カ前後著シク異ナリタルカ如キ場合ノ如キハ事實上之ヲ單一ナル犯意ノ發動ニ出テタルモノト認ムルコト難キニ反シ引續キ同一人ニ對シ同一方法ヲ以テ其所有物ヲ竊取シタルカ如キ場合ハ之ヲ單一ナル犯意ノ發動ニ出テタルモノト認メ得ヘキヲ以テナリ而シテ我大審院ハ意思說ヲ採レルコトヲ數々判示セラル

(二) 同一ノ罪名ニ觸ルヽコト 故ニ縱令數個ノ行爲カ連續的ニ行ハレタル場合ナリト雖モ其各行爲カ各別個ノ罪名ニ觸レタル場合ハ連續犯トシテ處分スルコトヲ得ス例セハ先ツ竊盜ヲ爲シ次テ詐欺ヲ犯シタル場合ノ如キハ例令犯人カ同一人ニ對シ之ヲ犯スヘキ包括的意思ニ出テタリトスルモ連續犯ニアラスシテ竊盜及ヒ詐欺ノ二罪ナルニ反シ犯人カ同一倉庫內ニ藏シアル米ヲ連續相續テ一俵宛竊取シタルカ如キハ連續犯トシテ處斷スヘキカ如シ而シテ茲ニ所謂同一罪名トハ同一法條ト云フ意味ニ解スヘキカ將タ又橫領若クハ詐欺罪ト云フカ如ク包括的罪名ト云フ意味ニ解スヘキカニ付テハ說別ル我大審院ハ後說ヲ採リ普通橫領罪(第二百五十二條)ト業務上ノ橫領罪(第二百五十三條)ヲ犯シタル場合ニ於テモ單一犯意ニ出テタリト認ム可キ以上ハ本條ニ據リ一罪トシテ重キ業務上ノ橫領罪ノ刑ヲ科スヘキモノトセラレタリ

第十章　累犯

一　本章ハ舊刑法第一編第五章「再犯加重」ニ相當スル規定ナリ舊刑法ニ於テハ再犯加重ト題セシカ再犯以上三犯、四犯、五犯等ヲモ總テ包含セシムル用語トシテハ穩當ナラサルヲ以テ本法ハ改メテ累犯ト改題シタルモノナリ

二　前ニ罪ヲ犯シ一度處刑セラレタルニ猶改悛セスシテ再ヒ犯行ヲ敢テスルニ至リタル慣行性犯人ハ初犯者ニ比シ其惡性一層甚シキモノナルカ故ニ是等累犯者ニ對シテハ一層重刑ヲ以テ臨ムニアラサレハ懲戒ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス是ニ於テ法律ハ累犯者ニ對スル加重制度ヲ設ケ科スルニ重刑ヲ以テス我舊刑法ハ累犯者ニ對シ僅ニ一等ヲ加重スルニ止メタル結果其效力少ナク爲メニ逐年累犯者ノ數ヲ增加スルニ至リシカハ本法ハ一層加重範圍ヲ擴大シタリ

三　一般ニ累犯ト云ヘハ前ニ罪ヲ犯シ其確定裁判ヲ受ケタル後ニ至リ更ニ罪ヲ犯シタル場合ヲ意味スト雖モ現行法ノ下ニ於ケル所謂累犯ハ之ヨリ狹義ノモノニシテ前ニ懲役刑ニ處セラレタル者其執行ヲ了ハリ若クハ其免除ヲ得タル日ヨリ五年內ニ更ニ再ヒ懲役刑ニ該ル罪ヲ犯シタル場合ニ限ル確定判決アリタルコトヲ要スルカ故ニ一罪ヲ犯シテ逃走シ此罪ニ付キ闕席裁判ヲ受ケ該裁判未タ確定セサル間ニ更ニ他罪ヲ犯シタル場合ハ累犯ニ非ラスシテ併合罪ナリ然レトモ犯罪ノ着手カ前罪ノ裁判ノ確定以前ニアルモ該裁判確定後ニ至リ犯罪完了シタルトキハ累犯タルヲ妨ケス

四　本法總則ハ他ノ刑罰法令ニモ適用アルカ故ニ累犯ニ關スル本章規定モ亦他ノ特別刑罰法令ノ犯罪ニ對シ適用アルヘキコト勿論ナリト雖モ特別法中或ハ特ニ刑法ノ累犯規定ヲ適用セサルコトヲ明示スルモノアリ例セハ出版法、新聞紙法及ヒ酒造稅法等ノ如シ此ノ如キ特別規定アル法令違犯ニ對シテハ本法第五十六條ノ條件ヲ充タスヘキ前科アルモ再犯者トシテ處罰シ得ス然レトモ之レト反對ニ此特別法ニヨリテ處刑セラレタル者カ更ニ他ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ本法ニヨリ累犯者トシテ處斷スルヲ妨ケサルモノトス

五　本章規定スル所前後四條ニシテ其內容ヲ類別スレハ(一)累犯ノ條件(第五十六條)(二)累犯刑ノ加重限度(第五十七條)(三)累犯加重決定(第五十八條)及ヒ(四)三犯以上ノ處分(第五十九條)是ナリ

以下各本條ニ付キ其意義ヲ略說スヘシ

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ』

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重ノモノニ非ラスト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス

本條ハ再犯トシテ論スヘキ場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第九十一條乃至第九十三條)

第一項 本項ハ再犯ノ條件ニ付キ規定ス左ノ如シ

(一) 前ニ懲役ノ刑ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコト

舊刑法ニ於テハ重罪ノ前科アル者再犯重罪ニ該ル場合、重罪輕罪ノ前科アル者再犯輕罪ニ該ル場合及ヒ違警罪ノ前科アル者一年内ニ再犯違警罪ニ該ル場合ニ各一等ヲ加重スヘキモノトシタルヲ以テ再犯加重ヲ爲スヘキ場合頗ル多ク必要ナキ場合ニモ猶ホ加重スルノ弊アリタリ然ルニ本法ニ於テ唯累犯ノ處アル懲役刑ニ處セラレタル場合ニノミ限リ再犯加重ヲ爲ス可キモノトセリ從テ禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ前科トシテ加重原因タラス而シテ法ハ懲役刑ニ處セラレタルコトヲ要求スルカ故ニ例令懲役刑ニ該ル罪ヲ犯スモ特別原因ノ爲メニ犯罪成立ノ場合又ハ法律カ特ニ刑ヲ免除シタル結果處刑ナクシテ止ミタル場合ノ如キハ再犯タラス又法律ハ其刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタルコトヲ要スルカ故ニ縱令懲役刑ニ處セラルヽモ未タ其執行ヲ終ラサル間又ハ執行ノ免除ナキ間ニ犯シタル場合ハ再犯ヲ以テ論スヘキニアラス

(二) 五年内ニ再ヒ罪ヲ犯シタルコト 舊刑法ニ於テハ初犯ト再犯トノ間如何ニ長年月ヲ至ルモ再犯トシテ加重シタル結果初犯後改悛シテ正業ニ從フコト數十年而カモ偶々再ヒ刑辟ニ觸ルヽニ至リタルカ如キ場合ニモ猶再犯加重ヲ免レサリシカ元來累犯加重ノ制度ハ慣行的惡性アル犯人ニ臨ムニ重刑ヲ以テシ因テ以テ再犯ヲ豫防スル趣旨ニ出テタルモノナルカ故ニ初犯ト再犯トノ間ニ長年月ヲ經過シタル場合ニ於テハ犯人ハ一度改悛シタルモノト認メ得可キヲ以テ之ニ加重刑ヲ科スルカ如キハ本制度ノ趣旨ニ副ハサルノミナラス頗ル苛

酷タルヲ免レス是ニ於テ法律ハ再犯例ノ適用ニ付キ一制限ヲ設ケ初犯ヨリ五年ヲ經過シタル後ニ於テハ再犯ヲ以テ論ス可キモノニアラスト定ム

(三) 再犯ノ罪ハ有期懲役ニ處スヘキコト　再犯ノ罪有期懲役ニ該ルコトヲ要スルカ故ニ若シ再犯ノ罪死刑、無期刑若クハ禁錮以下ノ刑ニ處ス可キトキハ再犯例ノ適用ナシ蓋シ死刑又ハ無期ニ對シテハ加重ノ必要ナキヨリモ寧ロ加重スルコト能ハサルニ由ルヘク又禁錮以下ノ刑ニ對シテハ其罪質加重スルヲ必要トセサリシニ由ルナリ

第二項　本項ハ前ニ懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタルモノ其執行ノ免除ヲ得若クハ減刑ノ結果懲役ニ輕減セラレタル場合ニ於テハ前項ト同一條件ノ下ニ再犯加重ヲ爲ス可キモノトセリ蓋シ本項規定ノ者再犯シタル場合ニ於テハ前項規定ノ者ニ比シ危險一層甚シキヲ以テ其刑ヲ加重スル必要アルヲ以テナリ例セハ殺親罪ヲ犯シ死刑ニ處セラレタル者減刑ニヨリ有期懲役ニ減輕セラレタル者出獄後再ヒ竊盜罪ヲ犯シタル場合ノ如キハ本項ニヨリ再犯加重ヲ爲スヘキナリ

第三項　本項ハ併合罪中ノ處斷罪カ懲役刑ニ該ラサル罪ナリト雖モ其併合罪中ニ懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役刑ニ處セラレタル者ト見做ストセリ蓋シ併合罪ハ其刑ヲ併科セルト否トヲ問ハス其各罪ハ各罪トシテ獨立存在スルモノナルカ故ニ縱令其處斷罪ハ懲役ニ該ル可キ罪ナラストスルモ他ニ懲役ニ處スヘキ罪アル場合ハ犯人ノ慣行的惡性ハ前二項ノ場合ニ異ナルコトナカルヘキヲ以テナリ故ニ例セハ前ニ內亂豫備罪ト竊盜罪トヲ犯シ重キ內亂豫備罪ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者出獄後更ニ竊盜罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ本項ニヨリ再犯者トシテ論スヘキカ如シ

第五十七條　再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

本條ハ再犯ノ刑期限度ニ付キ規定ス(舊刑法第九十一條乃至第九十三條)

舊刑法ニ於テハ再犯ノ刑ハ初犯ノ刑ニ一等ヲ加重スルコトヽシ重罪ニ付テハ刑名每ニ一等トシ輕罪ニ付テハ各本條ノ刑期金額四分ノ一ヲ以テ一等トシタリ故ニ前科十數犯ノ竊盜犯人ニ對シテモ猶重禁錮五年ヲ超ユルコトヲ得サリシ結果遂ニ累犯加重法制ノ立法趣旨ヲ貫クコトヲ得サリシ慨少カラサリシカ本法ハ此積弊ニ鑑ミ再犯刑ノ範圍ヲ擴大シ其罪ニ付キ定メラレタル刑ノ長期二倍ニ至ルヲ得セシメタリ故ニ例セハ竊盜ノ再犯者ニ對シテハ長期十年ノ二倍即チ二十年

ノ懲役ヲ科シ得ヘキニナリ

第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス

本條ハ裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタル場合ニ關スル規定ナリ凡ソ犯人ハ輕キ處刑ヲ希フヨリ裁判當時ニ於テ僞名其他アラユル手段ヲ以テ前科ヲ蔭蔽シ初犯者トシテ輕ク刑セラレテ止ム場合實際少カラス法律カ若シ此場合ニ處スル方法ヲ規定セサランカ如何ニ前科發見ニ力ヲ盡スモ悉ク之ヲ發見シ得サル結果狡猾ナル再犯者ハ仍ホ初犯者トシテ輕ク刑セラレテ止ミ法律カ再犯加重制度ヲ設ケタル趣旨ハ遂ニ沒却シ去ラルヽニ至ル可ク殊ニ舊刑法ニ比シ加重刑ノ範圍ヲ擴大シタル本法ノ下ニ在リテハ前科ヲ蔭蔽スルコト愈々多カル可キカ故ニ本法ハ舊刑法ノ缺ヲ補ヒ本條規定ヲ設ケタリ

第一項 本項ハ裁判確定後ニ至リ其再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ第五十七條ニ從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム可キコトヲ規定ス法文ニハ單ニ裁判確定後ニ至リ云々ト規定シアルヲ以テ如何ナル時期マテニ再犯者タルコトヲ發見スルヲ要スルヤ一見不明ナルカ如シト雖モ之ヲ第二項ト對照スレハ懲役ノ執行ヲ終ラサル以前又ハ執行ノ免除アル以前ニ於テ發見スルヲ要スルコト明カナリ而シテ若シ再犯者タルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ裁判所ハ刑法施行法第五十三條ノ規定ニ從ヒ決定ヲ以テ加重ス可キ刑ヲ定ム可キモノトス

第二項 本項ハ前項ニ對スル例外ヲ規定ス即チ既ニ懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ執行ノ免除アリタル後ニ至リ再犯者タルコトヲ發見シタル場合ニハ加重決定ヲ爲ス可ラサルコトヲ定ム蓋シ既ニ服從ヲ終リタル者又ハ執行ノ免除ヲ得タル者ニ對シ更ニ加重ヲ爲スハ犯人ニ對シ頗ル苛酷ニ失スルノ嫌アルヲ以テナリ

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

本條ハ三犯以上ノ者ニ對スル處分ニ付キ規定ス(舊刑法九十八條)

三犯以上ノ者ハ再犯者ニ比シ其情狀重キモノナリト雖モ既ニ法律ハ再犯者ニ對シ充分ノ加重刑ヲ定メアルヲ以テ三犯者以上ニ對シ漸次其刑ヲ加重スルハ却テ他ノ刑トノ權衡ヲ失スルニ至ル可キヲ以テ本法ハ三犯以上ノ者ト雖モ特別ナル加重ヲ爲サス再犯者ニ同シク其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期二倍以下ノ範圍內

ニ於テ處斷スヘキモノトセリ

第十一章　共犯

一　本章ニ相當スル舊刑法第一編第八章ニ於テハ數人共犯ト題セシト雖モ二人以上アルニアラサレハ共犯關係成立シ得サルコト勿論ナレハ特ニ數人共犯ト云フノ要ナキナリ故ニ本法ニ於テハ單ニ共犯ト改題スルト同時ニ其規定ノ內容ニ至リテモ修補セラレタル所少カラス即チ從來舊刑法ニ其規定ヲ缺キタル教唆ノ教唆ヲ罰シ從犯ノ教唆ヲ罪トシ又身分ヲ構成要件トセル罪ニ身分ナキ者ノ共犯關係ニ付キ特ニ明文ヲ設ケ以テ從來ノ疑問ニ解決ヲ與ヘタルカ如キハ其主要ナル點ナリトス

二　共犯全體ニ通シテ云ヘハ共犯トハ二人以上ノ共同ニ因テ一罪成立スル場合別言スレハ數人一罪ノ場合ナリ學者或ハ共犯者ハ共ニ同一ノ犯意ヲ以テ其行爲ヲ爲スコトヲ要スト說クモノアリト雖モ少ナクトモ從犯ノ場合ニ於テハ必ラスシモ正犯ト從犯トハ同一犯意ニ出ツルコトヲ要セス正犯ハ自己ヲ幇助スル者アルコトヲ知ラサル場合ナリト雖モ從犯ハ他人ノ罪ヲ犯スコトヲ知リ之ニ幇助ヲ與フルニ因リテ成立スルカ故ニ共犯全體ニ通スル觀念トシテハ同一犯意ニ出ツルコトヲ要スト謂フハ當ラサルナリ

三　共犯ハ二人以上ノ共同ニ因リテ一罪成立ス故ニ共犯ノ行爲ハ法律上之ヲ包括一體トシテ觀察ス可キヲ以テ各犯人ニ付キ個別的ニ觀ルトキハ犯罪行爲ノ全部ヲ構成セサルモ合一セラレテ一ノ犯罪トナル從テ共犯ノ一人ノ行爲ニ對シテハ他ノ共犯者モ亦其責ニ任セサル可ラサルナリ故ニ例セハ二人共謀シテ强盜ヲ爲サンコトヲ企テ一人カ暴行脅迫ヲ加ヘ他ノ一人カ財物ヲ奪取シタル場合ニ於テハ二人ノ行爲合一シテ一ノ强盜罪ヲ構成スルカ故ニ二人共ニ强盜犯トシテ其責ニ任セサル可ラサルカ如シ

四　共犯ノ特色ハ犯罪主體ノ複數ナルニ在リ然レトモ其數人ハ各自由ナル決意ヲ以テ共同シテ犯罪行爲ヲ遂行スルヲ要スルカ故ニ一人カ他人ノ行爲ヲ利用シテ自己ノ犯罪ヲ遂行シタル場合ハ學說上之ヲ間接正犯ト稱シ共犯ト區別ス

五　共犯ハ二人以上ノ共同行爲ニ因リテ一罪ヲ構成ス從テ犯罪既ニ成立シタル後ニ至リテハ他人カ共ニ之ヲ犯スト云フ場合ナシ所謂事後共犯ハ其實共犯ニ非ラス即チ彼ノ犯人藏匿罪(第百三條)罪證湮滅罪(第百四條)ノ如キハ學者或ハ之ヲ事

後其ナリト說クモノアルモ之レ全ク別個ノ獨立罪ナリ

六　過失罪ニ共犯アリヤ否ヤハ學者其所說ヲ異ニス即チ(一)全然之ヲ認容スル積極說ト(二)全然之ヲ否認スル消極說ト(三)實行正犯ニ關シテハ之ヲ認メ敎唆犯及ヒ從犯ニ關シテハ之ヲ認メサル折衷說アリト雖モ要スルニ共犯ノ根本觀念ト過失ノ意義如何ニヨリテ決セラル可キ問題ナリトス

七　二人以上共同シテ一罪ヲ犯スニ當リ其各人ノ執ル所ノ行爲相同シカラス今其行爲ノ種類ニ因リ之ヲ區別スレハ(一)實行正犯(二)敎唆犯及ヒ(三)從犯ノ三トナス而シテ其本質ニ付テハ本法第六十條以下ニ規定ス

八　犯罪ハ多ク一人ニテ之ヲ犯スコトヲ得而モ數人ノ共同ニ因リテ此種ノ罪ヲ犯スコトアリ之レ即チ所謂任意共犯ニシテ共犯ニ關スル規定ハ主トシテ此場合ニ其適用ヲ見ルナリ例セハ竊盜罪ハ一人ニテ之ヲ犯シ得ルモ亦二人以上ノ共同ニ因リテモ之ヲ犯スコトヲ得ルカ如シ是ニ反シテ犯罪ノ性質上二人以上ヲ要スルニ非ラサレハ犯罪成立シ得サル場合アリ之レ即チ所謂必要共犯ニシテ例セハ騷擾罪、內亂罪又ハ姦通罪ノ如キハ法律カ二人以上ニ因リテ犯スコトヲ豫想セルモノナリ而シテ共犯ニ關スル規定ハ此場合ニモ通シテ適用アル可キカ否カニ付テハ學者間ニ議論アル所ナリト雖モ予輩ハ暫ラク之ヲ積極ニ解セントス

九　本章收ムル所前後六條其內容ヲ類別スレハ(一)實行正犯(第六十條)(二)敎唆犯(第六十一條)(三)從犯(第六十二條乃至第六十四條及ヒ身分ナキ共犯者ノ責任(第六十五條)是ナリ

以下各本條ニ就キ略說ス可シ

第六十條　二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ正犯トス

本條ハ共犯ノ第一場合タル實行正犯ニ付キ規定ス(舊刑法第百四條)

實行正犯トハ次條ニ規定セル敎唆者ニ對スル名稱ニシテ二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ノ謂ナリ而シテ所謂實行正犯タルニハ法律上次ノ二條件ヲ具ヘサル可ラス

(一)　實行正犯者ハ共同ノ犯意アルコトヲ要ス　即チ自己ノ外ニ他ノ犯罪者アルコトヲ認識シテ而カモ之レト共ニ同一犯罪ヲ犯ス意思ヲ有スルコトヲ要ス而シテ此犯意カ共犯者雙方ニ存スルコトヲ要スルヤ將タ又一方ノミニ存スルヲ以テ足レリトスルヤノ問題ニ關シテハ從來學者間ニ雙方說及ヒ一方說ノ二說アリト雖モ多數說ハ其一方ニノミ存スルヲ以テ足レリトス故ニ例セハ一倉庫

内ヨリ米ヲ竊取セントスル甲乙二人アリテ甲者ハ表ヨリ忍入リ乙者ハ裏ヨリ侵シテ共ニ米ヲ竊取シタル場合ニ於テ甲者ハ乙者アルヲ知ラス乙者ノミ甲者ノ共ニ竊盗ヲ爲シツヽアルコトヲ知リタルトキハ乙者ニ對シテノミ共犯關係成立シ其結果乙者ハ甲者ノ行爲ニ對シテモ其責ヲ負ハサル可ラサルニ反シ甲者ハ唯自己ノ行爲ニ對シ　ノミ其責ヲ負フ可キカ如シ

(二)　二人以上共同シテ犯罪ヲ實行スルコトヲ要ス　茲ニ所謂共同シテ犯罪ヲ實行スルト云フハ犯罪ヲ遂クルニ必要ナル行爲ヲ行ヒタルノ意味ニ解スヘク從テ次ノ二場合アリ得ヘシ

(イ)　犯罪ノ構成要件タル行爲ハ一部以上ヲ分擔シタル場合　例セハ強盗罪ハ暴行脅迫ト奪財トニヨリテ成立スル罪ナルヲ以テ若シ此要素ノ何レニカ加工シタル場合ニ於テハ強盗罪ノ共同正犯トシテ其責ニ任セサル可ラサルカ如シ

(ロ)　犯罪ノ構成要件タル行爲ハ一部以上ノ實行者ニ重要ナル助力ヲ與ヘタル場合　例セハ數人共ニ竊盗ヲ爲スニ方リ見張番ノ任ニ當リシモノハ即チ竊盗罪ノ成立ニ重要ナル助力ヲ與ヘタルモノトシテ實行正犯ノ責ニ任ス可キカ如シ

二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル以上ハ各共犯者ハ其刑ヲ分擔スルニ非ラスシテ恰モ各自單獨ニテ犯罪ヲ遂行シタルト同一ノ罪責ニ任ス可キナリ從テ共犯者中ニ特別ノ理由ニ因リ其刑ヲ減免セラルヽ者アルモ他ノ共犯者ニ對シテハ毫モ影響ナキナリ

第六十一條　人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

本條ハ共犯ノ第二場合タル教唆犯ニ付キ規定ス(舊刑法第百五條)

第一項　本項ハ實行正犯ヲ教唆シタル場合ノ規定ニシテ教唆者ヲ正犯ニ準シ處罰スヘキモノトセリ

抑教唆トハ他人ヲシテ犯罪ノ實行ヲ爲サシムルノ謂ナリ故ニ教唆罪ノ成立ニハ次ノ三條件ヲ具備スルヲ要ス

(一)　故意ニ他人ヲシテ罪ヲ犯スノ決意ヲ生セシメタルコトヲ要ス　約言スレハ教唆ハ造意行爲ナリ人ヲシテ犯意ヲ生セシムルコトヲ要スルカ故ニ既ニ犯意アル者ニ對シテハ教唆ナル問題ノ起リ得可キ餘地ナシト雖モ既ニ甲者乙者ノ

爲メニ教唆セラレシモ躊躇猶未タ決セサルニ方リ更ニ丙者カ其實行ヲ勸誘シタル爲メ犯人ハ初メテ決意スルニ至リシ場合ハ乙丙ハ共ニ教唆タルヲ妨ケス是レ所謂共同教唆ト稱スル場合ナリ

此ノ如ク教唆ハ犯罪ノ造意行爲ナリ而シテ所謂造意行爲アリト云ヒ得ルニハ教唆者カ被教唆者ニ對シ特定ノ犯罪事實ヲ指示シ被教唆者ハ此指示ニ基ツキテ犯意ヲ惹起シタル場合ナラサル可ラス從テ被教唆者ニ對シ單ニ罪ヲ犯ス可シト云フカ如キ概括的ノ指示ナル場合ハ未タ犯罪事實特定セリト云ヒ得可カラサルカ故ニ法律上教唆行爲アリトナスヲ得ス然レトモ教唆者カ被教唆者ニ對シ特定ノ犯罪事實ヲ指示シタル以上ハ其明示タルト默示タルトヲ區別ス可キニアラス

(二) 被教唆者カ犯罪行爲ヲ實行シタルコトヲ要ス　茲ニ所謂實行トハ實行ノ着手ヲモ含ム故ニ被教唆者カ教唆ニ應シテ犯罪ニ着手シタル以上ハ茲ニ教唆罪ハ成立ス之ニ反シテ若シ被教唆者カ未タ犯罪ニ着手セサル間ハ教唆行爲トシテハ完成スルモ教唆罪ハ未タ成立セス別言スレハ未遂ノ教唆ハ罪ナリ教唆ノ未遂ハ罪ニアラス

教唆者ハ處分ニ關シテハ法文ニ正犯ニ準スト規定シアリ蓋シ教唆者ハ實行正犯ニ非ラサルモ造意者ナルヲ以テ其責任ニ於テハ正犯ニ準シテ處罰スヘキコト當然ナレハナリ

第二項　本項ハ教唆ノ教唆ニ關スル規定ナリ

舊刑法ノ下ニ於テハ教唆ノ教唆ヲ罰ス可キカ否カニ就テハ學者間異論アリシノミナラス實例ハ之ヲ消極的ニ解釋シアリシ結果實際上奸譎ノ徒ハ自ラ直接ニ教唆セスシテ他人ヲ使嗾シテ教唆セシメ因テ以テ自己ノ所思ヲ達シナカラ而カモ自己ハ免レテ晏如タリシヲ見ル於是本法ハ教唆ノ教唆ヲモ罰ス可キコトヲ規定シ以テ舊刑法ノ缺ヲ補ヒ斯カル不逞ノ徒ヲシテ免レサラシメンコトヲ期シタリ

第六十二條　正犯ヲ幇助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

本條ハ共犯ノ第三場合タル從犯ニ付キ規定ス(舊刑法第百九條)

第一項　本項ハ從犯ノ成立ニ付キテ規定シ正犯ヲ幇助シタルモノハ從犯トストナス故ニ從犯タルニハ左ノ二條件ヲ具備スルコトヲ要スルナリ

(一) 正犯ヲ幇助スルコトヲ要ス　即チ幇助行爲ヲ以テ正犯ノ犯罪行爲ニ加功ス

ルコトヲ要ス故ニ其行爲カ幇助行爲タル點ニ於テ前述セル實行正犯ト之ヲ區別ス然ラハ如何ナル行爲ヲ以テ幇助行爲ト爲シ如何ナル行爲ヲ以テ實行行爲ト爲ス可キカ此區別ノ標準ニ關シテハ諸說アリト雖モ予輩ノ最モ妥當ナリト信スル說ハ行爲カ犯罪遂行ニ及ホス影響ノ大小ニヨリテ之ヲ區別スルニアリ即チ犯罪ノ實行ニ重大ナル影響ヲ與フルヲ實行行爲トシ(正犯)犯罪ノ實行ニ輕微ナル影響ヲ與フルニ過キサルモノヲ幇助行爲(從犯)トナスニアリテ我大審院モ亦此說ヲ採ル而シテ或ル行爲カ果シテ犯罪實行ニ重大ナル影響ヲ及ホシタルヤ將タ又輕微ナル影響ヲ及ホシタルニ止マリタルヤハ全ク事實問題ニシテ各場合ニ付キ審究シテ之ヲ決セサル可ラスト雖モ舊刑法ニ所謂器具ノ給與又ハ誘導指示等ノ行爲ハ幇助ノ適例ナルヘシ

要スルニ從犯ハ正犯ヲ幇助スルニ因リテ成立スルモノナルカ故ニ從犯ノ成立ニハ正犯ノ成立シアルコトヲ前提トス從テ縱令犯罪實行ニ幇助ヲ與ヘタル事實アルモ未タ正犯カ罪トシテ處罰セラレサル場合ハ從犯モ亦罰セラレサルヘキナリ

(二) 正犯ノ犯罪ヲ幇助スル意思アルコトヲ要ス　即チ幇助者ニ於テ正犯ノ犯罪アルコトヲ認識シ併セテ自己ノ行爲カ正犯ノ犯罪實行ヲ容易ナラシムルコトヲ認識スルコトヲ要ス此ノ如ク從犯ノ成立ニハ從犯者一方ニ犯意アルヲ以テ足ルモノニシテ正犯ト從犯トノ間ニ於テ互ニ意思ノ共通スルコトヲ要セス從テ正犯ニ於テハ自己ノ犯罪ヲ幇助スルモノアルコトヲ知ラサル場合ニ於テモ尙ホ從犯ハ成立シ得ルナリ

第二項　本項ハ從犯ヲ敎唆シタル者ノ責任ニ付キ規定シテ從犯ニ準スヘキモノトセリ蓋シ從犯ヲ敎唆シタル者ハ即チ從犯ノ犯意ヲ作爲シタル者ナルカ故ニ從犯ニ準シテ之ヲ罰スヘキコト當然ナレハナリ

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

本條ハ從犯ノ刑罰ニ付キ規定ス(舊刑法第百九條)

從犯ハ正犯ヲ幇助スルニ因リテ成立ス即チ正犯ハ主ニシテ從犯ハ從タリ二者ノ情狀決シテ同日ノ論ニアラス故ニ從犯ニ對シテハ夫ノ敎唆犯ト異ナリ正犯ト同一程度ノ刑ヲ科ス可ラサルヤ勿論ナルヲ以テ本法ハ舊刑法ニ同シク從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕スヘキコトヲ定メタリ而シテ其減輕ノ程度ハ第十三章ニ規定シアル加減例ニ依據シテ定ムヘキナリ即チ例セハ竊盜犯ヲ幇助シタル者ハ

竊盜罪ニ付キ定メラレタル十年以下ノ懲役刑ノ二分ノ一即チ十五日以上五年以下ノ刑期範圍内ニ於テ處セラルヘキカ如シ

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非ラサレハ之ヲ罰セス

本條ハ拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆犯及ヒ從犯ニ關スル特別規定ナリ』元來拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ハ即チ舊刑法ニ所謂違警罪ニシテ其罪質極メテ輕微ナルヲ以テ多クノ場合ニ於テハ既ニ其本犯ヲ處罰スレハ則チ其目的ヲ達シ得可キナリ故ニ本法ハ之ヲ罰セサルコトヲ原則トシ法律カ之ヲ罰スル要アリトシテ特ニ規定セル場合ニ限リ例外トシテ處罰ス可キコトヽシタリ

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

本條ハ犯人ノ身分ヲ構成要件トスル犯罪ニ加功シタル身分ナキ共犯者ニ關スル規定ナリ(舊刑法第百六條第百十條)

第一項 本項ハ犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行爲ニ加功シタル者ハ其身分ナキ者ト雖モ仍ホ其罪ノ共犯トシテ論ス可キコトヲ規定ス例セハ收賄罪タルニハ犯罪ノ主體ニ公務員又ハ仲裁人タル身分アルコトヲ其構成要件トス故ニ此身分ナキ者ハ單獨ニテハ此罪ヲ犯スコトヲ得サルコト勿論ナリト雖モ公務員若クハ仲裁人ト共ニ此罪ヲ犯シ、之ヲ教唆シ若クハ之ヲ幫助シタル場合ニ於テハ如何ニ處分スヘキカノ問題ヲ生スヘシ舊刑法ニハ本問ニ關スル規定ヲ缺如シタル結果學說實例共ニ歸一スル所ナカリシカ等シク共犯者ニシテ一ハ罰セラルヽニ反シ其身分ナキノ故ヲ以テ免ルヽヲ得トナスカ如キハ失當タルヘキコト明白ナルカ故ニ本法ハ特ニ本條第一項ニ之カ明文ヲ設ケ身分ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トシテ論スヘキモノナリトシ以テ問題ニ解決ヲ與ヘタリ

第二項 本項ハ法律カ身分ニ因リ刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キコトヲ規定シタル場合ニ於テハ其犯者中其身分ナキ者ニ對シテハ其刑ヲ加減スルコトナク通常ノ刑ヲ科ス可キコトヲ規定シタリ蓋シ法律カ一定ノ身分アル者ニ對シ刑ヲ加減スルハ一ニ其特別ナル身分アルカ爲メナルカ故ニ身分關係ナキ共犯人ニマテ之ヲ及ホスヘキニアラサルヲ以テナリ故ニ例セハ郵便事務ニ從事スル者ニシテ郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタルトキハ刑法ノ例ニ照ラシ其刑ヲ加重ス

(郵便法第五十一條)若シ常人カ郵便集配人ト共謀シテ郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタリトセハ集配人ハ其刑ヲ加重セラルヘキモ共犯者タル常人ハ通常ノ竊盜罪ノ刑ヲ受クルニ止マルカ如シ

第十二章　酌量減輕

一　酌量減輕トハ所謂裁判上ノ減輕ニシテ法律ニ定メタル刑期猶重キニ失スル場合ニ於テ裁判所ヲシテ事宜ニ應シ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得セシムル制度ナリ

二　抑々本制度ヲ認メタル立法上ノ理由ハ主トシテ罪刑ノ權衡ヲ保タシメントスルニ在リ蓋シ犯罪ノ情狀ハ一ニシテ足ラス從テ之ニ科スヘキ刑罰モ亦各場合ニ付キ適應セサル可ラス新刑法ハ各罪ニ付キ定メタル刑期範圍舊刑法ニ比シ頗ル擴大セラレタルカ故ニ裁判所ハ各場合ニ付キ其犯情ニ照ラシ之ニ適應ス可キ刑ヲ量定シ得可シト雖モ而カモ犯情ノ多樣ナル到底法律所定ノ刑ノ短期ヲ以テスルモ猶ホ且ツ重キニ失スル場合ナキヲ保セス於是法律ハ酌量減輕ナル制度ヲ設ケ犯情憫諒スヘキ場合ニ於テハ裁判所ヲシテ其刑ヲ減輕シ以テ犯情ニ適應スヘキ刑ヲ量定處斷セシムルコトヽシタルナリ

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

本條ハ酌量減輕ヲ爲スヘキ場合ニ付キ規定ス(舊刑法第八十九條、第九十條)

如何ナル場合ニ酌量減輕ヲ與フヘキカ本條ハ之ニ答ヘテ犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量減輕ヲ與ヘ得ヘシトセリ故ニ犯情憫諒ス可キ場合ナル以上ハ其原由カ犯人ノ主觀的情狀ニ關スルト客觀的情狀ニ關スルトヲ問ハサルモノトス

第六十七條　法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

本條ハ酌量減輕ハ所謂法律上ノ加重減輕ト共ニ兩立シ得可キモノナルコトヲ規定ス(舊刑法第八十九條)

法律カ刑ヲ加重シ又ハ減輕スヘキコトヲ特ニ規定シタル場合ニ於テハ一見酌量減輕ハ其適用ナキカ如シト雖モ所謂法律上ノ加重減輕ナルモノハ法律カ犯情ハ通常ナル可キコトヲ豫想シテ其刑ヲ加重又ハ減輕ス可キコトヲ特ニ定メタルモノナルカ故ニ若シ法律ノ豫想外ニ憫諒スヘキ情狀アル場合ニ於テハ法律上ノ加重減輕ト共ニ酌量減輕ヲ與フルモ非理ナラス是レ本條規定アル所以ナリ

第十三章　加減例

一　加減例トハ刑ノ加重又ハ減輕ニ關スル凡例ト云フ義ナリ刑法ハ法律上或ハ其刑ヲ加重スルコトアリ(再犯及併合罪等)或ハ其刑ヲ減輕スルコトアリ(未遂及自首減輕)又ハ裁判上其刑ヲ減輕シ得ルコトアリ(酌量減輕)從テ刑ヲ加減スルニ付キ其程度及ヒ順序ヲ規定スルノ要アリ本章即チ是ナリ

二　本章ハ舊刑法第一編第三章加減例及ヒ第六章加減順序ノ二章ヲ併合シテ之ニ改正ヲ加ヘタル結果舊刑法ノ其ニ比シ規定著シク簡明ナルヲ得タリ

三　本章規定ノ內容ヲ類別スレハ(一)減輕ノ程度(第六十八條、第七十一條)(二)選擇刑ニ於ケル減輕方法(第六十九條)(三)減輕ノ最低限(第七十條、第七十一條)及ヒ(四)加減順序(第七十二條)是ナリ

以下各本條ニ付キ大略其意義ヲ說明スヘシ

第六十八條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一箇又ハ數箇ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一、死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役又ハ禁錮トス

二、無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三、有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四、罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五、拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六、科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

本條ハ法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於ケル減刑ノ程度ニ付キ規定ス(舊刑法第六十六條乃至第七十二條)

同一犯人ノ同一犯罪事實ニ付キ數箇ノ減輕原由ノ併存スルコトアリ得ヘシ此場合ニ於テ舊刑法ハ減輕ノ原由一箇每ニ各一等ヲ減刑スルコトヽシタリシカ本法ハ數箇ノ原由アルモ仍ホ一回ノ減輕ヲ與フルノミトナセリ蓋シ本法ハ各本條ニ定メラレタル刑期範圍頗ル廣ク且ツ減輕ス可キ範圍ヲモ擴大シアルヲ以テ減輕ノ原由如何ヲ參酌シテ減輕シタル刑罰範圍內ニ於テ事宜ニ應シテ其刑ヲ量定シ得ルノ途ヲ存シアレハナリ而シテ減輕ノ程度ハ左ノ例ニ依ル

第一號　本號ハ死刑ヲ減輕ス可キ場合ニシテ此場合ニ於テハ十年以上無期マテ

ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘク

第二號　本號ハ無期刑ヲ減輕ス可キ場合ニシテ此場合ニ於テハ七年ヲ短期トシタル有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘク

第三號　本號ハ有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キ場合ニシテ此場合ニ於テハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減スヘキナリ故ニ例セハ十年以下ノ懲役ニ處スヘキ罪ニアリテ減輕セントセハ五年以下十五日以上ノ懲役ニ處スヘキカ如シ

第四號　本號ハ罰金ヲ減輕ス可キ場合ニシテ此場合ニ於テハ其金額ノ二分ノ一ヲ減スヘキカ故ニ寡額モ半減スルナリ

第五號　本號ハ拘留ヲ減輕ス可キ場合ニシテ此場合ニ於テハ其長期ヲ二分ノ一ヲ減スヘキナリ故ニ其短期ニハ影響ナシ例セハ二十日以下ノ拘留ニ處スヘキ罪ヲ減輕スルトキハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處スヘキカ如シ

第六號　本號ハ科料ヲ減輕スヘキ場合ニシテ此場合ニ於テハ其多額ノ二分ノ一ヲ減スヘキカ故ニ寡額ニ影響ナシ

第六十九條　法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ、各本條ニ二箇以上ノ刑名アルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

本條ハ選擇刑アル場合ニ於ケル減輕方法ニ付キ規定ス

各本條ニ於テ二箇以上ノ刑名ヲ掲ケ裁判所ヲシテ其一ヲ選擇處斷セシムル場合ニ於テ減輕ヲ施スニハ先ツ選擇シテ後減輕スヘキカ將タ先ツ各刑ニ減輕ヲ施シテ後其一ヲ選擇スヘキカヲ定ムルノ要アリ即チ本條ハ此場合ニ於テハ先ツ犯情ニ照ラシテ其科スヘキ刑ヲ選擇シ然ル後減輕ヲ施ス可シトナス故ニ例セハ殺人罪ニ付キ減輕ヲ加ヘントセハ先ツ死刑、無期若クハ三年以上ノ有期懲役中ノ其何レカ一ヲ選ヒ無期刑ヲ相當ナリトセハ之ヲ適用刑トシテ然ル後ニ前條第二號ノ規定ニ從ヒ減輕スヘキカ如シ

第七十條　懲役禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

本條ハ刑ニ減輕ヲ施スニ方リ計算上一日若クハ一錢未滿ノ端數ヲ生シタル場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第七十三條)

第一項　本項ハ懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日未滿ノ時間ヲ生シタルトキハ之ヲ計算ヨリ除棄ス可シト定ム蓋シ是等ノ端數ヲ生シタル場合ニ於テハ

之ヲ執行スルコト實際上頗ル不便多カル可キヲ以テ便宜之ヲ除棄スルコトヽナシタルナリ

第二項　本項ハ罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩シタル場合ニ關スル規定ニシテ此場合ニ於テモ前項ト同樣ノ理由ニヨリ其端數ヲ除棄スヘキモノトシタリ

第七十一條　酌量減輕ヲ爲スヘキトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

本條ハ酌量減輕ヲ爲スヘキ場合ニ於ケル準繩ニ付キ規定ス(舊刑法第九十條)

前三條ハ法律上ノ減輕ヲ爲スヘキ場合ニ關スル規定ナリト雖モ酌量減輕ヲ爲ス可キ場合ニ於テモ亦其程度方法ニ付テハ法律上ノ減輕ヲ爲ス場合ト異ナルコトナカルヘキヲ以テ本條ハ酌量減輕ノ場合ニモ亦第六十八條及ヒ第七十條ノ例ニ從フヘキコトヲ定メタリ然レトモ酌量減輕ハ立法者カ豫メ各本條ニ定メアル刑ヲ以テシテハ犯情ニ照ラシ重キニ失スルヨリ特ニ其法定刑以下ニ減輕セントスル場合ニノミ適用スヘキモノナルカ故ニ各本條ニ數箇ノ選擇刑アリタルトキハ常ニ必ラス其中ニ就キ最モ輕キ刑ヲ選擇處斷スヘキナリ從テ犯情ニ照ラシ或ハ選擇刑中ノ重キ刑ヲ適用スルコトアル可キコトヲ規定シタル第六十九條ハ其性質上到底酌量減輕ニハ適用ス可カサルヲ以テ之ヲ除外シタルナリ

第七十二條　同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一、再犯加重
二、法律上ノ減輕
三、併合罪ノ加重
四、酌量減輕

本條ハ刑ノ加減順序ニ付キ規定ス(舊刑法第九十九條)

加重又ハ減輕ノ原由併存シタル場合ニ於テハ其何レヲ先ニシ何レヲ後ニスルカニ依テ大ニ其結果ヲ異ニスヘキカ故ニ法律ニ之ヲ定メ置クノ要アリ本條ハ即チ之カ順序ヲ規定シタルモノニシテ先ツ再犯加重ヲ爲シ次ニ法律上ノ減輕ヲ爲シ次ニ併合罪ノ加重ヲ爲シ最後ニ酌量減輕ヲ施スヘキモノト爲シタリ蓋シ本法ハ再犯刑ハ本刑ノ二倍以下タルヘキコトヲ規定シアルカ故ニ再犯者ニ對シテハ先ツ再犯加重ヲ施シテ加重減輕ノ基本タル可キ法定刑ヲ定ムルノ要アルカ故ニ本法ハ再犯加重ヲ加減順序ノ最先位ニ置キタリ次ニ法律上ノ減輕ハ各場合ニ於テ各犯罪ニ付キ之ヲ減輕スヘキモノナルヲ以テ併合加重ヲ爲スニ先チ之ヲ施スノ

要アルカ故ニ之ヲ第二位ニ置キタリ次ニ併合刑ハ數罪中ノ最モ重キモノニ付キ定ムヘキモノナルヲ以テ法律上與フヘキ加減ニヨリテ各罪ノ刑ヲ定メ然ル後ニ於テスルヲ要スルカ故ニ之ヲ第三位ニ置キタリ而シテ酌量減刑ニ至リテハ之ヲ與フルト否トハ一ニ裁判所ノ任意ニ出テ法律ノ規定ニ因ル加重減輕ニ先ンスヘキ性質ノモノニ非ラサルカ故ニ之ヲ第四位ニ置キタルナリ

第二編　罪

犯罪構成ニハ一般要件ト特別要件トアリテ其一般要件ハ總則ニ規定セラレ特別要件ハ第二編各本條ニ規定セラレアルコトハ前述シタルカ如シ本編所謂罪トハ即チ此犯罪ノ特別構成要件別言スレハ罪トナル可キ事實ト之ニ科ス可キ刑罰トヲ規定シタルモノナリ

舊刑法ニ於テハ罪ノ種類ヲ分チテ重罪、輕罪及ヒ違警罪ノ三ト爲シ更ニ之ヲ細別シテ公益ニ關スル重罪輕罪及ヒ身體財產ニ對スル重罪輕罪ト爲シタリ是レ羅馬法以來歐洲各國ノ立法例ニ採用シタル類別法ナリト雖モ多數ノ罪ハ一面ニ於テ私益ヲ害スルト同時ニ他面ニ於テ公益ヲ害スルモノナルカ故ニ總テノ犯罪ヲ劃然公私ニ區別スルコトハ到底困難ナルノミナラス犯罪ノ類別ヲ明瞭ナラシムル途ニアラス於是乎晩近進步シタル立法例ニアリテハ此類別ヲ廢シ犯罪ノ性質ノ相同シキモノハ之ヲ一所ニ聚合規定スルニ至レリ我新刑法モ亦之ニ從ヒ本編ヲ分チテ四十章ト爲シタリ

第一章　皇室ニ對スル罪

一、本章ハ題シテ皇室ニ對スル罪ト謂フト雖モ皇室ニ對スル一切ノ犯罪ヲ包含規定セルニアラスシテ其規定スル所ハ天皇其他皇族ニ對スル危害罪ト天皇其他皇族及ヒ神宮皇陵ニ對スル不敬罪ノ二ナリ

二、本罪ノ歷史的沿革ヲ按スルニ羅馬法(帝政時代)ニ於テハ君主ノ特權侵害ヲ以テ國事犯トシテ處罰シ爾來各國法之ニ從ヒタリシカ前世紀ノ後半ニ及ヒ初メテ一箇人トシテノ君主ニ對スル罪ト元首トシテノ君主ニ對スル罪トヲ區別ス可シト論スルニ至リ現時學說及ヒ立法例ノ傾向ハ本罪ハ之ヲ一特別罪トシテ通常國事犯ト區別シテ規定スルニ在リ

三、本罪ノ沿革既ニ上述ノ如シ然リ而シテ萬世不易ノ皇室ヲ以テ建國ノ基本ト

ナス世界無比ノ我帝國ニ在リテハ本罪ノ極惡至重ノモノタルコト多言ヲ要セス故ニ舊刑法ニ於テモ其第二編公益ニ關スル重罪輕罪中ノ首章ニ之ヲ規定シタリシカ本法モ亦之ヲ本編第一章ニ規定シ特ニ重刑ヲ科シタリ

四、本章收ムル所實ニ四條其內容ヲ類別スレハ(一)天皇、三后及ヒ皇嗣ニ對スル危害罪(第七十三條)(二)同上ニ對スル不敬罪(第七十四條第一項)(三)神宮及ヒ皇陵ニ對スル不敬罪(第七十四條第二項)(四)皇族ニ對スル危害罪(第七十五條)及ヒ(五)皇族ニ對スル不敬罪(第七十六條)是ナリ

以下各本條ニ就キ大略其意義ヲ說明ス可シ

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

本條ハ天皇、三后及ヒ皇儲ニ對スル危害罪ニ付キ規定ス(舊刑法第百十六條)

一、成立要件、本罪ハ(一)天皇、太皇太后、皇太后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ奉ルコト(二)危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件、天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ奉ルコト 我邦古來太上天皇ナル制度アリシモ現行國法上ニテハ之ヲ認メス從テ茲ニ所謂「天皇」トハ在位ノ大君ヲ奉稱スルモノニシテ攝政及ヒ外國君主ヲ除外ス「太皇太后、皇太后、皇后」是レ舊刑法ニ所謂三后ナリ三后ナル語ハ我邦古來ノ用語ニシテ其意義明確ナルヲ以テ之ヲ改ムルノ要ナキカ如シト雖モ既ニ皇室典範ニ於テ太皇太后、皇太后、皇后ナル語ヲ用ヒアルカ故ニ本法モ之ニ倣ヒシノミ即チ皇后トハ立后ノ式ニ依リテ立タセラレタル國母ヲ奉稱シ「皇太后」トハ先帝ノ皇后タリシ御方ヲ奉稱シ「太皇太后」トハ先々帝ノ皇后タリシ御方ヲ奉稱ス「皇太子」トハ立太子ノ式ニ依リテ立タセラレタル皇儲嗣タル皇子ヲ奉稱シ「皇太孫」トハ皇太子在ラサル場合ニ於テ立太孫ノ式ニ依リ立タセラレタル皇儲嗣タル可キ皇孫ヲ奉稱ス故ニ皇太子アル場合ニ於テハ皇孫アルモ皇太孫アルコトナシ

第二要件、危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコト 「危害」トハ身體、生命、自由、貞操ニ對スル有形上ノ侵害ヲ意味ス「加ヘントシタル者」トアル語中ニハ着手未遂ヲ含ムハ勿論陰謀又ハ豫備ノ所爲ヲモ含ムトスルヲ通說ナリトス從テ理論上本罪ニアリテハ中止犯ト稱ス可キモノ成立シ得サルナリ

二、處分、加ヘタル者及ヒ加ヘントシタル者共ニ死刑ニ處ス是レ極惡無道ナル大逆罪ナルカ故ニ之ニ臨ムニ極刑ヲ以テスルコト蓋シ至當ナルノミ

第七十四條　天皇、太皇太后、皇太后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

本條ハ天皇其他ニ對スル不敬罪ヲ規定ス(舊刑法第百十七條)

第一項　本項ハ天皇、三后及ヒ皇嗣ニ對スル不敬罪ヲ規定スルモノニシテ其成立要件ト處分ハ次ノ如シ

一、成立要件、本罪ハ(一)天皇、三后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ奉ルコト(二)不敬ノ行爲アリタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件、天皇、三后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ奉ルコト　本要件ニ付テハ前條說明ニ同シ、

第二要件、不敬ノ行爲アリタルコト、所謂「不敬ノ行爲」トハ我皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆ス可キ一切ノ行爲ヲ指稱ス而シテ果シテ如何ナル行爲カ皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆スル行爲ナルカ否カハ裁判所ノ認定ニ俟ツヘキコト勿論ナリト雖モ法文ニハ何等方法ニ關シ制限スル所ナキヲ以テ言語、文章、繪畫、擧動其他如何ナル方法ヲ問ハサルモノトス

二、處分、本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス通常人ニ對スル誹謗罪ニ比シ重刑ヲ科シタルハ其客體ノ尊貴タルニ依ル

第二項　本項ハ神宮又ハ皇陵ニ對スル不敬罪ヲ規定セルモノニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ

一、成立要件、本罪ハ(一)神宮又ハ皇陵ニ對スルコト、(二)不敬ノ行爲アリタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件、神宮又ハ皇陵ニ對スルコト、所謂「神宮」トハ即チ伊勢ノ大廟ヲ奉稱スル舊刑法ニハ之ニ關スル規定ヲ缺キタリシカ皇陵ニ對スル權衡上之ヲ規定スルコト當然ナルヲ以テ本法ハ之ヲ補足シタリ「皇陵」トハ歷代ノ天皇ノ御陵ヲ奉稱ス從テ天皇以外ノ御墳墓ハ之ニ包含セラレサルモノトス

第二要件、不敬ノ行爲アリタルコト、前條ニ說明セル所ニ同シ

二、處分、前項ノ不敬罪ニ同シク三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七十五條　皇族ニ對シテ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ皇族ニ對スル危害罪ヲ規定ス(舊刑法第百十八條)

一、成立要件、本罪ハ(一)皇族ニ對シ奉ルコト、(二)危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件、皇族ニ對スルコト　一般ニ皇族ト謂ヘハ皇室典範ニ規定シアル太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王、王妃及ヒ女王ヲ含ム然レトモ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子及ヒ皇太孫ニ對スル危害罪ハ特ニ第七十三條ニ規定シアルカ故ニ本條ニ所謂皇族トハ太皇大后以下皇后、皇太子及ヒ皇太孫ヲ除外シタル以外ノ皇族ヲ指稱シ奉ルモノト解セサルヲ得ス

第二要件、危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタルコト　是レ既ニ第七十三條ニ就テ說明シタル所ニ同シ

二、處分、既ニ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ、加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス第七十三條ノ危害罪ニ比シ科刑ニ區別ヲ設ケタルハ法カ事ニ輕重ノ差アリト認メタルニ由ルナリ

第七十六條　皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ皇族ニ對スル不敬罪ヲ規定シタルモノナリ(舊刑法第百十九條)

一、成立要件、本罪ハ(一)皇族ニ對シ奉ルコト、(二)不敬ノ行爲アリタルコトノ二要件ヨリ成リ而シテ其第一要件ハ前條ニ就キ第二要件ハ第七十四條ニ就キ參照スレハ自ラ分明スヘシ

二、處分、本罪ヲ犯シタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス第七十四條ニ於ケル不敬罪ニ比シ科刑稍輕キハ事態ニ輕重ノ別アルニ由ルモノトス

第二章　內亂ニ關スル罪

一、內亂罪ハ學說上所謂國事犯ニシテ常事犯ニ比シ其罪質ヲ異ニスル所アリ從テ之ニ對スル處罰方法モ常事犯ニ對シテハ通例定役アル懲役刑ヲ科スルニ反シ內亂罪ニ對シテハ定役ナキ禁錮刑ヲ科ス

二、抑內亂罪ハ其目的朝憲紊亂ニアルヲ以テ國家存立ノ上ヨリ觀レハ極メテ重大ナル結果ヲ生スルカ故ニ之ニ臨ムニ重刑ヲ以テスルノ止ムヲ得ザルカ如シト雖モ翻テ之ヲ犯人ノ主觀的方面ヨリ觀レハ其目的ハ良好ナル政府ヲ建設セントスルニ在リテ夫ノ常事犯ノ多數ニ於テ觀ルカ如ク自己ヲ本位トスルノ邪念ナキカ故ニ之ニ臨ムニ輕キ刑ヲ以テスルノ至當ナルカ如シ然リ而シテ以上ノ二觀察

ハ各從來立法上ニ反映シタル實例アリシト雖モ近時ノ學說ニヨレハ國事犯ハ其罪質他ノ犯罪ニ比シ異ナル所アルヲ以テ之ニ處スルニ異ナル方法ヲ以テス可シト云フニ在リトス

三　本章ハ舊刑法第二編第二章第一節ノ規定ヲ修正シタルモノニ係リ舊刑法ニ比シ條文數ヲ半減シタリ今其內容ヲ示セハ(一)內亂實行罪(第七十七條)、(二)內亂準備罪(第七十八條)、(三)內亂幇助罪(第七十九條)及ヒ(四)自首ニ關スル特例(第八十條)是ナリ以下各本條ニ就キ其意義ヲ略說ス可シ

第七十七條　政府ヲ顚覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ內亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一、首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二、謀議ニ參與シ又ハ群集ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三、附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但シ前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

本條ハ所謂內亂實行罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第百二十一條)

第一項　本項ハ其既遂ノ場合ノ規定ニシテ其成立要件及ヒ處分ハ次ニ述フルカ如シ

一、成立要件　本罪ハ(一)朝憲ヲ紊亂スル目的ニ出テタルコト、(二)暴動行爲アリタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　朝憲ヲ紊亂スル目的ニ出テタルコト　朝憲紊亂ノ例示トシテ法文ハ政府ノ顚覆及ヒ邦土ノ僭竊ノ二ヲ揭ク「政府顚覆」トハ暴力ヲ以テ現時ノ政治ノ中樞ヲ破壞スルヲ謂ヒ「邦土僭竊」トハ天皇ノ主權ヲ排シテ僭カニ日本帝國ノ領土ノ一部ヲ統治スルヲ謂フ要スルニ「朝憲紊亂」トハ以上ノ二例示ノ外天皇ノ廢立皇統ノ變換又ハ國家機關ノ變更等ノ如ク帝國憲法ノ紛更ヲ試ムル一切ノ所爲ヲ謂フ

內亂罪ニハ此目的ノ存在スルコトヲ要スルカ故ニ縱令暴動行爲ト目スヘキ行爲アルモ此目的ニ出テサル以上ハ騷擾罪等トシテ處斷スルハ格別本罪ヲ構成セス

第二要件　暴動行爲アリタルコト　所謂「暴動行爲」トハ多衆聚合シテ不法ニ暴行又ハ脅迫ヲ爲スヲ謂フ學者或ハ內亂罪ニ於ケル暴動行爲ハ兵器ヲ持ツ暴動別

言スレハ戰爭的行爲ヲ意味スルモノナリト說クト雖モ未タ戰爭的行爲ト目スヘキ程度ノ行爲ナルモ少ナクトモ一地方ノ人心ヲシテ不安ナラシムル以上ハ所謂暴動行爲アリトナスヲ通說ナリトス而シテ本法ハ從フ所ノ人ニ依リ暴動行爲ヲ別チテ左ノ三類トナス

(1) 首魁　即チ暴動ノ主腦タル頭領ヲ謂フ必ラスシモ一人ニ限ラス數人共同シテ全隊ヲ統御シタル場合ニ於テハ皆首魁ヲ以テ論ス可キナリ

(2) 謀議ニ參與シ又ハ群集ノ指揮ヲ爲シタル者及ヒ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者　「謀議ニ參與シタル者」トハ帷幕ノ內ニ在リテ樞機ニ參シ諸般ノ畫策ニ任シタル所謂參謀官ヲ謂ヒ「群集ノ指揮ヲ爲シタル者」トハ其文字ノ示スカ如ク一軍一隊ノ指揮ヲ執リタル者ヲ謂ヒ「其他諸般ノ職務ニ從事シタル者」トハ前示ノ二者及ヒ第三揭記ニ該當セサル所爲ニ任シタルモノヲ包括ス即チ例セハ會計事務ニ任シタル者ノ如キ又ハ壯丁徵募ニ從事シタル者ノ如シ

(3) 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者　「附和隨行シタル者」ハ單ニ暴動ニ干與シタル者ノ例示ニシテ即チ他人ノ煽動ニ乘シ雷同附隨シタル者ヲ謂ヒ「單ニ暴動ニ干與シタル者」トハ所謂雜役ニシテ雇員、小使、軍夫等ノ如ク雜役ニ從事シタル者ヲ意味ス

二　處分　內亂罪ニアリテハ上述セルカ如ク上ハ首魁ヨリ下ハ附和隨行者ニ至ルマテ種々ノ段階アリテ其執ル所ノ任務相同シカラサルカ故ニ其處分ニ付テモ亦差等ナカル可ラス即チ法律ハ左ノ例ニ從ヒテ處斷ス可キモノトシタリ

一　首魁者ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス蓋シ主腦者ナルヲ以テ最重シ

二　謀議ニ參與シ又ハ群集ノ指揮ヲ爲シタル者ハ首魁ニ亞ク可ク重要ナル地位ヲ占ムル者ナルカ故ニ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他ノ職務ニ從事シタル者ハ其情狀更ニ前者ヨリ輕キカ故ニ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

三　附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ前二號ノ者ニ比シ一層其情輕キカ故ニ其刑モ最モ輕ク三年以下ノ禁錮ニ處ス

第二項　本項ハ內亂罪ノ未遂ヲ處罰ス可キコトヲ規定ス抑々未遂犯ハ總テノ場合ニ於テ之ヲ罰スヘキニ非スシテ殊ニ其必要アル場合ニ限リ各本條ニ之ヲ規定スルコトヽナシアルカ故ニ本罪ノ如キ重大ノモノニアリテハ其未遂ヲモ罰ス可キモノトシタルナリ然レトモ本條第三號ニ揭クル者ノ如キハ其行爲輕微ナルヲ以テ其未遂ヲ罰スルノ要ナシト認メ但書ヲ以テ之ヲ除外シタリ

第七十八條　內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ內亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ罰シタル規定ナリ(舊刑法第百二十五條)

一　成立要件　本罪ハ內亂ノ豫備行爲又ハ陰謀ヲ爲シタルニヨリ成立ス

「內亂ノ豫備」トハ內亂ヲ起ス可キ一切ノ準備行爲ヲ謂フ例セハ兵衆ヲ招募シ兵器金穀ヲ調達シ、地理ヲ測量シ軍需品ヲ輸入スルカ如キ是ナリ「內亂ノ陰謀」トハ二人以上ノ間ニ於テ內亂ヲ起ス計畫ヲ通謀スルヲ謂フ故ニ唯一人カ密カニ內亂ヲ起サンコトヲ企畫シタル場合ハ茲ニ所謂陰謀ニ該ラス、元來犯罪ノ豫備又ハ陰謀ハ之ヲ罰セサルヲ本則トスト雖モ內亂罪ハ重大ナル結果ヲ生ス可キ犯罪ナルヲ以テ之カ豫備又ハ陰謀ノ間ニ於テモ猶之ヲ罰スルノ要アルナリ

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條　兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

本條ハ內亂幇助罪ヲ規定ス內亂幇助罪ニ付テハ特ニ本條ノ規定アルカ故ニ別ニ總則從犯規定ノ適用ナシ抑々內亂罪ハ首魁以下ノ各行爲者ノ執レル所ノ行爲ノ如何ニ依リ其科刑ヲ異ニスルカ故ニ內亂罪全體ノ從犯トシテ果シテ何レノ刑ヲ標準トシテ科刑スヘキカ不明ニ屬ス於是本法ハ特ニ本條ヲ以テ其科刑ノ標準ヲ示シタリ(舊刑法第百二十一條第三號、第百二十七條)

一　成立要件　本罪ハ(一)兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲アリタルコト(二)他人カ第七十七條又ハ第七十八條ノ罪ヲ犯スヲ知テ之ヲ幇助シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　兵器金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲アリタルコト　內亂ノ幇助モ亦一種ノ從犯ナルカ故ニ其行爲ノ實質ハ總則從犯ノ觀念ニ依リテ定ムヘキモノトス法文ニ所謂兵器金穀ノ資給ハ幇助行爲ノ例示ニ過キス從テ內亂者ニ地理ヲ敎示スルカ如キ又ハ集會所ヲ給與スルカ如キモ亦幇助行爲タルヲ失ハス

第二要件　第七十七條又ハ第七十八條ノ罪ヲ犯スヲ知テ之ヲ幇助シタルコト

法文ニ前二條ノ罪ヲ幇助シタル者トアリ從テ犯人ハ他人カ第七十七條ノ內亂罪又ハ第七十八條ノ內亂豫備又ハ陰謀ヲ爲スノ情ヲ知リナカラ之ヲ幇助シテ其犯行ヲ容易ナラシメタルコトヲ要ス故ニ若シ犯人ニ於テ其情ヲ知ラサルニ於テハ縱令幇助的行爲アルモ本罪ヲ構成セス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處セラル舊刑法ニ比シ科刑稍重シ

第八十條　前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ハ內亂ノ豫備又ハ陰謀罪及ヒ內亂幇助罪ノ自首ニ關スル規定ニシテ總則自首規定ノ例外ヲ爲スモノナリ(舊刑法第百二十六條)

抑々內亂罪ハ其一旦發生スルニ至リテハ多數ノ人命ヲ喪ヒ巨萬ノ財ヲ失ヒ其害ノ及フ所決シテ尠少ニアラス故ニ法律ハ慘害ヲ未發ニ防止シ大事ニ至ラサラシメンカ爲メニ未タ其害ノ比較的僅少ナル可キ內亂ノ豫備又ハ陰謀罪及ヒ幇助罪ニ關シ其刑ヲ免除シ以テ之カ自首ヲ奬勵シタルナリ而シテ本條ノ適用ヲ受クルニハ左ノ三條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一要件　內亂ノ豫備又ハ陰謀罪又ハ內亂幇助罪ヲ犯シタルコト　法文ニ前二條ノ罪ヲ犯スト雖モト制限シアルヲ以テ此以外ノ內亂罪ニ關シテハ本條ノ適用ナク總則自首規定ニ從フヘキナリ

第二要件　未タ暴動ニ至ラサル前ナルコト　未タ暴動發セサル前ナルコトヲ要スルカ故ニ暴動既ニ發シタル後ニ至リテハ本條ニ依リ刑ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス唯總則自首規定ノ適用アル可キノミ

第三要件　自首スルコト　之レ既ニ總則自首ニ關スル第四十二條ノ下ニ說明シタル所ナルヲ以テ再說セス

第三章　外患ニ關スル罪

一　一般ニ外患ト云ヘハ自國ト他國トノ國際關係上自國ノ獨立ヲ危フシ又ハ自國ヲ不利益ノ地位ニ陷ル可キ一切ノ非國家的行爲ヲ意味ス從テ之ニ軍事上(戰時ト外交上(平時)トノ區別アリト雖モ本章ノ規定ハ主トシテ戰時ニ於ケル帝國ノ軍事上ノ利益ヲ保護スルヲ目的トセリ故ニ戰時ニ非ラサル場合ニ於ケル非國家的所爲ニ對シテハ軍機保護法、要塞地帶法、軍港要港規則等ヲ適用スヘク全ク本章適用ノ範圍外ニ屬スルモノトス

二　舊刑法ニ於テハ外患ニ關スル罪ハ之ヲ第二編第二章國事ニ關スル罪中ニ規定シ之ニ科スルニ定役ナキ流刑又ハ輕禁錮ヲ以テシタリ然ルニ本法ハ前章ニ規定シアル內亂罪ニ對シテハ定役ナキ禁錮刑ヲ科スルニ反シ本章ノ外患罪ニ對シ

テハ定役アル懲役刑ヲ科シタルニ由リテ觀レハ本法ハ舊刑法ノ主義ニ異ナリ之ヲ非國事犯ト觀タルモノナリト解ス可キカ

三　本章ハ舊刑法第二編第二章第二節ノ規定ヲ修補シタルモノニシテ收ムル所實ニ九條其內容ヲ大別スレハ(一)背反罪(第八十一條)、(二)軍需品交付罪(第八十二條、第八十四條)、(三)軍需品毀損罪(第八十三條)、(四)間諜罪(第八十五條第一項)、(五)軍機漏泄罪(第八十五條第二項)、(六)軍利侵害罪(第八十六條)及ヒ(七)豫備陰謀罪(第八十八條)是ナリ以下各本條ニ付キ大略其意義ヲ說明スヘシ

第八十一條　外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

本條ハ所謂背反罪ニ付キ規定シタルモノニシテ(甲)外國ニ通謀シテ帝國ニ對シテ戰端ヲ開カシメタル罪(前段)ト(乙)敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル罪(後段)トヲ含ム(舊刑法第百二十九條)

一　成立要件

(甲)外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタル罪ハ(一)外國ニ通謀スルコト、(二)外國ヲシテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　外國ニ通謀スルコト、茲ニ「外國」ト云フハ帝國以外ノ國家ヲ指スモノニシテ其獨立國ナルト否トヲ問ハサルモノトス然レトモ法文ニ外國トアルカ故ニ一箇人ノ資格ヲ以テ帝國ニ寇スル外國人又ハ何レノ國籍ヲモ有セサル海賊團體ト通謀スルモ本罪ヲ構成セス又通謀スルコトヲ要スルカ故ニ單ニ外國ヲ煽動シテ帝國ト戰端ヲ開カシメタル場合モ亦本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリト雖モ法文ハ手段ヲ制限セサルカ故ニ帝國ト開戰セシムル爲メニシタル外國トノ協議ハ一切本條ノ所謂通謀ニ該當スヘシ

第二要件　外國ヲシテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメタルコト　戰端ヲ開クトハ國際法上所謂開戰ノ義ナリ而シテ現時國際法上ニ於テハ宣戰ヲ要セスシテ實際戰爭行爲アルヲ以テ戰爭開始ノ時期ト爲スヲ通說トス

(乙)敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル罪ハ(一)敵國ニ與シタルコト、(二)帝國ニ抗敵シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　敵國ニ與シタルコト　國際法上ニ於テハ一國ト他國トノ間ニ如何ニ親善ナラサル關係アリト雖モ未タ兩國間ニ戰爭行爲開始セラレサル間ハ敵國ナリト云フヲ得ス即チ「敵國」トハ帝國ノ交戰對手國ノ謂ナリ從テ本條ノ罪ノ成

立ニハ帝國ト或ル外國トノ間ニ既ニ戰爭開始セラレアルコトヲ前提トスルカ故ニ開戰以前ニ於テハ本罪ノ成立ス可キ餘地ナシ而シテ「敵國ニ與ミスル」トハ敵國ニ合同助力スルノ謂ナリ

第二要件 帝國ニ抗敵シタルコト 「抗敵」トハ敵國ノ兵力ノ一部ニ加ハルノ義ナリ必ラスシモ武器ヲ執テ戰鬪ニ加ハルヲ要セス敵軍ノ醫務ニ從ヒ又ハ輜重ノ事ニ仕フルモ猶ホ抗敵タルヲ免レス

二 處分 本條規定ノ二罪ヲ犯シタル者ハ孰レモ死刑ニ處ス蓋シ共ニ母國ニ對スル忘恩的行爲中ノ顯著ナルモノナルカ故ニ社會ハ公安上此種ノ犯人ノ存在ヲ認容スル能ハサレハナリ

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ軍用ニ供スル場所、建造物其他ノ物件ヲ敵國ニ交付シタル罪ニシテ所謂敵國幇助罪ノ一ナリ(舊刑法第百三十條)

第一項 本項ハ軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル罪ニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一 成立要件 本罪ハ(一)目的物ハ要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ナルコト、(二)敵國ニ交付シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ナルコト、要塞、陣營、軍隊、艦船ハ軍用ニ供スル場所又ハ建造物中ノ重要ナル物ヲ例示シタルニ過キス故ニ法文例示以外ノ場所又ハ建造物ナリト雖モ苟クモ軍用ニ供スルモノナル以上ハ本罪ノ目的物タルヲ妨ケス例セハ練兵場又ハ衞戍病院ノ如キハ之ニ屬スヘシ又「軍用ニ供スル」ト云フハ現ニ帝國ノ軍用ニ供セラルヽモノニ限ル可キコトハ第八十四條ノ規定ト對照上明白ナリ故ニ曾テ一度軍用ニ供セラレタル物件ナリト雖モ其後ニ至リ其用ヲ廢セラレタル場合ハ本罪ノ目的物タラス

第二要件 敵國ニ交付シタルコト 「敵國」ノ意義ハ既ニ說ケリ「交付」トハ敵國ノ勢力範圍內ニ置クノ謂ナリ而シテ本條ノ罪ハ最多數ノ場合ニ於テ現役ノ軍人軍屬ニアラサレハ犯スコトヲ得スト雖モ本罪カ常人ニ依リテ犯サルヽ場合ヲ想

像シ得サルニ非ラス即チ例セハ修繕ノ爲メニ一箇人ニ委託シアリタル軍艦ヲ敵手ニ委付スルカ如キ又ハ一時守備ヲ空シウセル陣營ニ敵軍ヲ導キ入ルヽカ如キハ蓋シ好適例ナルヘシ

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ死刑ニ處セラル蓋シ時ニ或ハ之カ爲メニ帝國ヲシテ非常ナル不利ノ地位ニ陷ルヽ虞アルヲ以テナリ

第二項　本項ハ兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物件ヲ敵國ニ交付シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ

一　成立要件　本罪ハ(一)目的物ハ兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物件ナルコト、(二)敵國ニ交付シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物件ナルコト　一般ニ物ト云ヘハ前項記載ノ場所及ヒ建物ヲモ包含スヘキコト當然ナリト雖モ場所及ヒ建物ハ特ニ前項ニ規定シアルヲ以テ本項ニ所謂「軍用ニ供スル物」トハ場所及ヒ建物ヲ除外シタル爾餘ノ軍用物件ヲ指稱スルモノト解スヘシ例セハ法文ニ例示セル兵器、彈藥ノ外ニ軍用ニ供スル電信機、電話機又ハ飛行機等ノ如シ

第二要件　敵國ニ交付シタルコト　之レ前項ニ述ヘタル所ニ同シ

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス前項ノ罪ニ對シテハ單ニ死刑ヲ科シタルニ反シ本罪ニ對シテハ死刑又ハ無期刑ヲ科ス可キモノトシタルハ目的物ニ輕重アルニ依ルモノトス

第八十三條　敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ敵國ヲ利スル爲メニ軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル罪ニ關スル規定ニシテ前條ノ罪ト共ニ所謂敵國幫助罪ノ一ナリ左ニ之カ成立要件ト處分トヲ略說スヘシ

一　成立要件　本罪ハ(一)敵國ヲ利スル爲メナルコト、(二)目的物ハ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ナルコト、(三)損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルコトノ三要件ヨリ成ル

第一要件　敵國ヲ利スル爲メナルコト、本罪タルニハ其所爲敵國ヲ利スル爲メニ出テタルコトヲ要スルカ故ニ若シ此意思ニ出テタルニアラサレハ本罪ヲ構成セス即チ例セハ敵軍ニ捕獲セラレントスルニ際シ之ヲ敵手ニ委セサラシメ

ンカ爲メニ臨機ノ處置トシテ兵器、彈藥等ヲ自ラ破壞セルカ如キ又ハ過失ニヨリテ損壞シタルカ如キ場合ハ本罪ト成ラサルナリ

第二要件 要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ニ限リ要塞、以下列記ノ物ナルコト 本罪ノ目的物ハ軍用ニ供スル場所又ハ物ニ限リ要塞、以下列記ノ物件ハ其例示ノミ從テ前條第一項ニ規定シアル建造物ノ如キモ亦當然本條ニ所謂「物」ノ中ニ含マル而シテ茲ニ所謂「軍用ニ供スル」トアルモ亦前條ニ同シク現ニ軍用ニ供スルモノナルコト勿論ナリ

第三要件 損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタルコト 「損壞」トハ有形的ニ其物ヲ毀損破壞スルノ義ニシテ例セハ陣營ヲ燒燬シ若クハ艦船ヲ爆沈スルカ如シ又「使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル」トハ之ヲ損壞セスト雖モ仍ホ他ノ手段ニ因リテ其使用ヲ不能ナラシメタル場合ニシテ間接ノ損壞トモ云フヘキヲ以テ法律ハ之ヲ損壞ト同一視ス但シ使用不能ハ必ラスシモ絶對ナルコトヲ要セサルカ故ニ一時兵器ヲ水中ニ投入シ置キタルカ如キ場合モ亦本罪ヲ構成スルニ妨ナシ

二 處分 本罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス蓋シ重大ナル結果ヲ帝國ニ及スヘキ虞アルカ故ニ重刑ヲ科スルナリ

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

本條ハ帝國ノ軍用ニ供セサル軍需品ヲ敵國ニ交付シタル罪ノ規定ニシテ前二條ノ罪ト共ニ敵國利助罪ノ一ナリ

一 成立要件 本罪ハ(一)目的物ハ帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物件ナルコト、(二)敵國ニ交付シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件 目的物ハ帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物件ナルコト 「帝國ノ軍用ニ供セサル」トハ現ニ帝國ノ軍用ニ供シアラルノ意義ニシテ將來ニ於テ絶對ニ帝國ノ軍用ニ供セサルノ意義ニ非ス而シテ本條ニ例示シタル兵器、彈藥ハ直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物件ナルコト明白ナリト雖モ其他ノ物件ト雖モ亦直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キモノナラサル可ラス例セハ民間ニ於ケル馬匹、石炭、毛布等ノ如キハ之ニ屬スヘシ從テ間接ニ戰鬪ニ供セラルコトアル可キ物件例セハ兵器、彈藥其他軍用品ヲ製作ス可キ材料ヲ敵國ニ交付シタル場合ハ他罪ヲ構成スルハ格別本罪ト成ラス

第二要件　敵國ニ交付シタルコト　前述シアレハ再説セス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處セラル蓋シ其目的物ノ如何ニ因リ犯情異ナル可キカ故ニ法定刑ノ範圍ヲ擴クシ裁判所ヲシテ適宜處斷セシメントスルナリ

第八十五條　敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幇助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

本條ハ戰時ニ於ケル間諜及ヒ軍機漏泄ノ罪ニ付キ規定ス(舊刑法第百三十一條)

第一項　本項ニ規定スル所ノ罪ヲ別チテ二トナス即チ(甲)間諜罪(前段)及ヒ(乙)間諜幇助罪(後段)是ナリ左ニ分説スヘシ

一　成立要件

(甲)　間諜罪トハ犯人自ラ間諜行爲ヲ爲シタル場合ニシテ(一)敵國ノ爲メニ爲シタルコト、(二)間諜行爲アリタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　敵國ノ爲メニ爲シタルコト、間諜罪トナルニハ敵國ノ爲メニシタルコトヲ要スルカ故ニ若シ此要件ヲ缺キタル場合ニ於テハ本罪成立セス

第二要件　間諜行爲アリタルコト、「間諜」トハ交戰國ノ一方ノ軍事上ノ諸般ノ事項ヲ密カニ探知シテ他方ニ知ラシムル者ヲ謂フ而シテ軍事上ノ諸般ノ事項トハ兵器ノ精粗、軍隊ノ編成、移動、軍艦ノ發着等ヲ首メ舊刑法ニ所謂兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷等苟クモ帝國ニ於テ之ヲ敵國ニ知ラシメサルヲ以テ利益ナリトスル一切ノ事項ヲ意味ス

(乙)　間諜幇助罪トハ敵國ノ爲メニスル間諜ヲ幇助スル罪ニシテ(一)敵國ノ間諜ニ對スルコト、(二)之ヲ幇助シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　敵國ノ間諜ニ對スルコト、本罪ハ犯人自ラ間諜行爲ヲ爲スニアラスシテ敵國ノ爲メニ帝國ノ軍事上ノ機密ヲ探知セントスル者ヲ幇助スルニアリ而シテ其敵國ノ爲メニスル間諜ノ敵國所屬ノ臣民ナルト否トヲ問ハサルカ故ニ若シ間諜者カ帝國臣民ナル場合ニ於テハ總則從犯ノ規定ヲ除外スヘキナリ

第二要件　之ヲ幇助シタルコト、幇助ノ意義ニ付テハ既ニ從犯ノ條下ニ於テ説明シタリ今本罪ニ付テ云ヘハ敵國ノ爲メニスル間諜ノ實行ニ輕微ナル影響ヲ與フヘキ行爲ヲ以テ之ニ加功スルニアリ即チ舊刑法ニ所謂敵國ノ間諜

ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿スルカ、如キ苟クモ敵國ノ間諜ヲシテ其任務遂行ヲ容易ナラシムル一切ノ行爲ヲ指稱ス故ニ若シ其行爲ニシテ間諜ノ實行ニ重大ナル影響ヲ與ヘタルニ於テハ前段ノ間諜罪ヲ以テ論スヘキモノトス

二　處分　本項規定ノ間諜及ヒ間諜幇助罪ニ付テハ法律ハ三箇ノ選擇刑ヲ定ム即チ(一)死刑、(二)無期懲役、(三)五年以上ノ懲役是ナリ蓋シ本罪ハ其性質上犯情ニ輕重ノ別アルヘキカ故ニ罪刑ノ權衡ヲ得ンカ爲メ其刑期範圍ヲ擴ク規定シタルモノトス

第二項　本項ハ帝國ノ軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル罪ニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一　成立要件　本罪ハ(一)帝國ノ軍事上ノ機密ニ關スルコト、(二)之ヲ敵國ニ漏泄シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　帝國ハ軍事上ハ機密ニ關スルコト、所謂「軍事上ノ機密」トハ帝國ノ軍事上ノ祕密ナリトシテ公示セラレサル一切ノ事項ヲ謂フ即チ例セハ兵器ノ精粗、兵器若クハ彈藥ノ祕密製法、軍隊ノ編成、軍艦ノ發着、軍港若クハ要港ノ情況其他國防上ノ設備、方略等是ナリ

第二要件　漏泄シタルコト、「漏泄」トハ偶然ノ原由ニ因リテ知得シタル軍事上ノ祕密ヲ敵國ニ通知スルノ謂ニシテ手段ニ制限ナシ從テ文書ヲ以テスルト圖畫、寫眞等ヲ交付スルト將又自ラ話說スルト他人ヲ介シテ通達スルト其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス

二　處分　本罪ヲ犯シタルモノハ前項規定ノ罪ニ同シク死刑、無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第八十六條　前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

本條ハ外患罪ニ關スル第八十一條乃至第八十五條ニ規定セル以外ノ方法ヲ以テ軍事上帝國ニ不利ヲ與ヘタル一切ノ場合ヲ概括シタル補充規定ナリ

一　成立要件　本罪ハ(一)前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テシタルコト、(二)敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　前五條ニ記載シタル以外ハ方法ヲ以テスルコト、既ニ第八十一條乃

至第八十五條ニ於テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害ス可キ重要ナル場合ニ付キ規定シタリト雖モ右列記ノ以外ノ方法ニ因リテモ仍ホ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害スルコトナシトセス故ニ本條ハ右五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テシタル一切ノ場合ヲ處罰スルコトヽナシタリ從テ其方法種々アリト雖モ舊刑法第百三十二條ニ所謂陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者敵國ニ通諜シ又ハ賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル行爲ノ如キハ勿論其他軍需品ノ製作ニ從事スル者ヲ煽動シテ罷工セシムルカ如キ又ハ故ラニ虛妄ノ報告ヲ作爲シテ帝國ノ作戰計畫ヲ誤ラシムルカ如キハ蓋シ其好適例タルヘシ

第二要件　敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタルコトヽ

前述ノ行爲ノ直接ノ結果トシテ軍事上敵國ヲ利シ又ハ帝國ヲ害シタルコトヲ要ス從テ事苟クモ軍事ニ關セサル以上ハ縱令帝國ニ重大ナル害ヲ與ヘタリトスルモ本罪ヲ構成セサルモノトス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス前五條ノ罪ニ比シ犯情輕キカ故ニ科刑亦輕キナリ

第八十七條　前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ外患罪ノ未遂ヲ處罰スヘキコトヲ規定シタルモノナリ蓋シ本法ハ總則ニ於テ未遂ヲ罰スヘキ場合ハ各本條ニ明示スルコトヽ規定シアルヲ以テ本章ノ罪ニ付テモ特ニ之ヲ明示セルノミ

第八十八條　第八十一條乃至第八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ外患罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ處罰スル規定ナリ

舊刑法ニ於テハ本條ニ相當スル規定ヲ見サリシト雖モ元來外患罪ハ頗ル重大ナル結果ヲ惹起スヘキモノナルカ故ニ其豫備又ハ陰謀ノ間ニ於テモ仍ホ之ヲ處罰スルノ要アリトシテ特ニ舊刑法ノ缺ヲ補ヒ本條規定ヲ設ケタルモノニシテ其趣旨內亂罪ニ於ケル第七十八條ニ同シケレハ同條說明ヲ參照セラルヘシ

第八十九條　本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

本條ハ外患罪ニ關スル本章規定ハ之ヲ戰時同盟國ニ對スル行爲ニモ亦適用スヽキモノナルコトヲ定ム(舊刑法第百二十九條乃至第百三十一條)抑〻「戰時同盟國」トハ帝國ト攻守同盟ヲ爲シタル外國ニシテ即チ交戰關係ニ於テハ帝國ト其休戚ヲ

共ニスルモノヲ謂フ斯カル密接ノ關係アル帝國ノ同盟國ニ對シテ本章規定ノ所爲ヲ敢テスルトキハ其結果ニ於テ直接帝國ニ對シテ之ヲ爲シタルト異ナル所ナキカ故ニ本法ハ之ヲ帝國ニ對シテ直接ニ犯シタル場合ト同一視シテ本章規定ヲ適用スヘキモノトシタリ而シテ既ニ帝國ト攻守同盟國タル以上ハ帝國ト共同シテ現ニ戰爭ニ從事シ居ルト否トヲ問ハサルモノトス

第四章　國交ニ關スル罪

一　舊刑法ニ於テ本罪ニ關スル規定ハ唯第二節外患罪中ニ於テ外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル場合ト局外中立ノ命令ニ違背シタル場合ニ止マリ締盟國及ヒ其主權者若クハ使節等ニ對スル所爲ニ及ハサリシト雖モ是等ノ所爲ハ國交上ノ障碍ト爲ルコト尠カラス殊ニ輓近交通開ケ彼我ノ往復頻繁ナルニ方リテハ之ニ關スル規定ノ必要ヲ感スルコト一層痛切ナリ是レ本法カ舊法ノ缺ヲ補ヒ特ニ本章ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

二　本罪ノ立法理由夫レ此ノ如シ從テ本罪ノ客體ハ外國ノ主權者、使節若クハ國章ナリト雖モ法ノ保護セントスル法益ハ外國ノ主權者、使節若クハ國章カ外國法上又ハ國際法上有スル特權其物ニ非ラスシテ帝國カ外國ニ對シ有スル良好ナル國際關係ノ保持ニ在リ

三　本章收ムル所凡テ五條其內容ヲ類別スレハ(一)外國ノ主權者ニ對スル暴行脅迫罪(第九十條、第一項)(二)同上ニ對スル侮辱罪(同條第二項)(三)外國使節ニ對スル暴行脅迫罪(第九十一條第一項)(四)同上ニ對スル侮辱罪(同條第二項)(五)外國ノ國旗ニ對スル侮辱罪(第九十二條)(六)外國ニ對スル私戰罪(第九十三條)及ヒ(七)局外中立命令違背罪(第九十四條)之ナリ左ニ分說スヘシ

第九十條　帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ帝國內ニ滯在セル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スル罪ノ規定ニシテ二箇ノ場合ヲ包含ス

第一項　本項ハ帝國內ニ在ル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スル暴行又ハ脅迫ノ罪ヲ規定セルモノニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一　成立要件　本罪ハ(一)外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルコト、(二)帝國內ニ滯在シアルコト、(三)之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ三要件ヨリ成ル

第一要件　外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルコト、「外國ノ君主」トハ現ニ在位ノ外國ノ君主ヲ謂ヒ「大統領」トハ現ニ其任ニアル共和國ニ於ケル主權者ニシテ君主ニ比ス可キモノナリ、法文ハ君主及ヒ大統領ニ限ルヲ以テ此以外ニ及ハス又單ニ「外國」トアルカ故ニ國際法上苟クモ國ト稱シ得可キモノナル以上ハ帝國ノ締盟國ナルト否トヲ問ハサルモノト解ス

第二要件　帝國ニ滯在スルコト、法文ニ帝國ニ滯在スル云々ト明示スルカ故ニ帝國內ニ滯在セサル場合ニ於テハ本罪ヲ構成セス蓋シ本章ノ罪ハ元ト國交保持ノ必要ヨリ來レルモノナルカ故ニ若シ帝國外ニ於テ外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行脅迫ヲ加ヘタル場合ニ於テハ其國ニ於テ處罰セラル可ク從テ特ニ本法ニ於テ之ヲ罰セサルモ左シテ國交上ニ影響スル所ナシト認メラレタルニ由ルナル可シ而シテ帝國內ニ滯在セル以上ハ其君主又ハ大統領タル公資格ニ於テセルト將タ又微行セル場合ナルトヲ問ハサルモノトス

第三要件　暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト、暴行ナル術語ハ刑法各典ニ於テ屢々用ヒラルト雖モ其意義ハ廣狹一ナラス各場合ニ就キ之ヲ定メサル可ラス即チ廣義ニ於ケル暴行ト云ヘハ身體ニ對シ有形的ニ腕力ヲ加フル義ニシテ此意義ニ於ケル暴行ハ傷害ニ至リタル行爲ヲモ包含ス可シト雖モ狹義ニ於ケル暴行トハ傷害ニ至ラサル身體ニ對スル有形的腕力ヲ意味ス是レ本法第二百七條、第二百八條、第二百三十六條及ヒ第二百四十條等ヲ對照スレハ明白ナリトス果シテ然ラハ本條ニ所謂暴行ハ廣狹何レニ解ス可キカ予輩ハ多數ノ學者ト共ニ之ヲ狹義ニ解セント欲スルモノナリ何トナレハ若シ之ヲ廣義ニ解シ外國ノ君主又ハ大統領ニ對スル傷害行爲ヲモ本條ニ包含スヘキモノトセンカ本條ノ科刑ハ通常人ヲ傷害シタル場合ニ於ケル第二百四條ノ刑ニ比シ輕ニ失シ國交上ヨリ特ニ之ヲ重ク處罰セントスル立法趣旨ニ反スレハナリ故ニ若シ外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ單ニ暴行ヲ加ヘタルニ止ラス之ヲ傷害スルニ至リタル場合ハ本條ニ因リ處斷スルコトヲ得ス思フニ立法者ハ此ノ如キ重大ナル結果ヲ生シタル場合ニ於テハ之ヲ當該外國ニ引渡シテ處斷セシムルヲ以テ却テ國交上策ノ得タルモノナリトセシナラン乎

「脅迫」トハ害惡ヲ加ヘンコトヲ通知シテ對手者ヲシテ畏怖ノ念ヲ生セシムル行

爲ヲ謂フ即チ夫ノ詐欺行爲ニ同シク人ノ心理ニ對スルモノナルカ故ニ暴行ノ有形的ナルニ對シ之ヲ無形的ト稱スルヲ得可シ即チ例セハ殺害セント云フカ如キ又ハ放火ス可シト云フカ如キ之ナリ

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス、通常人ニ對スル暴行(第二百八條)及ヒ脅迫(第二百二十二條)ニ比シ科刑重キ所以ハ一ニ國交上ノ政策的意味ニ出ツルニアリ

第二項　本項ハ外國ノ君主又ハ大統領ニ對スル侮辱罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立要件ト處分トハ左ニ述フルカ如シ

一　成立要件、本罪ハ(一)帝國ニ滯在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對スルコト、(二)之ニ對シ侮辱ヲ加ヘタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　帝國ニ滯在スル外國ハ君主又ハ大統領ニ對スルコト、本要件ハ前項ニ付キ述ヘタル所ニ同シケレハ再說セス

第二要件　侮辱ヲ加ヘタルコト、一般ニ「侮辱」ト云ヘハ對手者ノ品位尊嚴ヲ毀損スヘキ行爲ヲ謂フ即チ本罪ニ付テ云ヘハ外國ノ君主又ハ大統領ノ品位尊嚴ヲ毀損スヘキ所爲ヲ謂フモノニシテ別言スレハ外國ノ君主又ハ大統領ノ名譽ニ對スル輕蔑ノ意思表示ナリ而シテ其如何ナル行爲カ果シテ侮辱タルヤ否ヤハ時ト所トニヨリテ異ナルヘキ事實問題ナルカ故ニ結局裁判所ノ認定ニヨリ之ヲ決セサル可ラスト雖モ法文ニ何等ノ制限ナキヲ以テ其公然タルト否トニ論ナク又其方法如何ヲ問ハサルモノトス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス通常ノ場合ニ比シ科刑重キハ前項ニ云ヘルニ同シ

三　但書　本罪ハ通常人ニ對スル場合ト同シク之ヲ親告罪トナシタリ蓋シ若シ之ヲ非親告罪ト爲シ被害者ノ意思如何ヲ顧スシテ之ヲ公廷ニ於テ審理センカ其結果意外ノ事實ヲ暴露シ却テ被害者ノ名譽ヲ毀損スルニ至ルヘキコトアルヲ以テ法律ハ一ニ之ヲ被害者ノ意思如何ニ任シタルナリ通常人ノ場合ニアリテハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ストセルニ對シ本罪ノ場合ニ於テハ其政府ヨリ請求アルヲ待テ論ストセルハ其被害者カ外國ノ君主又ハ大統領ナルカ故ニ國交上其名譽アル地位ヲ尊重シ其政府ヨリノ請求ヲ以テ足レリトセルモノナルヘシ

第九十一條　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ外國使臣ニ對スル暴行又ハ脅迫ノ罪及ヒ之ニ對スル侮辱罪ヲ規定ス蓋シ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ハ其所屬國ヲ代表スル者ナルカ故ニ是ニ對スル罪ハ其主權者ニ對スル罪ニ準シ特ニ處罰スルヲ以テ國交上妥當ナリトスルニ由ルモノトス

第一項　本項ハ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スル暴行又ハ脅迫ノ罪ヲ規定シタルモノニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一　成立要件、本罪ハ(一)帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スルコト、(二)之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スルコト、一般ニ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ト云ヘハ或ル事項ニ付キ外國ノ代表者トシテ帝國ニ派遣セラレタル者ニシテ之ニ(一)儀式上ノモノト(二)外交上ノモノトノ別アリ儀式上ノ使節トハ儀式上ノ事項ニ付キ特ニ臨時派遣セラレタルモノニシテ例セハ戴冠式、大葬其他ノ儀式ニ參列スル爲メニ派遣セラレタル者之ニ屬ス外交上ノ使節トハ外交上ノ事項ニ付キ派遣セラレタルモノニシテ是ニ駐劄ト特派トノ別アル外猶全權大使、全權公使、辨理公使及ヒ代理公使ノ細別アリ而シテ法文ニハ單ニ外國ノ使節トアルカ故ニ此兩種ノ使節ヲ包含スルモノナリトスルト同時ニ使節ノ家族若クハ其隨員等ヲ含マストスルヲ通說トス又帝國ニ派遣セラレタル使節ナルコトヲ要スルカ故ニ他國ニ派遣セラレタル使節カ偶々帝國內ニ滯留シアリタル場合ヲ含マサルト同時ニ縱令帝國ニ派遣セラレタル使節ナリト雖モ未タ帝國內ニ在ラサル者ヲ除外スヘキモノト信ス

第二要件　暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト　前條ニ云ヘルト同シケレハ再說セス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス、前條第一項ニ比シ科刑輕キハ被害者ノ資格ノ輕重ニ伴フ當然ノ結果ナリトス

第二項　本項ハ帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スル侮辱罪ヲ規定シタルモノニシテ前條第二項ニ相當ス

一　成立要件、本罪ハ(一)帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對スルコト、(二)之ニ對シ侮辱ヲ加ヘタルコトノ二要件ヨリ成リ其意義ハ前條第二項及ヒ本條第一項ノ說明ヲ參照スレハ明カナルヘキヲ以テ再說セス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス前條第二項ノ罪ニ比シ科刑輕キ所以モ亦前項ニ述ヘタルニ同シ

三　但書　本罪モ亦被害者ノ請求ヲ待テ論スヘキモノトナシタルコト前條第二項ニ於ケルト趣旨相同シ

第九十二條　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

本條ハ外國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル場合ノ規定ナリ蓋シ國旗其他ノ國章ハ其國ノ表章ニシテ神聖視ス可キコト一般ノ例ナルカ故ニ是ニ對スル侮蔑行爲ハ國交上之ヲ看過スルヲ得ス之レ本法カ特ニ本條規定ヲ設ケ處罰シタル所以ナリ

一　成立要件　本罪ハ(一)外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テシタルコト、(二)外國ノ國旗其他ノ國章ニ對スルコト、(三)之ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタルコトノ三要件ヨリ成ル左ニ分說ス可シ

第一要件　外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テシタルコト、本罪タルニハ此目的ニ出テタルコトヲ要スルカ故ニ縱令故ラニ外國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去シ又ハ汚穢シタル事實アルモ其目的外國ニ侮辱ヲ加フルニ在ラサルトキハ他罪(例器物毀損罪)ヲ構成スルハ格別決シテ本罪タラス而シテ「侮辱」ノ意義ニ付テハ曩ニ第九十條第二項ニ關シ述ヘタルニ同シク外國ノ品位體面ヲ毀損ス可キ一切ノ行爲ヲ包ムモノト解ス

第二要件　外國ノ國旗其他ノ國章ニ對スルコト、「國章」トハ其國ヲ表彰ス可キ徽章ナリ國旗モ亦國章ノ一種ニ過キス其他ノ國章トハ陸海軍旗又ハ大使館、公使館若クハ領事館ノ門標又ハ戶扉ニ付セル各國ノ紋章ノ類之ナリ而シテ本罪ハ國交上其國ヲ表彰スル徽章ノ神聖ヲ保護スルノ趣旨ナルカ故ニ國章カ其所屬ノ國家ニ依リ其國ヲ表彰スル爲メ現ニ使用セラレタル場合ニ非ザレハ之ニ對スル侮辱行爲アルモ本罪ヲ構成セサルモノトス蓋シ國章モ其所屬國ヲ表彰セサル場合ニ於テハ單ニ一ツノ物件タルニ過キサレハ法律カ特ニ之ヲ厚ク保護スヘキ理由ナケレハナリ

第三要件　損壞、除去又ハ汚穢シタルコト、本條ハ其手段ヲ制限シテ損壞、除去及ヒ汚穢ノ三トナス故ニ此以外ノ手段ニ出テタルトキハ縱令侮辱ノ目的ヲ以テ

シタル場合ト雖モ猶本罪ヲ構成セス而シテ所謂「損壞」ト云フハ毀損破壞ト云フ義ニシテ物質的ニ侵害スルヲ意味シ「除去」トハ掲ケラレタル一定ノ場所ヨリ之ヲ撤シ去ルヲ意味シ「汚穢」トハ墨汁、泥土等ヲ以テ塗沫スルカ如キ行爲ニシテ毀壞ニ同シク物質的侵害ノ一場合ナリトス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス本罪ハ比較的輕微ナル犯罪ナルヲ以テ體刑ト金刑トヲ定メ適宜選擇處斷セシムルコトヽシタリ

三　但書　本罪モ亦外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノトシタルコト前二條ノ罪ニ同シケレハ其說明ニ關シテハ前述セル所ヲ參照セラルヘシ

第九十三條　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

本條ハ外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ヲ處罰スル規定ナリ蓋シ外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ挑ムカ如キハ其結果延ヒテ外交上ニ惡影響ヲ及ホスヘキコト大ナルカ故ニ本條ハ其未タ豫備又ハ陰謀ノ間ニ於テ之ヲ制止シ以テ大害ヲ未然ニ防カンコトヲ期ス(舊刑法第百三十三條)

一　成立要件、本罪ハ(一)外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ニ出テタルコト、(二)豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ニ出テタルコト、「私ニ戰鬪ヲ爲ス」トハ宣戰ノ大命ニ由ルニ非スシテ恣ニ戰鬪ヲ爲スヲ謂ヒ又「外國ニ對ス」トハ外國其モノニ對スル義ナルカ故ニ個人タル多數ノ外國人ト私ニ相鬪フモ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリ

第二要件　豫備又ハ陰謀ヲ爲シタルコト、「豫備」又ハ「陰謀」ノ意義ニ關シテハ既ニ內亂罪ニ付キ說明シタル所ニ同シケレハ再說セス而シテ本條ハ單ニ外國ニ對スル私戰ノ豫備又ハ陰謀ノミヲ罰スルカ故ニ若シ既ニ實行ニ至リシ場合ハ全ク本條ノ範圍外ニ在ルモノトスルヲ通說トス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス前三條ニ定メラレタル罪ノ刑ハ定役アル懲役刑ナルニ反シ本條ノ罪ハ次條ノ罪ト共ニ定役ナキ禁錮刑ヲ科シタリ蓋シ本罪ノ本質ハ內亂罪ニ同シク政事犯ニ屬スルモノニシテ只內國ニ對スルト外國ニ對スルトノ差異アルニ過キサルヲ以テ內亂罪ニ同シク禁錮刑ヲ科シタルモノナリ

三　但書、本罪ヲ犯シ自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス蓋シ是レカ豫備陰謀ニ終リタルトキハ甚シキ實害ナク且ツ成ル可ク實行ニ至ラサラシメテ以テ外國トノ交誼ヲ保タントスル政策ニ出テタルモノトス

第九十四條　外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ局外中立ノ命令ニ違背シタル場合ノ規定ナリ抑々帝國以外ノ國ト國トノ間ニ於テ交戰スルニ方リ帝國カ局外中立ノ地位ニ立ツト否トハ帝國ノ自由ナリト雖モ既ニ帝國カ此地位ニ立ツヲ是ナリトシタル場合ニ於テ帝國臣民ヲシテ此國是ニ背戻セシメサルヲ要ス是レ即チ本條規定アル所以ナリ(舊刑法第百三十四條)

一　成立要件、本罪ハ(一)外國交戰ノ際ナルコト、(二)局外中立命令アルコト、(三)此命令ニ違背シタルコトノ三要件ヨリ成ル

第一要件　外國交戰ノ際ナルコト、「外國交戰ノ際」トハ外國ト外國トカ交戰中ナルコトヲ意味ス別言スレハ帝國ニ關係ナク他ノ外國間ニ於テ交戰中ナルヲ謂フ

第二要件　局外中立命令アルコト、「局外中立」トハ帝國以外ノ國家間ニ交戰アルニ方リ帝國カ之ニ關シ直接ニ利害關係ヲ有セサルトキハ其交戰國ノ雙方ニ對シ何等ノ援助ヲ與ヘス又何等ノ妨害ヲモ與ヘス全ク不偏不黨ノ地位ニ立ツノ謂ニシテ國際法上ノ原則ナリ即チ其關係ハ帝國ト他國家トノ間ニ於ケル國際關係ナルカ故ニ中立義務違背ノ問題モ亦國家間ノ國際關係ナリト雖モ國際間ノ禮讓ヨリスレハ國家自身カ中立違反ノ行爲ナキヲ以テ滿足セス進ンテ其臣民ヲシテ其國是ニ遵ヒ中立違反ノ行爲ナカラシム可キモノトス於是國家ハ中立ノ命令ヲ發布シ臣民ヲシテ其嚮フ所ヲ知ラシムル是即チ所謂局外中立命令ニシテ此命令ナケレハ本罪ハ成立スルニ由ナシ

第三要件　此命令ニ違背シタルコト、如何ナル行爲アリタルトキハ構成スヘキカハ一ニ中立命令ノ定ムル所ニヨリテ決セラル故ニ中立命令ニ定メラレタル以外ノ行爲アリトスルモ本罪ヲ構成セサルコト勿論ニシテ決シテ國際法上ノ原則ニヨリ支配セラルヘキモノニ非ス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章　公務ノ執行ヲ妨害スル罪

一　國家ノ意思ハ爲政機關タル公務員ニ依リテ實行セラル從テ國家ノ意思ヲシテ遺憾ナク活動セシメンニハ公務員ノ公務執行ニ對スル妨害ヲ除去シ其實行ヲ確保セサル可ラス是レ即チ本章規定アル所以ナリ

二　故ニ本章ノ罪ハ公務員タル一私人ニ對スル罪ニ非スシテ國家意思ノ實行ニ對スル罪別言スレハ國家ノ公權其レ自身ニ對スル罪ニ外ナラサルヲ以テ多數ノ立法例ハ此罪ヲ以テ國家公權ニ對スル罪ノ一種ニ算ス

三　本章規定ハ外國ニ於テ犯サレタル場合ニ適用ナシ(刑法第三條)從テ外國ニ在ル帝國公務員ノ職務執行ヲ妨害シタル行爲ハ罪ヲ構成セス

四　本章ハ舊刑法第二編第三章第二節官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪ト題スル規定ト第八節官ノ封印ヲ破棄スル罪ト題スル規定ヲ併合修補シタルモノニシテ其内容ヲ別テ二トナス即チ(一)公務員ノ職務執行ニ對スル妨害罪(第九十五條)(二)公務員ノ施シタル封印又ハ標示ヲ無效ナラシメタル罪(第九十六條)之ナリ左ニ分說スヘシ

第九十五條　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サヽラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

本條ハ公權侵害ノ一種ナル公務員ノ職務執行妨害ニ關スル規定ナリ(舊刑法第百三十九條)

第一項　本項ハ公務員カ職務ヲ執行スルニ方リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ之ヲ妨害シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ次ノ如シ

一　成立要件、本罪ハ(一)公務員ノ職務ノ執行ニ當リタルコト、(二)公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リタルコト、公務員ノ意義ニ付テハ既ニ第七條ノ下ニ說明シタルヲ以テ再說セス「職務ノ執行ニ當リ」トハ公務員ノ職務執行中ハ勿論將サニ執行ニ着手セントスル際ヲモ含ム從テ以上ノ二場合ニ該當セサル場合ニ於テハ縱令公務員タル資格アル者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加フルモ本罪ヲ構成セス而シテ所謂「職務ノ執行」トハ公務員カ適法ニ其職務ヲ執

行スル場合ナルコトヲ意味ス適法ナル職務執行タルニハ(一)先ツ一般ニ其事務カ公務員ノ權限ニ屬スルヲ要スル外(二)其執行ノ方法等ニ付キ法律ニ特別ノ規定アル場合ニ於テハ其條件ヲ具備スルコトヲ要ス詳言スレハ一般ニ公務員ノ權限ハ法律ニ定メタル土地ノ管轄及ヒ事物ノ管轄ノ二方面ヨリ制限ヲ受クルカ其制限ノ範圍外ニ於テハ權限ナキト同時ニ若シ其執行ノ方法等ニ付キ特ニ法律ニ定メアル場合ニ於テハ之ニ遵由スルニアラサレハ適法ナル職務執行ト云フヲ得ス例セハ東京地方裁判所判事ハ法律上東京地方裁判所ノ管轄區域內(即チ土地ノ區域ノ制限)ニ於ケル民、刑事ニ付キ裁判ヲ爲スノ權限(即チ事物ノ制限)アリ故ニ東京地方裁判所ノ判事ハ東京地方裁判所ノ管轄區域外ノ事件ニ付テハ裁判スルノ權能ナキト同時ニ東京地方裁判所ノ管轄區域內ニ於ケル事項ニ係ルト雖モ行政訴訟事件ニ付テハ裁判權ナキカ如ク又豫審判事カ捜査ノ爲メ臨檢スルニ方リテハ立會人アルヲ要ス又巡査カ令狀執行ノ爲メニスル家宅捜査ハ通例日中ニ限ルカ故ニ豫審判事カ立會人ナクシテ捜査シ巡査カ夜間ニ於テ捜査スルカ如キハ法律ニ定メタル要件ヲ具備セサル行爲ニシテ適法ナル職務執行ナリト云フヲ得サルカ如シ從テ法律上適法ナル職務ノ執行ト云フ可ラサル公務員ノ違法行爲ニ對シテハ亦本罪ノ成立セサルコト勿論ナリトス

第二要件 公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト、暴行又ハ脅迫ノ意義ニ付テハ曩ニ第九十條ニ付テ云ヘルニ同シケレハ再說セス而シテ舊刑法ニ於テハ暴行脅迫ノ結果公務員ノ職務執行ヲ妨害シタルニ反シ本法ニ於テハ暴行脅迫ヲ加ヘタル以上ハ此結果ヲ惹起シタルコトヲ要セスシテ本罪ノ既遂トナル從テ其執行ヲ妨害スルノ意思ニ出テタルト否トヲ問ハサルカ故ニ例セハ平生ノ私怨ヲ報センカ爲メニ偶職務執行中ナル公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル場合ノ如キモ亦本罪ヲ構成スルヲ妨ケス

二 處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス蓋シ本罪ヲ犯スニ至レル動機ハ一ニ私利私怨ヲ目的トセルニ限ラス或ハ公共的ノ意味ニ於テ止ムヲ得サルニ出テタル場合モ亦少カラサル可キヲ以テ法律ニ懲役刑ノ外定役ナキ禁錮刑ヲ定メ以テ裁判所ヲシテ犯情ニ鑑ミ適宜其一ヲ撰擇處斷セシメントスルナリ

第二項 本項ハ公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サヽラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト

處分トハ左ノ如シ

一、成立要件、本罪ハ(一)公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サヽラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メナルコト、(二)公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲サヽラシムル爲メナルコト、

此目的ヲ以テ爲シタルコトヲ要スルカ故ニ若シ此目的ヲ缺如センカ他罪トナルハ格別本罪ヲ構成セス而シテ所謂「處分」トハ公務員タル者ノ職權內ニ屬スルモノナルコトヲ要スト解ス何トナレハ公務員ハ其有スル職權ノ範圍內ニ於テノミ處分權ヲ有スルモノナルカ故ニ其範圍外ニ於テスル處分ハ法律上之ヲ處分トシテ觀ルコトヲ得サレハナリ從テ公務員ヲシテ其職權內ニ屬セサル處分ヲ爲サシメ若クハ爲サヽラシメタル場合ニ於テモ亦本罪ヲ構成セサルモノトス

第二要件　公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト、

前項ノ罪ニ於テハ職務執行中ノ公務員ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトヲ要スルニ反シ本罪ハ公務員ノ職務執行中ナルト否トヲ問ハス前述ノ目的ヲ以テ之ニ暴行又ハ脅迫ヲ加フルヲ以テ足ル而シテ又暴行脅迫ヲ加ヘタル以上ハ其所期ノ目的ヲ遂クルト否トハ本罪ノ成立ニ影響ナシ

二　處分　本項ノ罪ヲ犯シタル者ハ科刑前項ノ罪ニ同シ

第九十六條　公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效ナラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ無效ナラシメタル罪ノ規定ナリ(舊刑法第百七十四條乃至第百七十六條)

一、成立要件　本罪ハ(一)公務員ノ施シタルモノナルコト、(二)封印又ハ差押ノ標示ナルコト、(三)之ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ無效ニ歸セシメタルコトノ三要件ヨリ成ル

第一要件　公務員カ施シタルモノナルコト、「公務員ノ施シタル」トハ公務員カ法令ニ因リ其職務ノ執行トシテ特ニ施シタルモノナルコトヲ意味ス從テ一私人ノ施シタルモノハ之ニ含マレサルト同時ニ公務員ノ施シタルモノナリト雖モ其公務員ノ職權內ノ行爲ニ基カサル場合ハ本條ニ所謂公務員ノ施シタル封印

ト謂フコトヲ得ス蓋シ此ノ如キハ之レ國家公權ノ行使ト目ス可ラサルヲ以テナリ然レトモ職權アル公務員カ其執行トシテ爲シタル以上ハ縱令誤テ差押フ可ラサル他人ノ物ニ封印ヲ施スコトアルモ之ヲ以テ職務ノ執行ニ非スト云フヲ得サルカ故ニ之ヲ破棄スレハ則チ本罪ヲ構成スヘシ

第二要件 封印又ハ差押ノ標示ナルコト、本條ノ罪ハ目的物ヲ封印又ハ差押ノ標示ノ二種ニ限ル「封印」トハ或ル物件ニ對スル私人ノ任意處分ヲ禁止スル爲メニ物件ヲ封シ之ニ捺印スルヲ謂ヒ「差押ノ標示」トハ或ル物件ノ占有ヲ一時私人ヨリ公務員ノ手ニ移シタルモノナルコトヲ表示スル標徵ニシテ共ニ公務員ノ職務執行ノ徵證ナリトス差押ハ通常封印ヲ施スコトニ因リテ爲スト雖モ物ノ性質ニヨリテハ單ニ封印以外ノ標示ニ因リ之ヲ爲ス場合アリ即チ差押物件ナルコトヲ表示シアル紙片ヲ物件ニ貼付スルカ如キハ其例ナリ

第三要件 損壞又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ差押ノ標示ヲ無效タラシメタルコト、茲ニ所謂「損壞」トハ曾テ他ノ條下ニ於テ述ヘタルカ如ク物質的ニ破壞毀損ヲ加フル義ニシテ封印又ハ差押ノ標示ヲシテ無效タラシムル行爲ノ例示ナリ而シテ法文ニハ「其他ノ方法」トアリテ其方法ヲ限定セサルカ故ニ如何ナル方法ナルヲ問ハス封印又ハ差押ノ標示ヲ無效タラシムレハ則チ本罪成立ス例セハ封印又ハ標示ヲ墨汁等ニテ塗沫スルカ如キ、之ヲ剝離シテ捨ツルカ如キ又ハ容器ノ一部ヲ破壞シテ在中品ヲ密カニ取去ルカ如キ一々枚擧ニ遑アラス

第六章 逃走ノ罪

一 本章ノ逃走罪ハ公ノ拘束力ヲ無視スル行爲ヲ處罰スルモノニシテ前章ノ罪ト共ニ國家公權ニ對スル侵害罪ナリ蓋シ罪ノ有無ニ拘ラス苟クモ國家公權ヲ以テ適法ニ拘束セラレタル以上ハ適法ニ解放セラルヽヲ俟タサル可ラス論者或ハ被告人カ自ラ免レントスルハ人情ナリ否其天賦ノ權利ナリ從テ被告人自ラ逃走スルヲ罰スルカ如キハ非理ナリト論シ之ヲ實現セル立法例アリト雖モ此ノ如キハ國家刑罰權ノ行使ヲ阻害スルノ甚シキモノニシテ一顧ノ値ナキ感情論タルヘキノミ故ニ諸國立法例ノ最大多數ハ被告人自ラ逃走シタル場合ヲモ猶罪トシテ處罰スルナリ況ンヤ他人カ拘禁ヲ破リ擅ニ被告人ヲ拉シ去ルカ如キニ於テオヤ是本章規定アル所以ナリ

二、本章ハ舊刑法第三章第三節囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪ト題スル規

定中第百四十二條乃至第百五十條ヲ修補シタルモノニシテ單ニ之ヲ逃走罪ト題セシハ本章ハ囚徒ト目ス可ラサル者ニ關スル場合ヲモ包含スルヲ以テ舊法ノ如ク囚徒逃走罪ト稱スルハ不適當ナルヲ以テナリ

三　本章規定スル所實ニ六條其内容ヲ類別スレハ(一)單純逃走罪(第九十七條)、(二)複雜逃走罪(第九十八條)、(三)囚徒奪取罪(第九十九條)、(四)逃走援助罪(第百條)及ヒ(五)看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタル罪(第百一條)ノ五トナス以下各本條ニ付キ略説ス可シ

第九十七條　既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ既決、未決ノ囚徒自身カ逃走シタル場合ノ一ニシテ次條ニ規定シアル場合ニ對シ學説上之ヲ單純逃走ト謂フ(舊刑法第百四十二條第一項、第百四十四條)

一、成立要件　本罪ハ(一)既決、未決ノ囚人ナルコト(二)逃走シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　既決、未決ノ囚人ナルコト　「囚人」トハ法令ニ因リ監獄ニ拘禁セラレツツアル者ノ謂ニシテ既決、未決ノ別アリ

「既決囚」トハ既ニ裁判ニ因リテ其罪確定シ刑ノ執行ノ爲メニ監獄ニ拘禁セラレアル者ヲ謂フ故ニ裁判アルモ未確定ノ間ニ在ル者ハ所謂既決囚ニ非ス又監獄ニ拘禁セラレアルコトヲ要スルカ故ニ縱令判決確定スルモ未タ監獄ニ收容セラレサル者一旦入獄スルモ後ニ至リ假出獄ヲ許サレタル者ハ所謂既決囚ニ非ス然レトモ一旦監獄ニ收容シタル以上ハ常ニ監獄ニ在ルヲ要セサルカ故ニ裁判所ニ護送ノ途中ヨリ逃走シ又ハ外役中ニ逃走スルモ本罪ヲ構成スルヲ妨ケス「未決囚」トハ犯罪ノ嫌疑ノ爲メニ法令ニヨリ監獄ニ拘禁セラレ未タ裁判確定セサルモノヲ謂フ從テ未タ裁判ヲ受ケサルモノハ勿論縱令裁判ヲ受クルモ未タ確定セサル間ニ於テハ未決囚タリ然レトモ未決囚タルニハ現ニ監獄ニ拘禁セラレアルコトヲ要スルカ故ニ保釋又ハ責付ノ手續ニ因リテ出獄中ノ者又ハ令狀執行ノ結果トシテ裁判所ニ引致セラルヽ途中ニ於テ逃走スルモ本罪ヲ構成セス

第二要件　逃走シタルコト　「逃走」トハ不法ニ監督者ノ監督範圍ヲ脫逸スルヲ謂フ而シテ監督ノ及フ範圍ハ事實問題ニ屬スルヲ以テ各場合ニ就キ之ヲ決定セサル可ラス故ニ例セハ外役ニ從事セル場合ニ於テハ監督者ノ實力ノ及ハサル域ニ達シタルヲ以テ逃走ノ既遂アリト云ヒ得可ク獄内ニ在ル場合ニ於テハ監

獄ノ構内ハ通常監督力ノ及フ可キ範圍ナリト認メ得可キカ故ニ監獄構内ヨリ脫逸シタルトキヲ以テ逃走ノ既遂アリト云フヲ得ヘキカ如シ

二、處分　本罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條　既決、未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ前條ト共ニ被拘禁者カ自ラ逃走シタル場合ノ規定ニシテ唯前條ト異ナル點ハ其方法カ複雜セルニアリ故ニ學說上之ヲ複雜逃走ト稱ス(舊刑法第百四十二條第二項)

一、成立要件　本罪ハ(一)既決、未決ノ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者ナルコト、(二)拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シタルコト及ヒ(三)逃走シタルコトノ三要件ヨリ成ル

第一要件　既決、未決ハ囚人又ハ拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者ナルコト　既決、未決ノ囚人ノ意義ニ付テハ既ニ前說セリ、「拘引狀ノ執行ヲ受ケタル者」トハ即チ拘引狀ニ依リ引致セラレタル者ヲ謂フ而シテ拘引狀トハ刑事訴訟法ニ所謂令狀ノ一種ニシテ之ヲ發スル權限アル官吏、發ス可キ場合、效力及ヒ執行者ニ就テハ法律ニ之ヲ定ム(刑事訴訟法第七十一條乃至第七十九條參照)從テ不適法ナル拘引狀ハ拘引狀トシテ法律上效力ナキモノナルヲ以テ此場合ニ於テハ本罪ヲ構成セサルコトヽナル

第二要件　拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シタルコト　「拘禁場」トハ監獄、留置場其他被拘禁者ヲ拘禁ス可キ場所ノ謂ニシテ拘禁場ト一體ヲ爲ス可キ外部ノ圍障(例、板塀等)ヲ含ム「械具」トハ身體拘束ノ用ニ供スル器具ヲ謂フ例セハ連鎖、施鈦及ヒ捕繩等之ナリ「損壞」及ヒ「暴行、脅迫」ノ意義ニ付テハ既ニ前述セルヲ以テ再說セス唯損壞又ハ暴行、脅迫ハ逃走ノ手段トシテ加ヘラレタルコトヲ要スルカ故ニ脫獄者互ニ先ヲ爭ヒ爲メニ戸障子等ヲ破リシカ如キ場合ヲ含マス又二人以上通謀スル」トハ二人以上ノ被拘禁者間ニ於テ脫獄ノ意思ヲ交換謀議スルヲ謂フ二人以上トアルカ故ニ二人ニテモ足ルト雖モ通謀スルコトヲ要スルカ故ニ一人カ破獄脫走シタルニ乘シ相續テ數人逃走スルモ本罪ニ該ラス

第三要件　逃走シタルコト　本要件ハ前條ニ同シケレハ再說セス

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス蓋シ前條ノ單純逃走ニ比シ情狀重キカ故ニ科刑モ亦重キナリ

第九十九條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ他人カ被拘禁者ヲ奪取シタル場合ノ規定ナリ(舊刑法第百四十七條前段)

一、成立要件　本罪ハ(一)法令ニ因リテ拘禁セラレタル者ニ係ルコト、(二)第三者カ之ヲ奪取シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件　法令ニ因リテ拘禁セラレタル者ニ係ルコト　玆ニ所謂「法令ニ因リ拘禁セラレタル者」トハ其範圍頗ル廣ク法令ノ規定ニ因リ其自由ヲ拘束幽禁セラレ當該官廳ノ實力支配ノ下ニ置カレタル一切ノ者ヲ指稱ス故ニ前條ニ所謂既決未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者ハ勿論罰金完納不能ノ場合ニ於テ刑法第十八條ニ因リ勞役場ニ留置セラレタル者、裁判所ヨリ審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シタル者ト認メラレ裁判所構成法第百九條ニ因リ拘留セラレタル者又ハ感化法第十條ニ因リ假留置ヲ執行セラレタル者等ノ如キヲモ包含スルモノトス

第二要件　第三者カ之ヲ奪取シタルコト　「奪取」トハ自ラ逃走ヲ企テサル被拘禁者ヲ第三者カ監督者ノ實力支配下ヨリ離脱セシムルノ謂ニシテ法文別ニ其手段ヲ制限セサルカ故ニ監督者ニ對シテ暴行、脅迫ヲ加フルト、詭計ヲ用フルト其他ノ方法ニ因ルトヲ問ハス從テ監視者ノ隙ニ乘シテ潛カニ之ヲ誘出スルモ猶本罪ヲ構成スヘキナリ

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ被拘禁者ノ逃走ヲ幇助シタル場合ノ規定ニシテ總則從犯ニ對スル一ノ例外ヲ爲スモノトス(舊刑法第百四十六條、第百四十七條)

第一項　本項ハ被拘禁者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ以テ幇助シタル場合ニシテ第二項ニ比シ其情稍輕キナリ

一　成立要件　本項ノ罪ハ(一)法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的

ヲ以テシタルコト、(二)器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テシタルコト

本罪ハ此目的ニ出ツルコトヲ要スルカ故ニ此目的ヲ缺如セハ縱令牢獄ヲ破壞スルニ足ル可キ器具等ヲ被拘禁者ニ給與シタル事實アルモ他ノ別罪ヲ構成スルハ格別本罪タラス例セハ在監人ヲシテ他ノ同房者ヲ殺害セシムル目的ヲ以テ鋭利ナル刃物ヲ給與シタルカ如キ場合ニ於テハ殺人幇助罪タルヘキモ本罪タラサルカ如シ然レトモ此目的アリタル以上ハ被拘禁者ト犯人トノ間ノ通謀ノ有無ハ本罪ノ成立ニ影響ナシ

第二要件 器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲アリタルコト 「逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲」トハ法文ニ何等ノ制限ナキヲ以テ苟クモ被拘禁者ノ逃走ノ助トナルヘキ一切ノ行爲ハ擧テ之ニ包含セラルヘシ即法文ニ例示セル器具ノ給與ノ如キハ勿論鎖鑰ヲ開キ與フルカ如キ、逃走ノ方法又ハ順路ヲ指示スルカ如キ一々枚擧ニ遑アラス而シテ苟クモ被拘禁者ヲシテ逃走セシムル目的ヲ以テ如上ノ行爲ヲ爲シタル以上ハ被拘禁者カ逃走シタリヤ否ヤハ本罪ノ成立ニ影響ナキコト學說判例ノ軌ヲ一ニスル所ナリトス

二 處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二項 本項ハ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ暴行、脅迫ヲ加ヘタル場合ノ規定ニシテ前項ニ比シ情狀重キ場合ナリ

一 成立要件 本項ノ罪モ亦(一)前項ノ目的ヲ以テシタルコト(二)暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコトノ二要件ヨリ成ル

第一要件 前項ハ目的ヲ以テシタルコト、茲ニ所謂「前項ノ目的」トハ即チ法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ナルコトヲ指稱ス故ニ其說明ニ關シテハ前項ニ付テ云ヘル所ヲ參照スヘシ

第二要件 暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト 「暴行、脅迫」ノ意義ニ付テハ既ニ第九十五條ニ付テ述ヘタル所ニ同シ而シテ暴行、脅迫ハ被拘禁者ノ逃走ヲ容易ナラシムル爲メニ其監督者ニ對シテ加ヘタルコトヲ要スルカ故ニ被拘禁者ニ對スル暴行、脅迫ヲ含マサルモノトス

二 處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス蓋シ本罪ハ前項ノ罪ニ比シ情狀重キカ故ニ前項ノ刑ニ比シ重キナリ

第百一條　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ看守又ハ護送ノ職責ニ在ル者被拘禁者ヲ逃走セシメタル場合ノ規定ナリ

(舊刑法第百四十八條)

一　成立要件　本罪ハ(一)法令ニ因リ拘禁セラレタル者ニ係ルコト(二)之ヲ看守又ハ護送スル者ナルコト及ヒ(三)被拘禁者ヲ逃走セシメタルコトノ三要件ヨリ成ル

第一要件　法令ニ因リ拘禁セラレタル者ニ係ルコト　是レ既ニ述ヘタル所ナレハ再說セス

第二要件　看守又ハ護送スル者ナルコト　「看守又ハ護送スル者」トハ法令ニ因リ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル任ニ當リタルモノヲ指稱ス從テ司獄官警察官憲兵等ノ公務員カ被拘禁者ヲ看守又ハ護送スル際之ヲ逃走セシメタル場合ハ勿論非公務員ト雖モ法令上特ニ其任ニ當リタル場合ニハ本罪ノ主體タルヲ得ヘシ

第三要件　被拘禁者ヲ逃走セシメタルコト　本罪ハ被拘禁者ヲ逃走セシメタルコトヲ要スルカ故ニ被拘禁者逃走未遂ノ狀況ニ在ル間ハ本罪モ亦未遂タリ

二　處分　本罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス蓋シ本罪ハ看守又ハ護送ノ任ニ在ル者其犯シ易キ地位ヲ利用シテ違法ノ行爲ヲ敢テシタルモノニシテ情狀最モ重キカ故ニ法律ハ特ニ之ニ重刑ヲ科シタルナリ

第百二條　本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰スヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ總則第四十四條アル結果トシテ特ニ之ヲ明示セルノミ

第七章　犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

一、本章規定ノ犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪ハ國家刑罰權ノ行使ヲ阻害スル犯罪ニシテ學說上之ヲ事後從犯ト稱シ總則從犯ノ一種トシテ規定スル立法例アリト雖モ正犯既ニ成立シタル以後ニ於テ從犯ナルモノ成立シ得ヘシトナスカ如キハ到底從犯ノ觀念ト相容レス故ニ本法ハ舊刑法ト共ニ之ヲ特別罪トシテ規定シタリ

二、舊刑法第三編第三章第三節ハ囚徒逃走ノ罪及ヒ犯人ヲ藏匿スル罪ト題シテ囚徒逃走ニ關スル規定ト犯人藏匿ニ關スル規定トヲ併セアリシモ本法ハ之ヲ修